

始



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5



33/131

女子美術學校
千代田高等女學校
講師

富田輝夫 著

絞染圖案集 第三集

說明書

東京 大倉書店發行

緒言

著者は引續き絞り染圖案第一集並に第二集を編纂したるが其續編として茲に第三集を公にす、

即ち前集に於て屢々述べたるが如く本集も亦直ちに實用に供せん爲専ら工業上の要件を缺かざらん事に留意して描きたるものなり故に全三集を通じて之を其儘若くは必要に際し適當に便化して用ふるときは一般の場合には差支なからんと信ず、

若し夫れ至らざる點あらば他日版を重ねるに及びて斧正を加ひ以て完成を期せんことをす。

大正九年八月

著者識

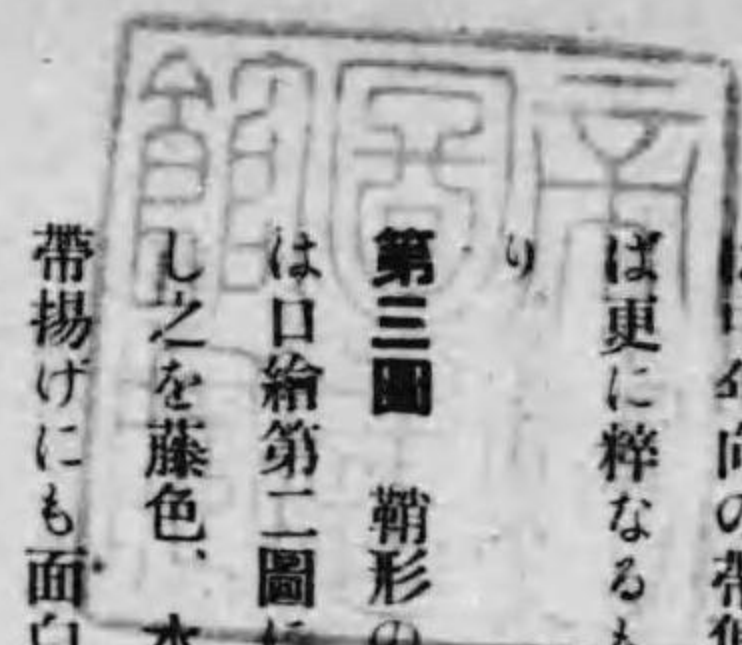
大正
9. 4. 6
内交



絞り染圖案集第三説明

第一圖 花の輪廓に平縫を施して捲揚げ絞りとなし點の部分鹿の子絞りにすべし。主として長襦袢又は帶側向の柄なれ共地色を紫紺系統に染め出し花の部分の水淡黄若くは青磁等に現せば子供用の被布にも適當なる模様となるべし。

第二圖 渦卷を白目上りの鹿の子に絞り地色を紺系統に染め出せば中年向の帶側に適當なる結果を得べし。又之を單衣物に應用せば更に粹なるものとなる。口繪第一圖は即ち之を用ひたるものなり。



第三圖 鞘形の全部を鹿の子絞りにし地色を燕脂色に染め出す時は口繪第二圖に示せる如く若向の帶側に適當なるものとなる。若し之を藤色、水淡黄、搦色、淡オリーブ、緋、等に染め上ぐれば帶揚げにも面白し。

第四圖 何れも包巾紗又は風呂敷柄にして、(イ)は破れ垣を鹿の子絞りとし菊を巻揚げ絞りにし、(ロ)なる古錢は全體を鹿の子絞りにすべし。

第五圖 並巾兵兒帶の總絞り柄にして雨の全體を鹿の子に絞り地色を濃紺に染め上ぐれば頗る瀟洒なるものとなる。又之を單衣物に用ふれば一層粹なる結果を得らる。

第六圖 (イ)(ロ)(ハ)共に半衿模様にしてコボレ松葉及び蜻蛉は全體を鹿の子に絞り、花菱は巻揚げ又は鹿の子絞りにすべし。

第七圖 先づ水の線に平縫を施し之を大小任意の鹿の子に絞り然

二
る後年齢に依り適當なる染め分け假例は藤色と黒、藤色と淡黄、淡黄と茄子紺、搗色と赤、藍色と茶、等にする時は帶側又は長襦袢に適當なるものとなる。

第八圖 主として帶柄にして全體を鹿の子絞りとし、地色は年齢により一様ならざるも藤色、淺黄、暗赤、紫紺、茄子紺、紺等を適當とす、又一般に淡色に染め上ぐれば帶揚げにもふさはしかるべし。

第九圖 唐草を鹿の子絞りとし、三筋を疋田又は小さき捲あげ絞りとして地色を鼠、鐵色、焦茶、紺等に染め上ぐれば男物の襦袢の袖若くは稍、地味向なる帶側模様となる。

第十圖 (イ)(ロ)共に袋物用の模様にして(イ)は全體を鹿の子絞りとするか又は點のみを鹿の子絞りとしてクローバーを色替りの捲き上げとすべし、(ロ)は渦卷を鹿の子絞りとし鱗形を色替り捲き上げとすべし。

第十一圖 各種の模様を集めたるものにして(イ)なるト字記號は白目多き鹿の子絞りとして巾紗又は風呂敷の隅に用ふるを得べく(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)は鹿の子並に捲き上げに絞り隨意のものに應用すべし。

第十二圖 全體を鹿の子絞りとし紺地に白目上り若くは藍目上りとする時は極めて面白き單衣物柄となる、又之を總絞りの兵兒帯に應用して紺地に茶目上りとする時は更に滋味ある結果を得らる。

第十三圖 麻の葉の全體を鹿の子絞りとし之を帶側に用ふるとせ

ば一般に中色又は濃色に染め上ぐるを可とし帶揚に用ひんとする時は赤を除くの外一般に淡色に染め上ぐるを適當とす。

第十四圖 (イ)(ロ)(ハ)(ニ)は何れも模様の單位を集めたるものなれば之を適當に散點して鹿の子、捲あげ、縫絞り等にすれば種々なるものに應用するを得べく、(ホ)なる四君子は鹿の子並に捲き上げに絞り、座ふさん、又は風呂敷等に用ふべし。

第十五圖 主として帶側向にして七寶、青海波、麻の葉は何れも鹿の子絞りとし雲の輪廓に平縫を施し之を固く引き締めて適當なる地色に染め上ぐべし。

若し雲取りを色替りに染め出さんせせば先づ適當なる色相に下染めをなし然る後其の部分に竹皮又は防水紙を宛て固く捲きつけて防染し、更に地色を染め出すものなり。

第十六圖 (イ)(ロ)何れも半衿の總模様にして全體を鹿の子絞りとし藤色、紫、紫紺、茄子紺、鼠、焦茶、黒等適當なる色に染め上ぐべし。

第十七圖 長襦袢又は帶側等に適する極めて面白き模様にして千鳥は鹿の子絞りとし籠目は其の輪廓に平縫を施して地色と調和する色替りの捲揚げ絞りとすべし。

第十八圖 鱗全體を鹿の子絞りとし主として單衣物等の着尺物に用ふるものなれ共或る場合地味向の兵兒帯に飛模様として用ふるも差支なし。

第十九圖 (イ)(ニ)(ホ)(ト)(チ)何れも鹿の子、捲揚げ、平縫絞り等にして隨意のものに應用すべし、(ロ)なる鈴蘭は鹿の子並に捲き

上絞りを以て小風呂敷に(ハ)なる都鳥は鹿の子竝に捲き上げ絞りを以て手提袋等に用ふるを得べし。

第廿圖 若向の帯側、羽織裏地、又はふとん側等にふさはしき柄にして其の輪廓に平縫を施して捲き揚絞りをなすべし口繪第三圖は之を普通の場合に反對に抜染絞りに應用したるものなり。

第廿一圖 (イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)は種々なるものに用ふるべく各種の資料を集めたるものなれば、鹿の子、捲揚げ、縫絞り等を以て隨意に應用すべし、(子)は鹿の子絞りとし兵児帯の見切(即ち兩端)にも面白かるべし。

第廿二圖 鹿の子、摘み縫、又は所謂筋三浦に絞りにて藍、紺等に染め上ぐれば單衣物に適當なる模様となる。

第廿三圖 松川菱を鹿の子絞りの詰となし之を口繪第四圖に示せる如く鼠と黒の段染とすれば男子用の長襦袢又は帯側等に適當なる頗る遊味ある結果を得べし、若し若向にせんとせば色合を適當に變更すべし。

第廿四圖 (イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)小物用として種々なる模様を集めたるものなれば鹿の子、疋田、捲揚げ、縫絞り等を以て適當に應用すべし。

第廿五圖 ふとん側、又は子供の兵児帯、襦袢の袖等に適當なる模様にして點を鹿の子に絞る、周圍を平縫にしたる後引き締めて染むるものなれど之を手軽く面白く染め出さんとせば鹿の子を除き單に色替りの捲揚げにするも差支なし。

第廿六圖 全體を白目上りの鹿の子絞りとし紺地又は藍地として

主に單衣物等に應用すべし。

前述の他、三浦絞りの詰、柳絞り、嵐絞り、板締絞り、共絞り、雲形絞り等の類は既に第一集竝に第二集に於て述べたる如く普通は下繪の必要なしと雖も、三浦又は柳等を或る部分にのみ絞り出さんとする時は言ふ迄もなく其の部分に適當なる目標を附け置く事肝要なり。

又板締絞りに類したるものは布を幾何的に折り疊みて板若くは棒を當てる時豫め其の結果を考慮して行ふべきなり。

下繪の附け方

下繪を布面に附けんとする時は、青花(又は藍紙)と稱する色紙の溶液を以て描寫するものなれど地厚物にて下繪の寫らぬ場合若くは専門的に行はんとする時は更に之を型紙として丸刷毛を以て搨込むを普通とす、斯くして附けたる下繪は染色を行ふに先ち暫時水に浸し置けば忽ちにして消え失せるものなり。

◎ 友師の者究研藝手 ◎

- 伊藤小川著 裁縫おさいく物 定價金一圓八十錢 郵税金十二錢
- 伊藤小川著 續裁縫おさいく物 定價金一圓二十錢 郵税金十二錢
- 女子普及會編 新裁縫小物全書 定價金二圓二十錢 郵税金十二錢
- 木村淡香著 和裁縫小ざし細工 定價金一圓六十錢 郵税金十二錢
- 遠藤久子共著 大隈裁縫おさいく物 定價金一圓七十錢 郵税金十二錢
- 中村興湖共著 家庭袋物細工全書 定價金一圓二十錢 郵税金十二錢
- 山崎なつ子共著 袋物細工の枝折 定價金一圓二十錢 郵税金十二錢
- 吉岡房次郎著 技術撮み細工全書 定價金一圓七十錢 郵税金十二錢
- 津田敏子著 ろざし圖案集 定價金二圓八十錢 郵税金十二錢
- 本村淡香著 刺繡圖案集 定價金一圓三十錢 郵税金十二錢
- 森本義子著 家庭編物全書 定價金一圓六十錢 郵税金十二錢
- 木村淡香著 編物圖案集 定價金一圓四十錢 郵税金十二錢
- 齋藤圓子著 女子包結之栞 定價金一圓二十錢 郵税金十二錢
- 寺西敏子著 女子九重編造花法 各節 定價金一圓二十錢 郵税金十二錢
- 石野金子、尾家造花術全書 上、下、各 定價金一圓八十錢 郵税金十二錢
- 伊藤崇子著 改訂小兒洋服裁縫全書 定價金一圓三十錢 郵税金十二錢
- 伊藤崇子著 實用小兒和洋裁縫小物集 定價金一圓五十錢 郵税金十二錢
- 神田順子著 裁縫新教授書上巻 定價金一圓五十錢 郵税金十二錢

有 所 權 作 著

大正九年九月一日印刷
大正九年九月四日發行

絞り染圖案 第三集 定價金壹圓五拾錢

著 者 富 田 輝 夫

發 行 者 大 倉 保 五 郎

印 刷 者 村 田 豊 吉

印 刷 所 大 倉 印 刷 所

發 行 所 東 京 市 日 本 橋 區 通 一 丁 目 十 九 番 地
大 倉 書 店

振替口座東京二三八番
電話本局 四一四番
二四〇四番

富田輝夫著

絞り染圖案集

第一集 定價金壹圓五拾錢
第二集 各郵税金拾貳錢

◎ 友師の者究研藝手 ◎

伊藤小川、裁縫おさいく物	定價金一圓八十錢
高田共著、續裁縫おさいく物	定價金一圓二十錢
伊藤小川、裁縫小物全書	定價金一圓二十錢
女子普及會編、裁縫小ざし細工	定價金一圓六十錢
本村淡香著、裁縫おさいく物	定價金一圓七十錢
高田久子共著、袋物細工全書	定價金一圓二十錢
中村興湖共著、袋物細工の枝折	定價金一圓二十錢
山田きよ子共著、ろざし圖案集	定價金一圓八十錢
吉岡房次郎著、刺繡圖案集	定價金一圓八十錢
津田敏子著、刺繡圖案集	定價金一圓八十錢
本村淡香著、編物圖案集	定價金一圓六十錢
森本義子著、編物圖案集	定價金一圓六十錢
木村淡香著、結之架	定價金一圓四十錢
齊藤圓子著、女子九重編造花法	定價金一圓二十錢
寺西藤子著、家庭造花術全書	定價金一圓八十錢
石野金子、小兒和洋裁縫小物集	定價金一圓五十錢
伊藤孝子著、裁縫新教授書上巻	定價金一圓五十錢
伊藤孝子著、裁縫新教授書下巻	定價金一圓五十錢

著者所有

大正九年九月一日印刷
大正九年九月四日發行

絞り染圖案 第三集 定價金壹圓五拾錢

著者 富田輝夫

發行者 大倉保五郎

印刷者 村田豊吉

印刷所 大倉印刷所

發行所 大倉書店

東京市日本橋區通一丁目十九番地
振替口座東京二三八番
電話本局 四一四番
二四〇四番

富田輝夫著
絞り染圖案集

第一集 定價金壹圓五拾錢
第二集 各郵稅金拾貳錢

國 冊 紙



東京女子高等師範學校講師
女子美術學校講師
千代田高等女學校講師

高橋岩次郎校訂
富田輝夫著

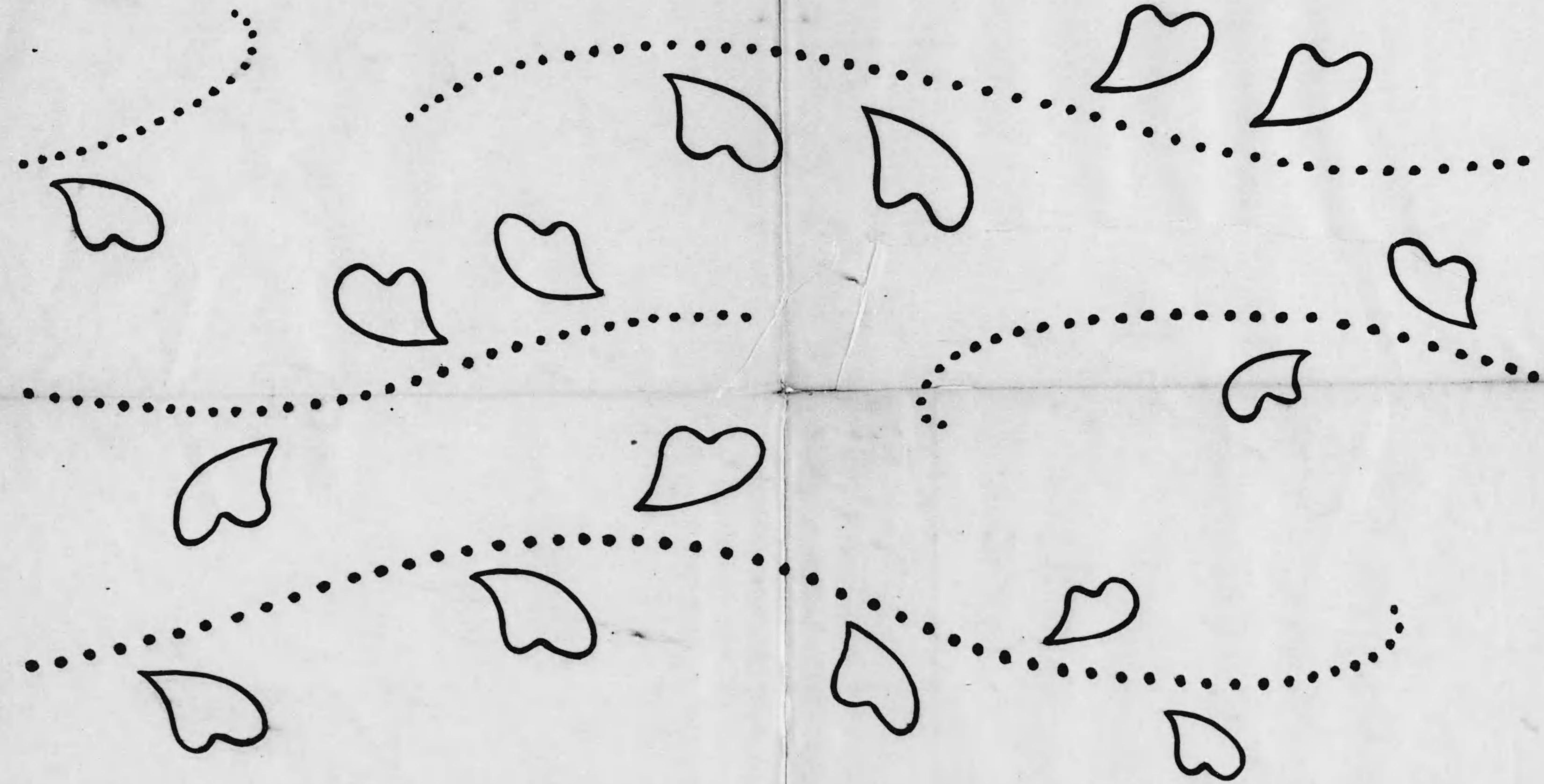
忽子
三版

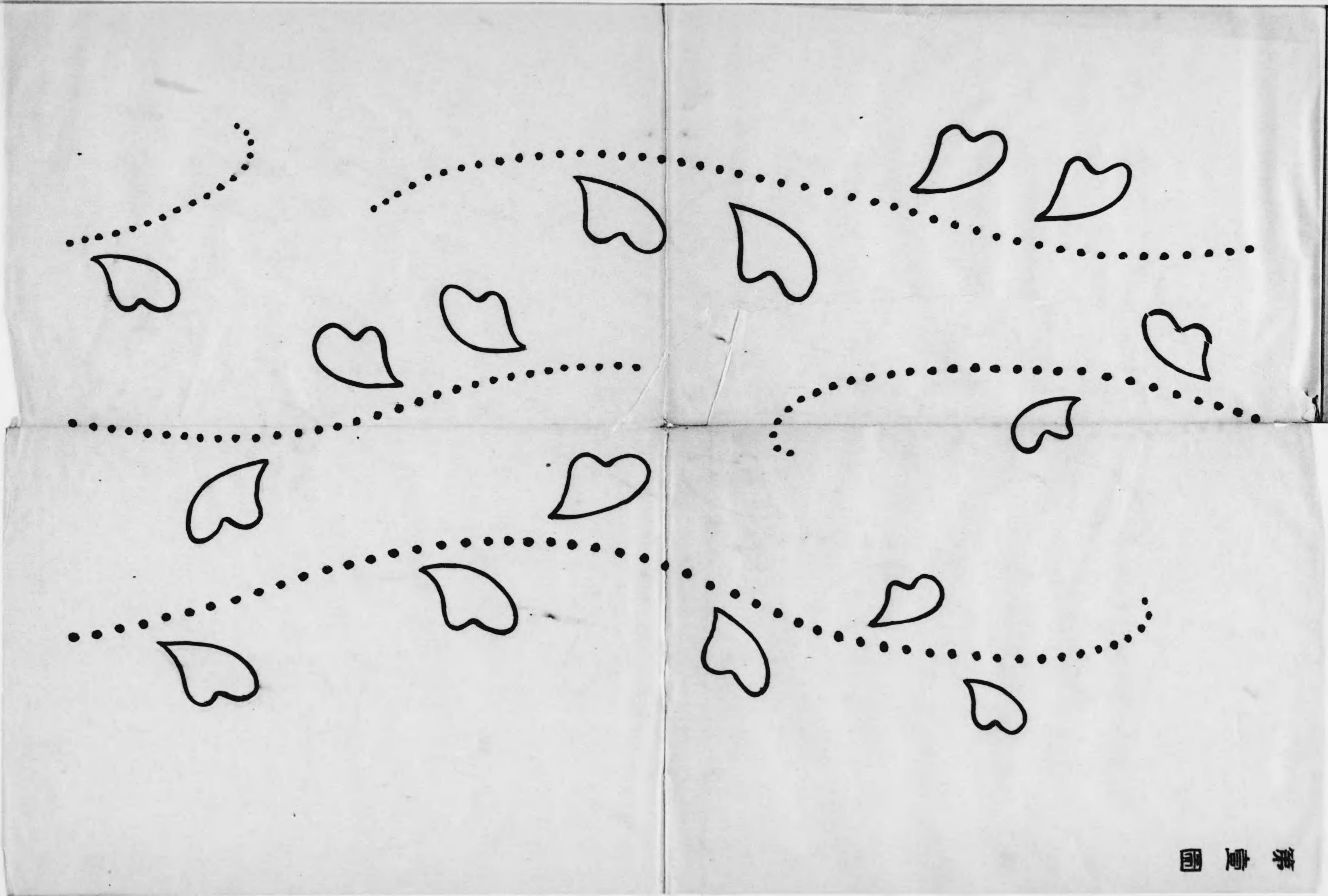
家庭 實用 染色工藝

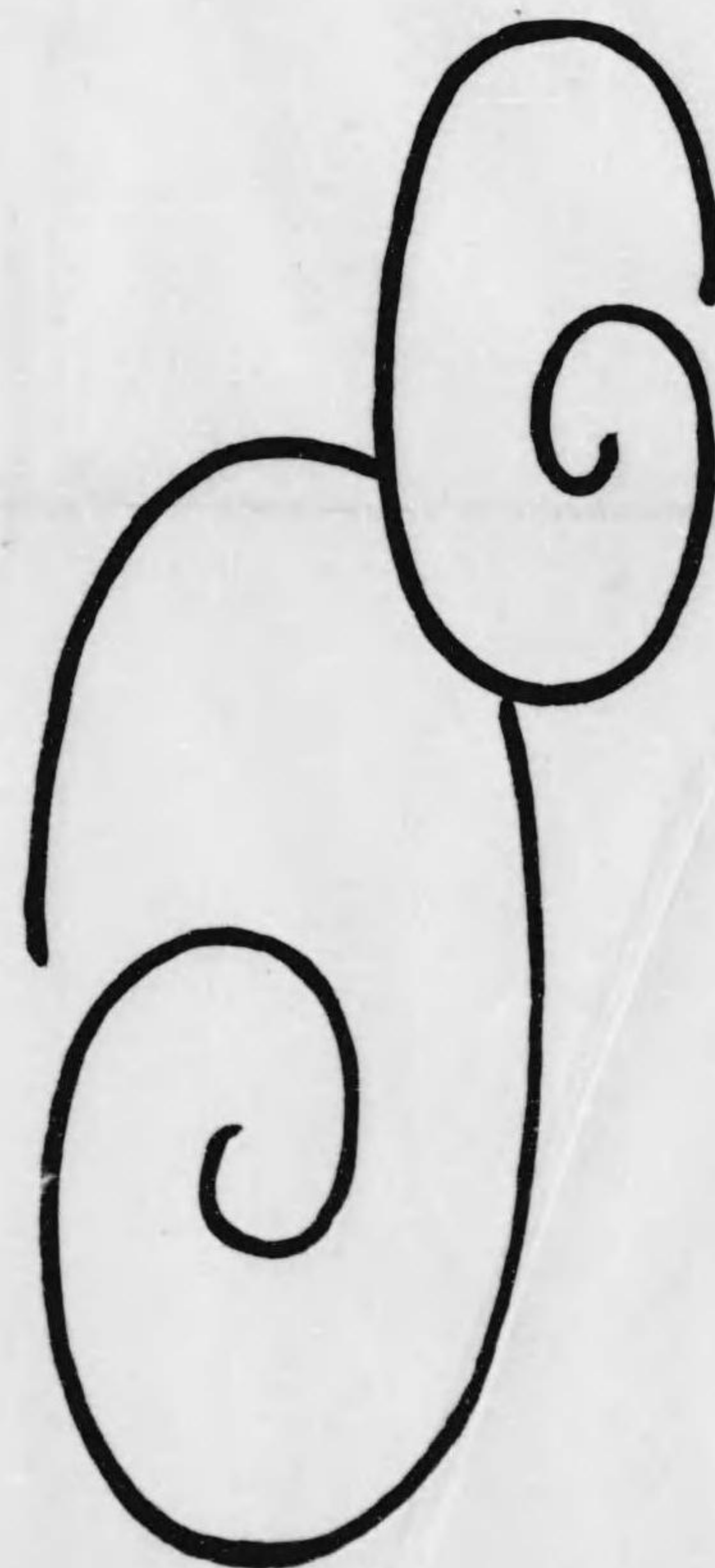
洋裝菊版布製全一冊紙數二百五十餘頁
定價金二圓二十錢 郵稅金十八錢

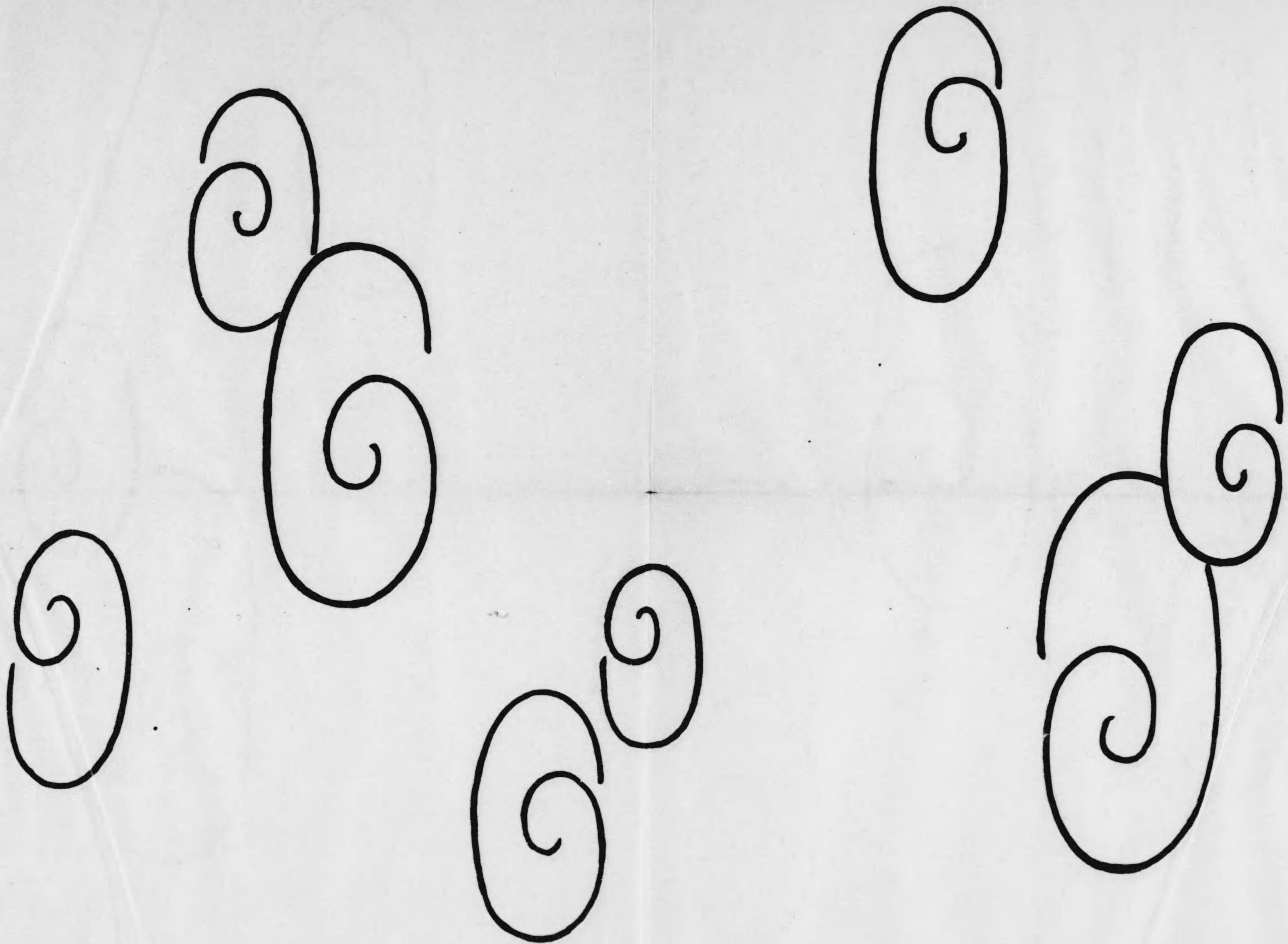
各女學校等に於て染色教授の必要なるは時代の要求なり。染色洗濯等の一般婦人に缺くべからざる書籍の中餘りに理論に走りたるは専門家以外には却つて不便を感ずるのみならず手輕く行ひがたき事多からん。然れども餘りに簡に過ぎたるものは亦以て得る所少なるべし。本書は著者が染色の教師として又染色業者として從來の實驗に基き之を一般の家庭並に女學校等に於て容易に行ひ得べき程度に豊富なる説明圖を挿入してその基礎より仕上げに至るまでを極めて實用的に而も懇切に編述せるものなれば家庭には最も必要なる寶典なり。希ふ一讀して趣味と實益を得られよ。

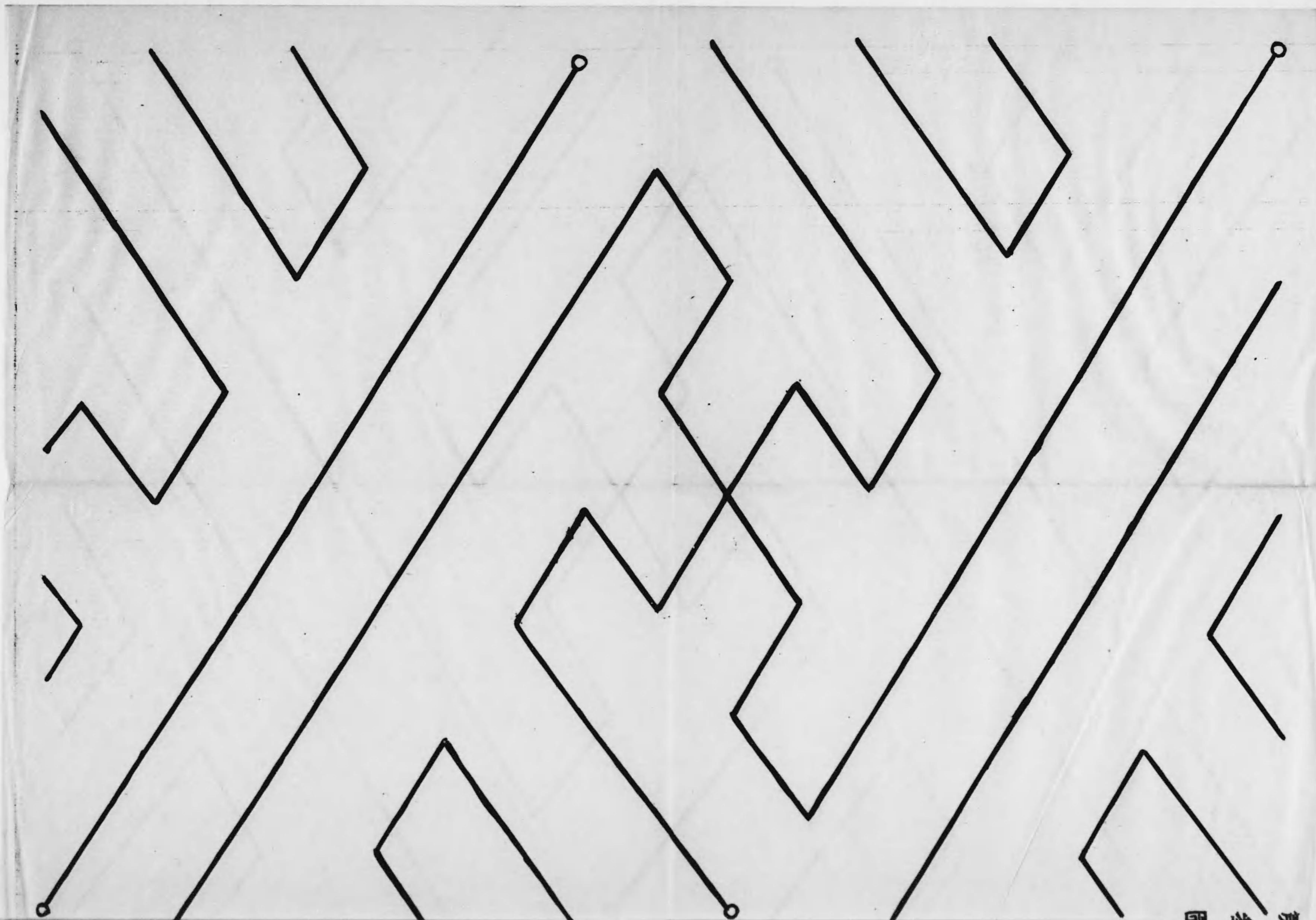
本書一度出で、好評湧くが如く現に東京女子高等師範家事科及其他諸校の參考書として採用せらる。



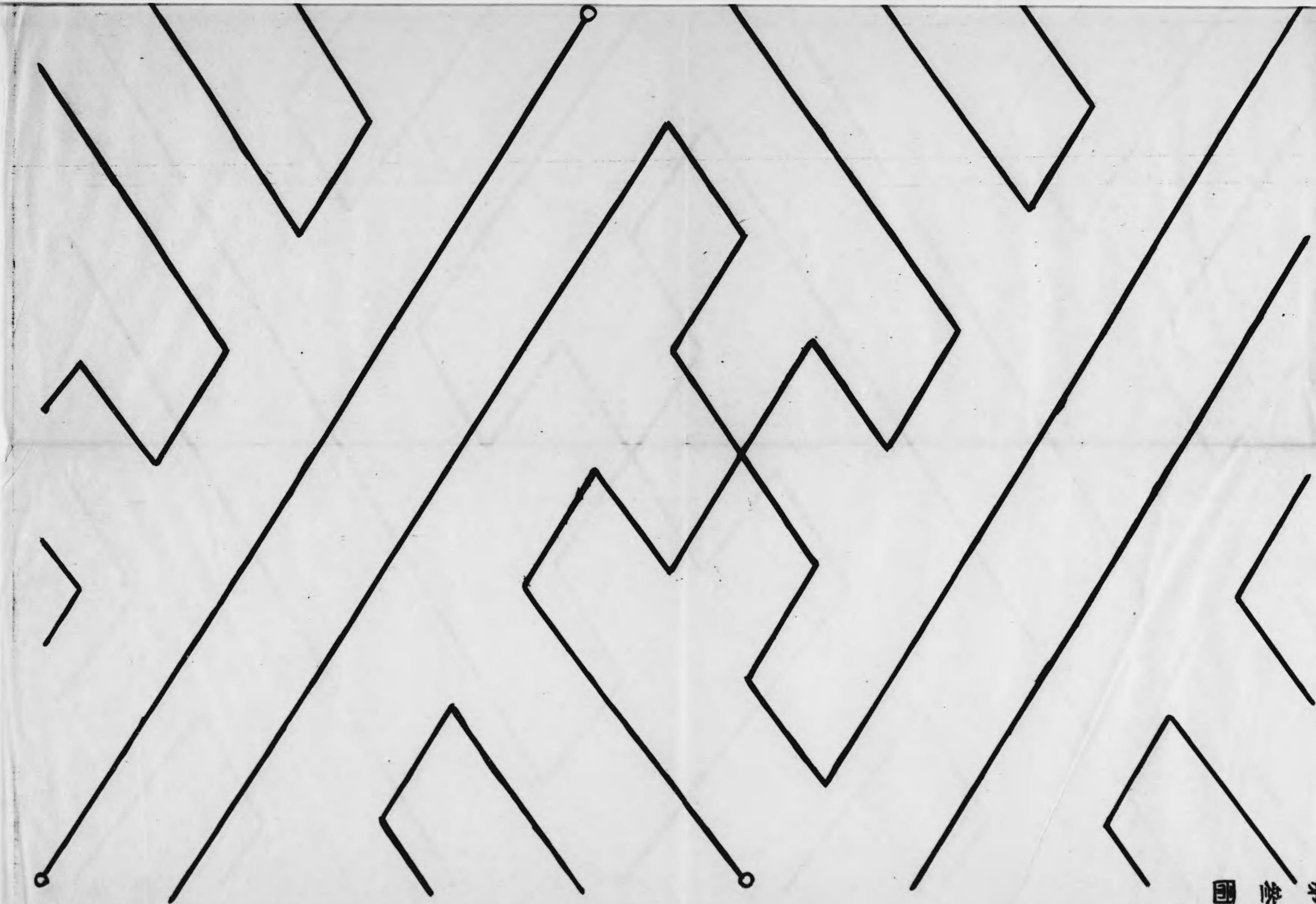




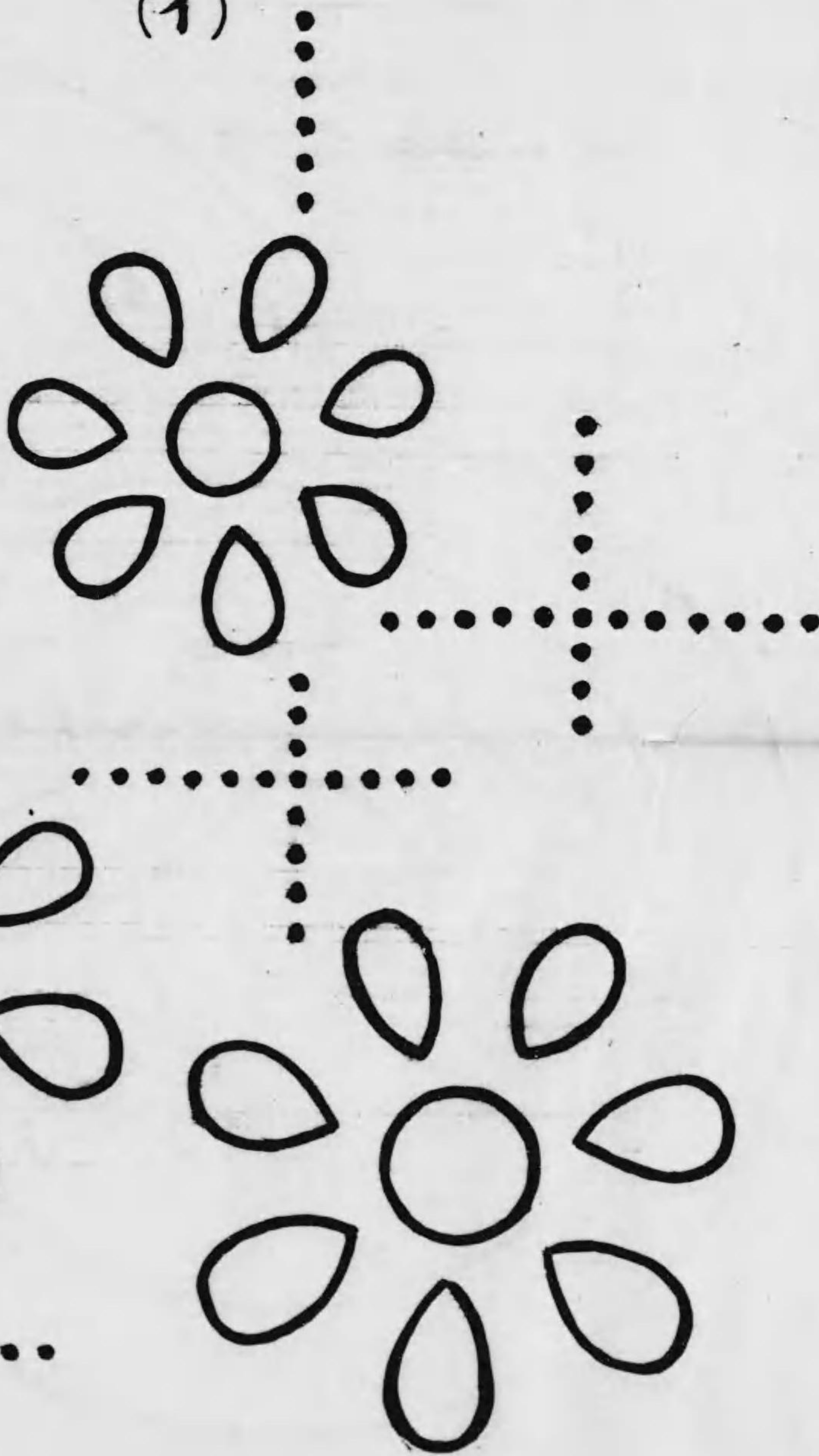




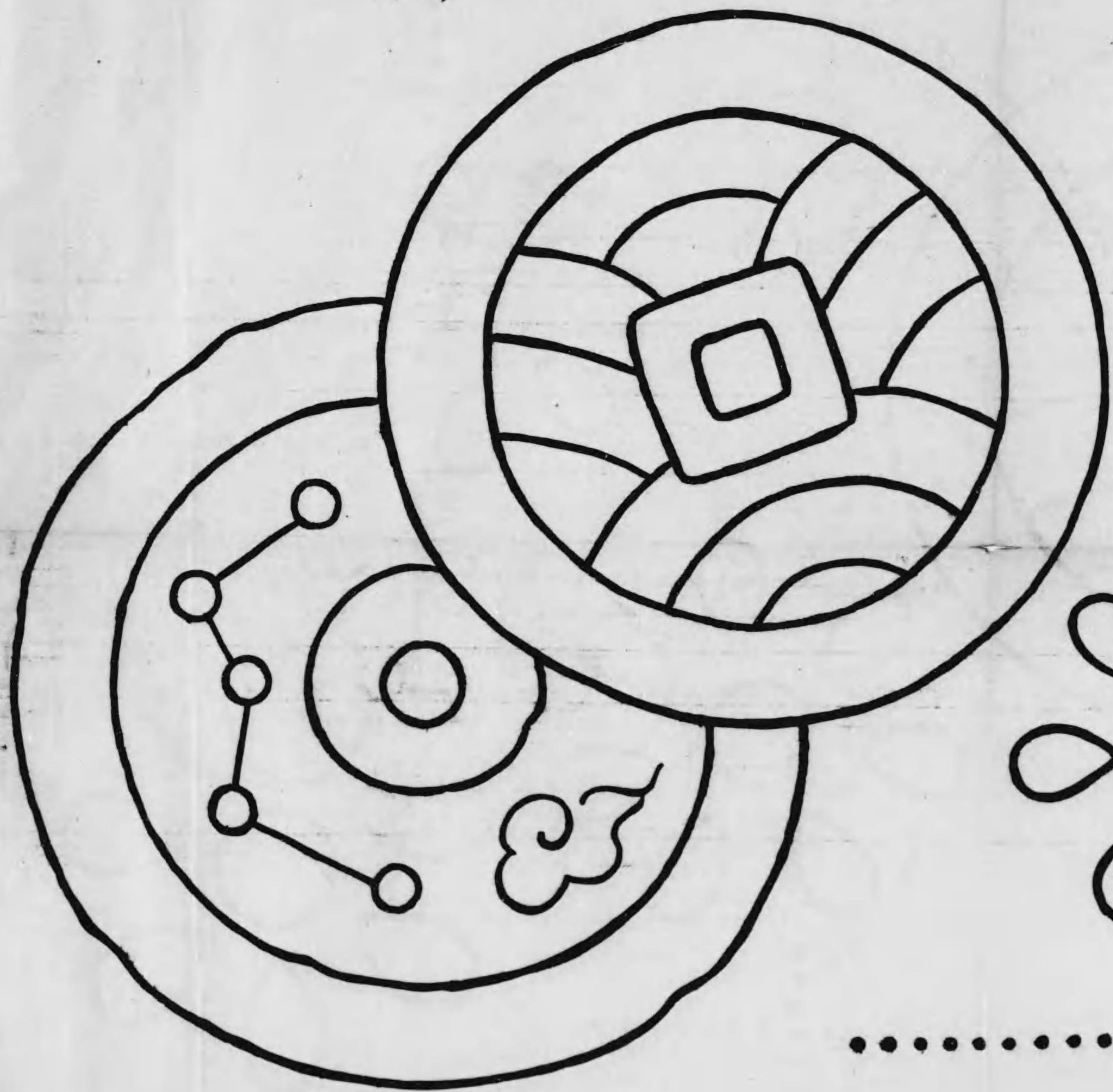
第 叁 圖



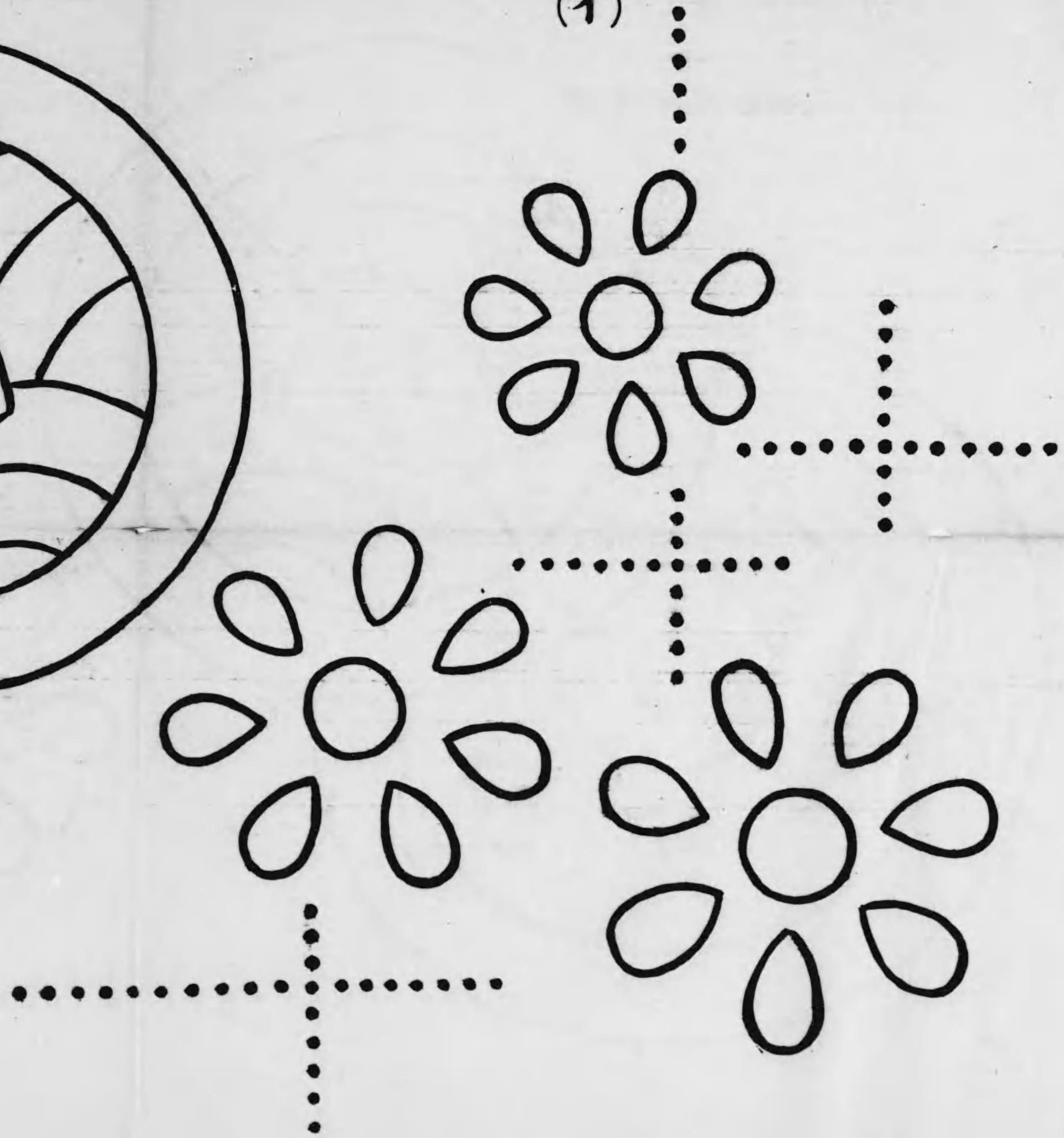
(1)



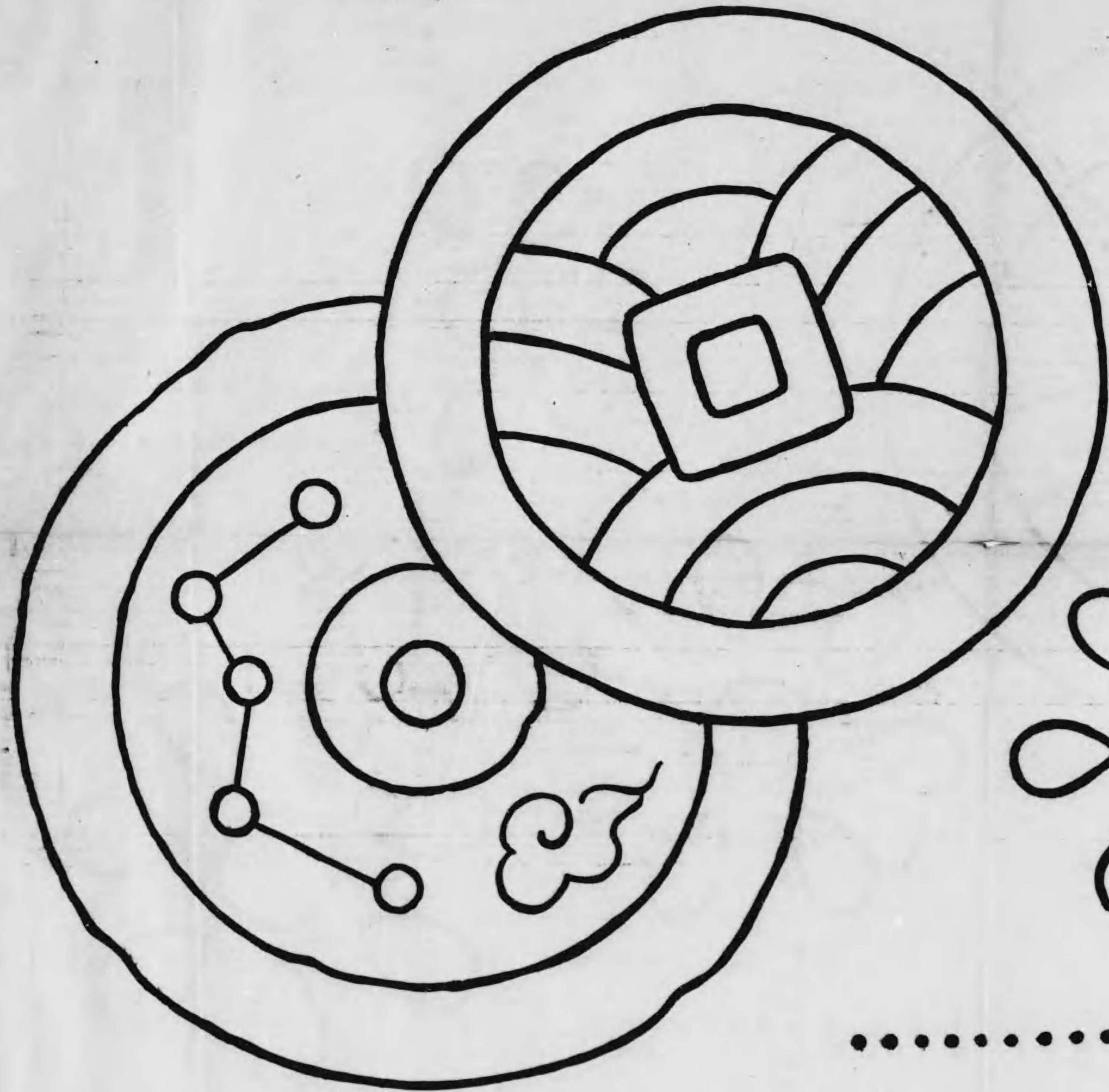
(2)

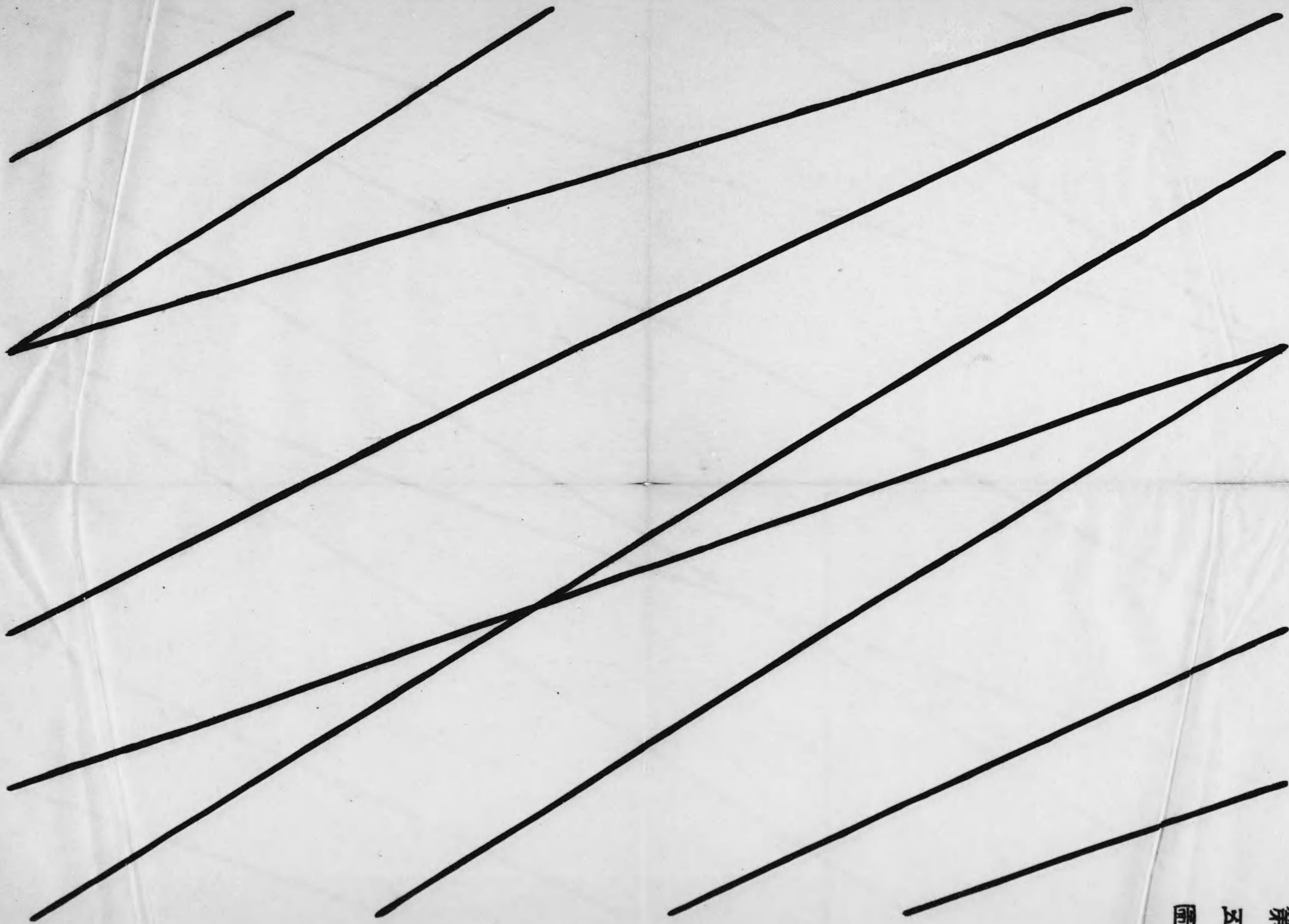


(1)



(2)



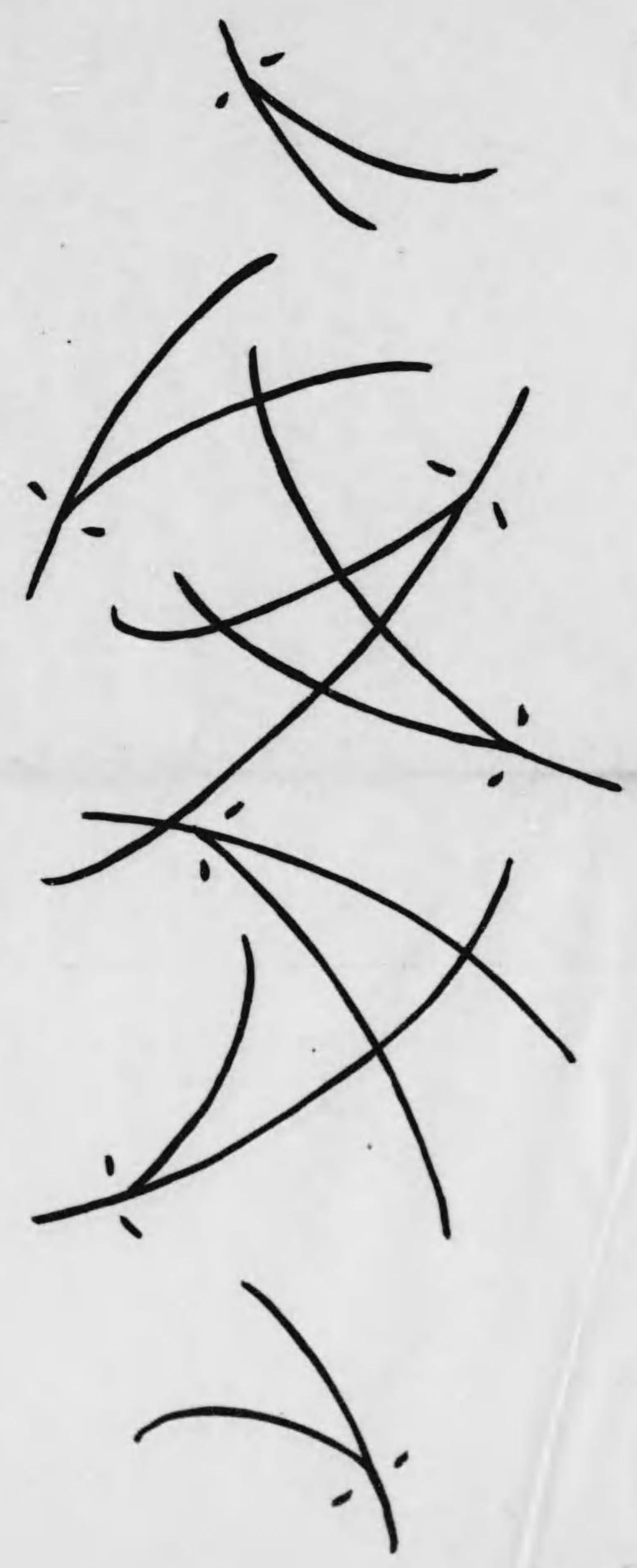


第五圖

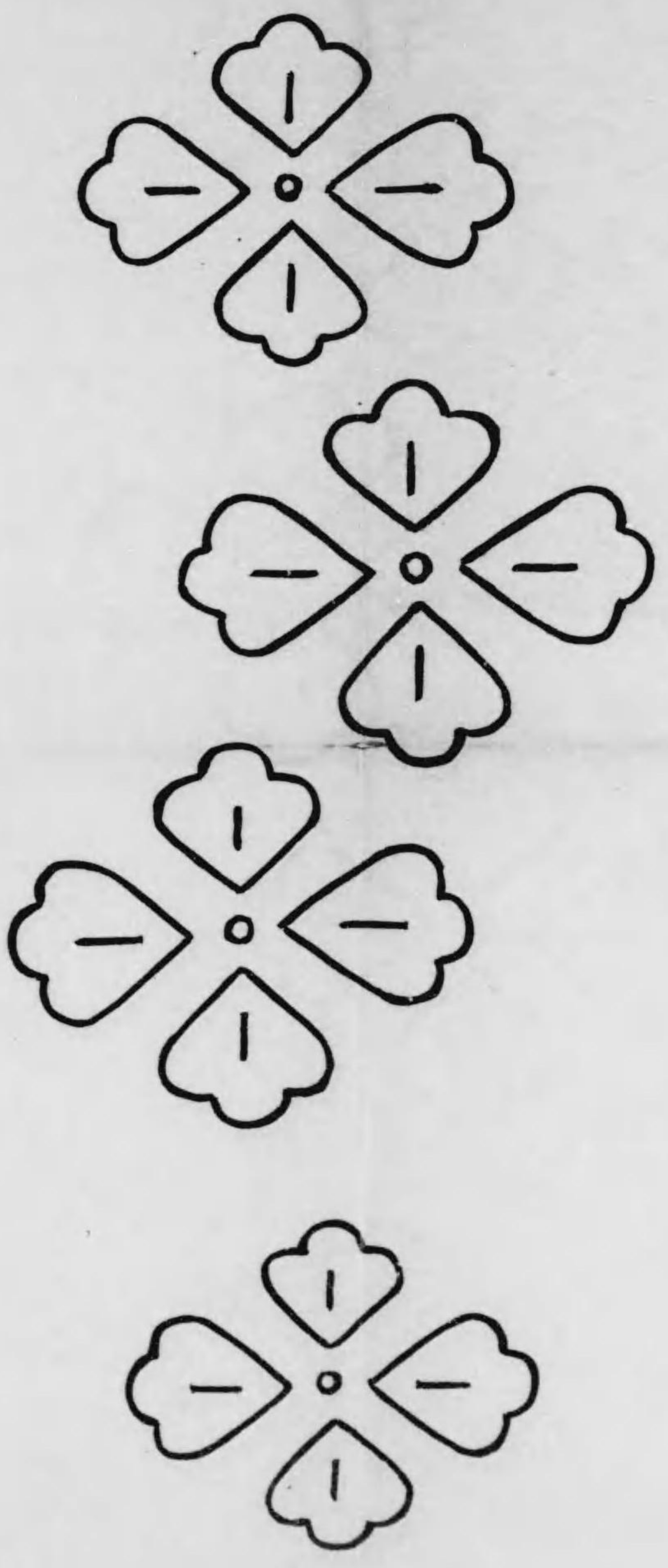


第五圖

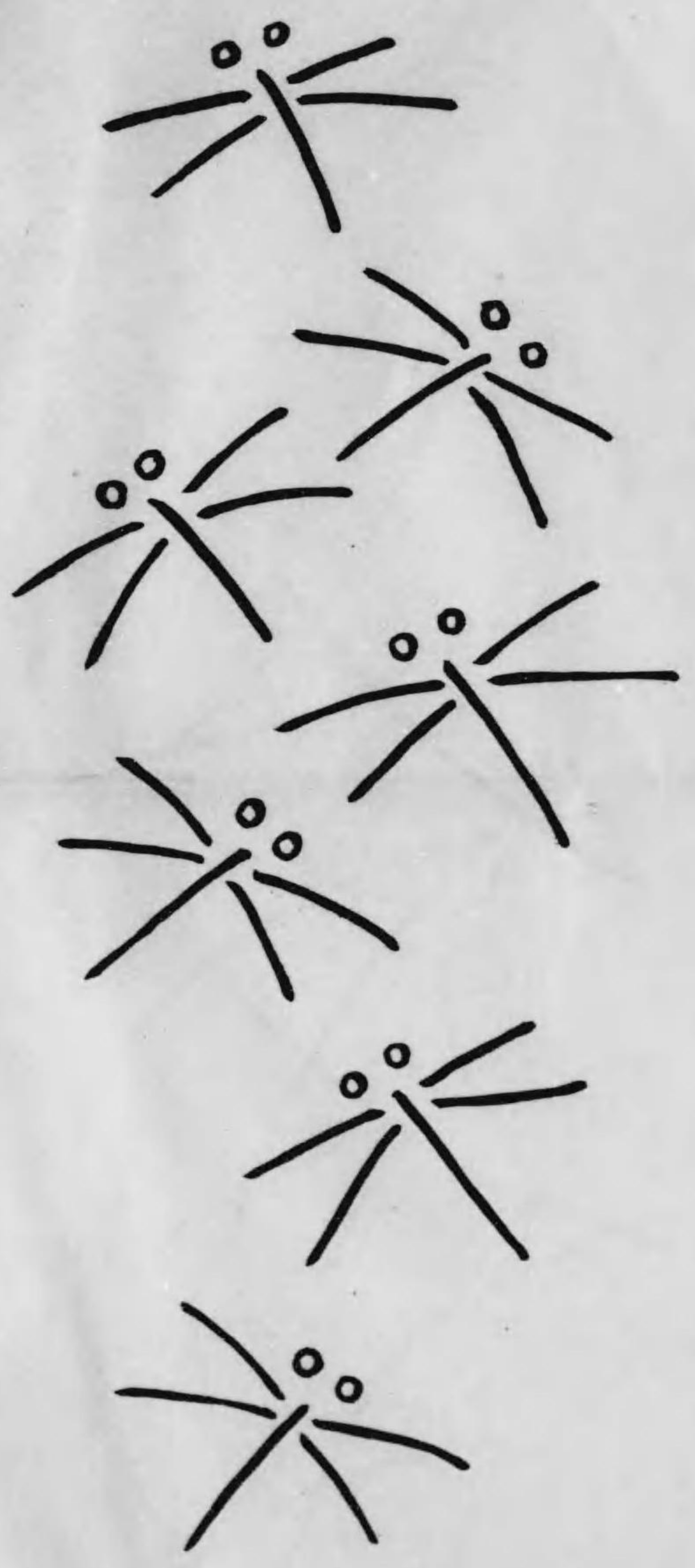
(1)

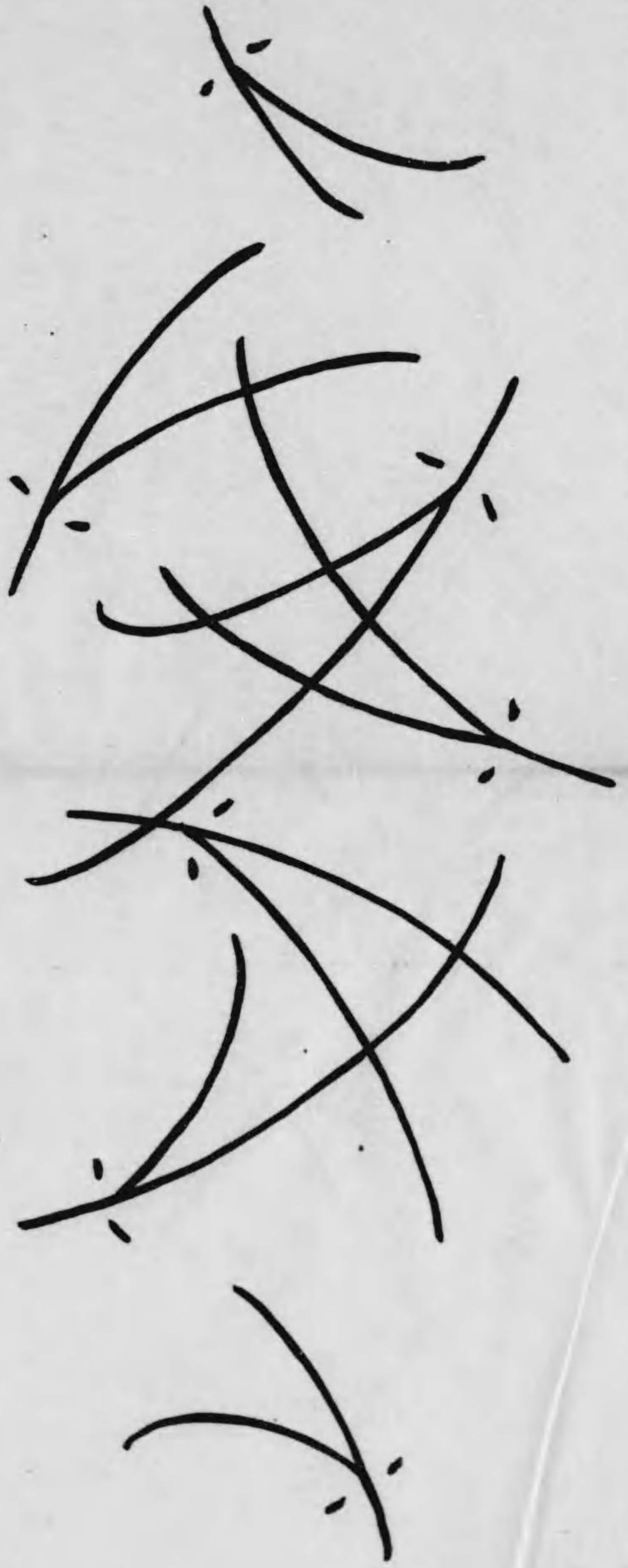
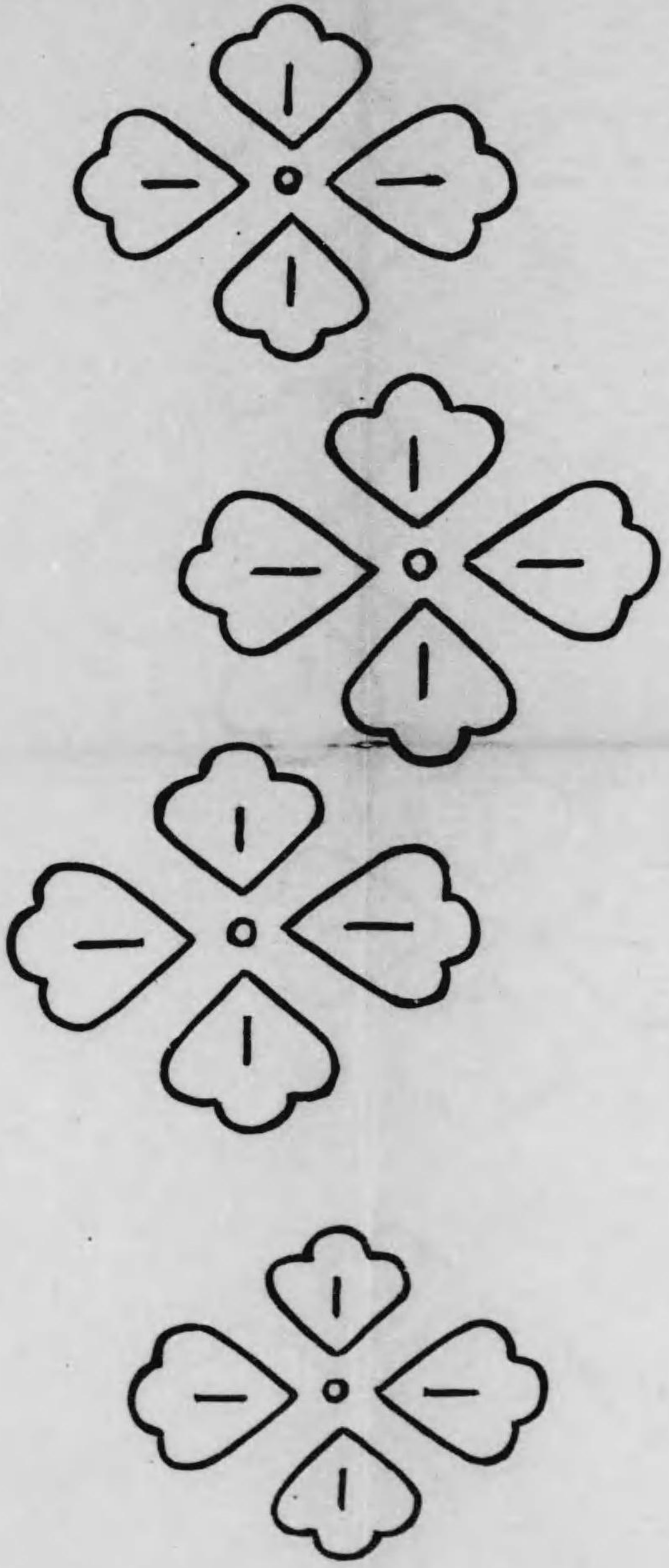


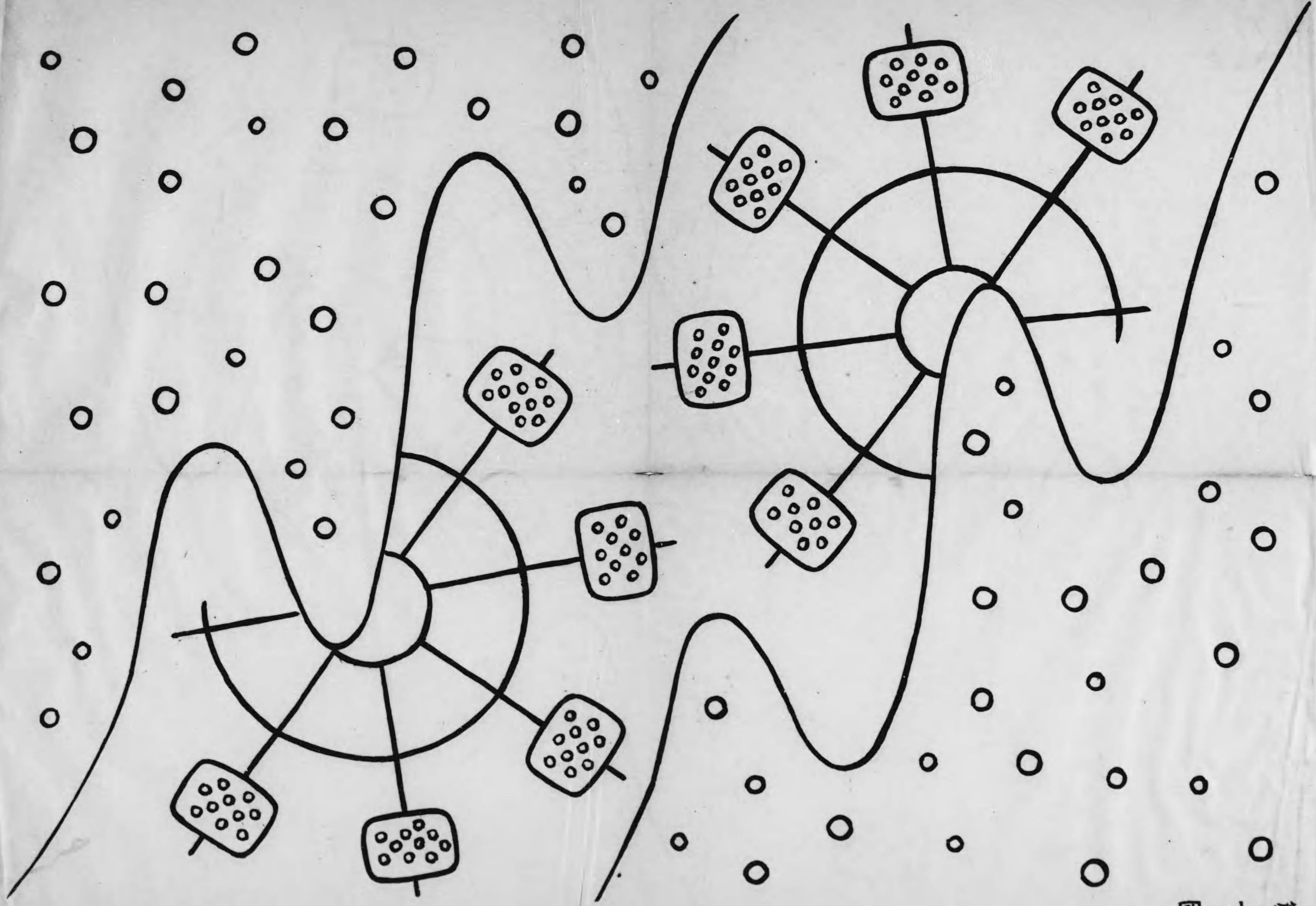
(口)

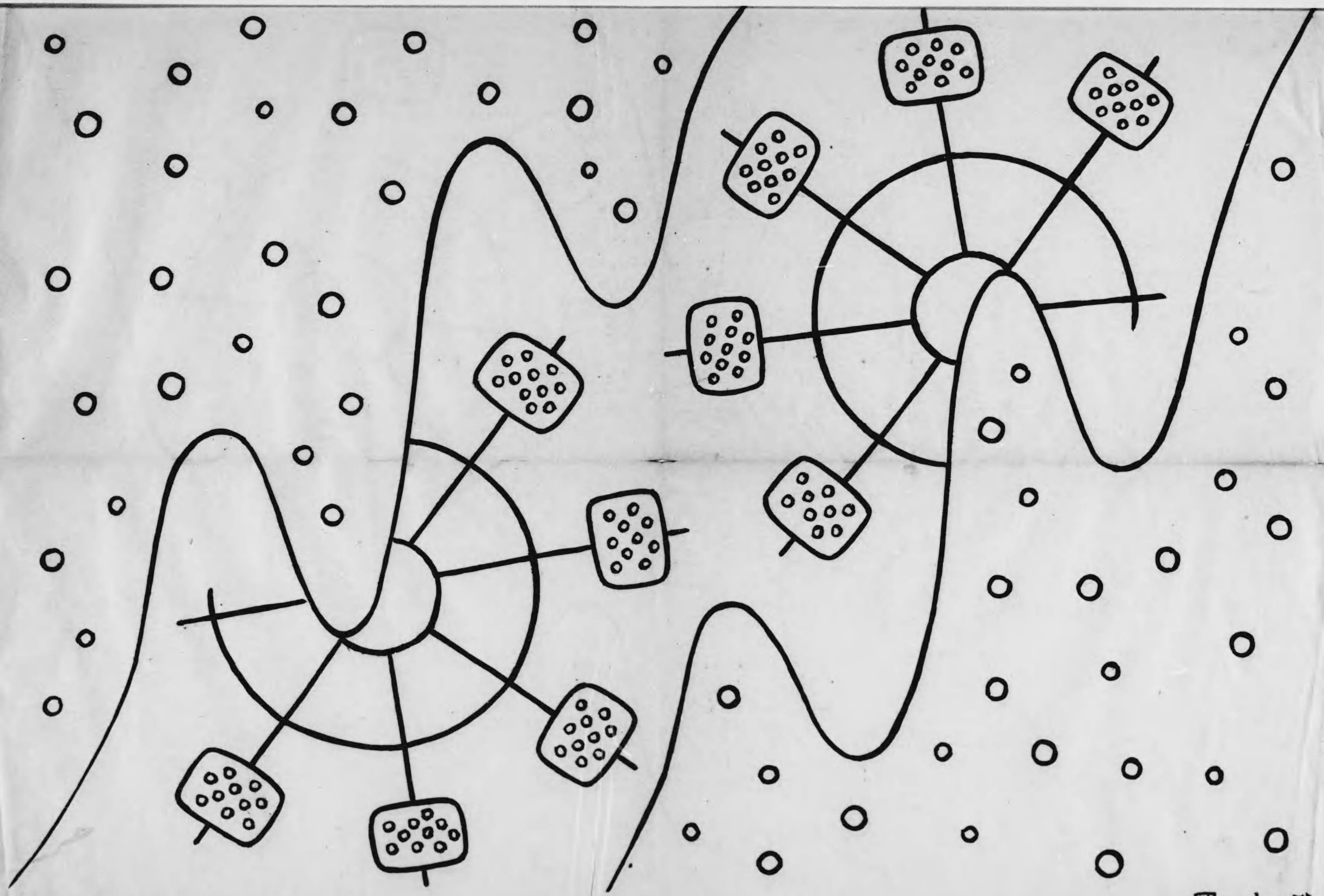


(2)

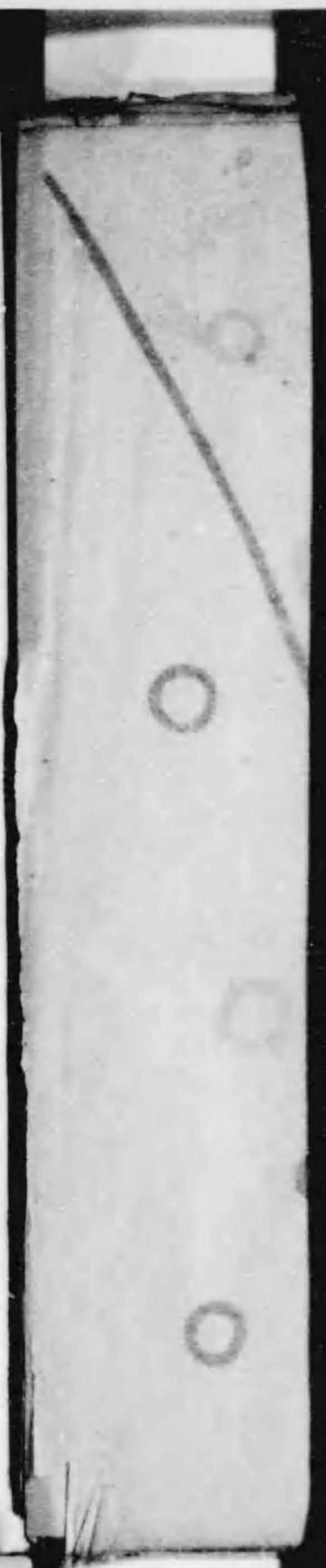
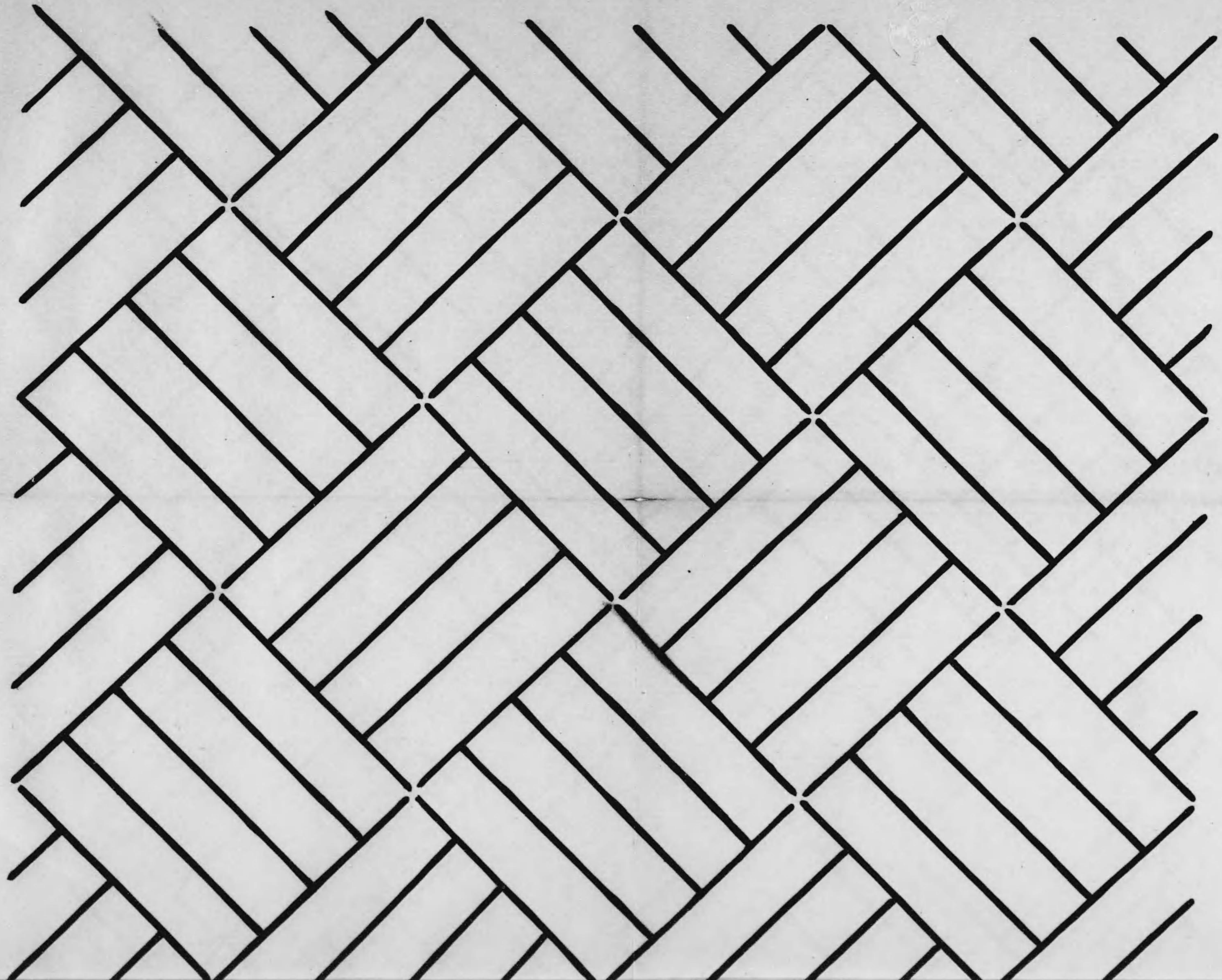


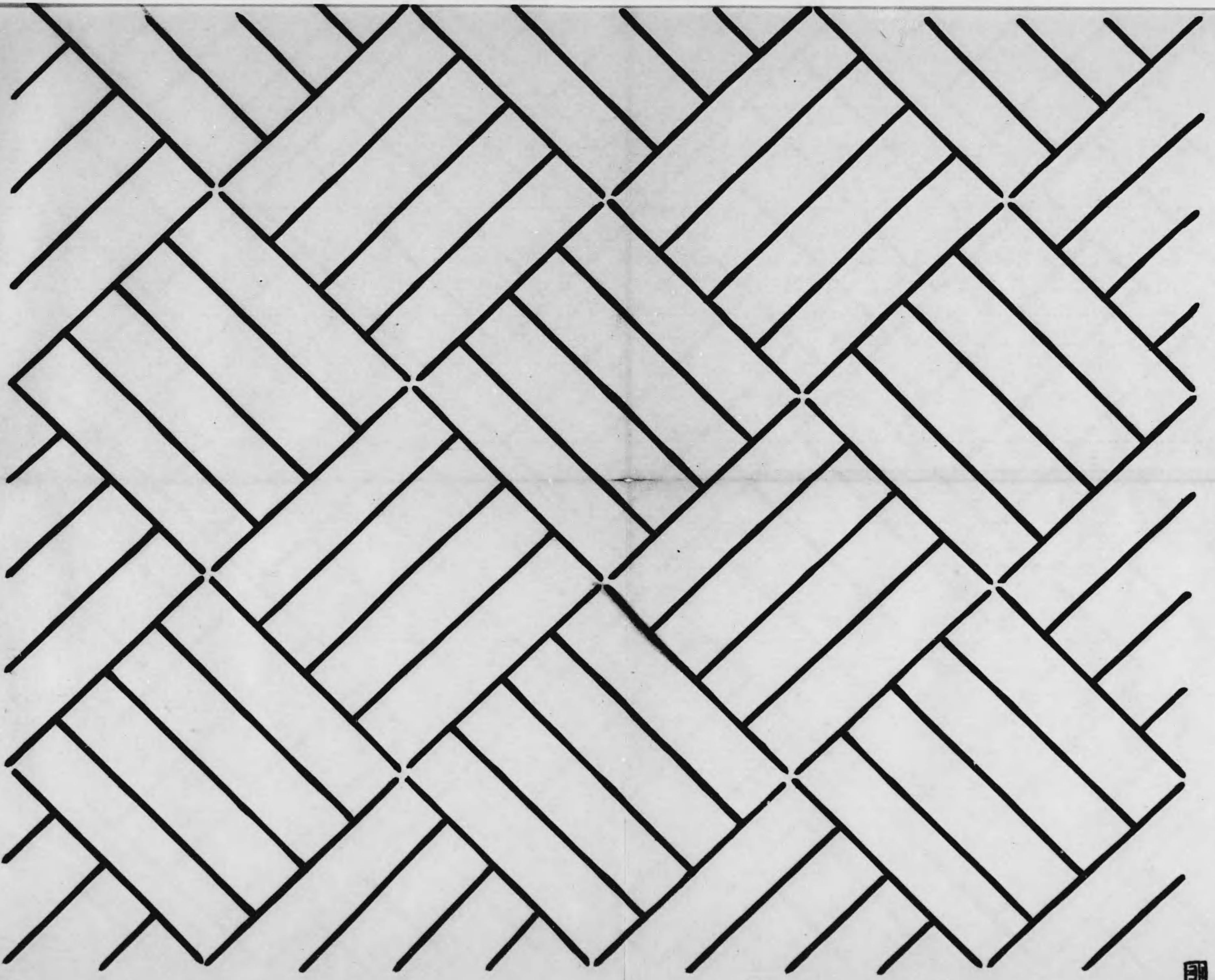




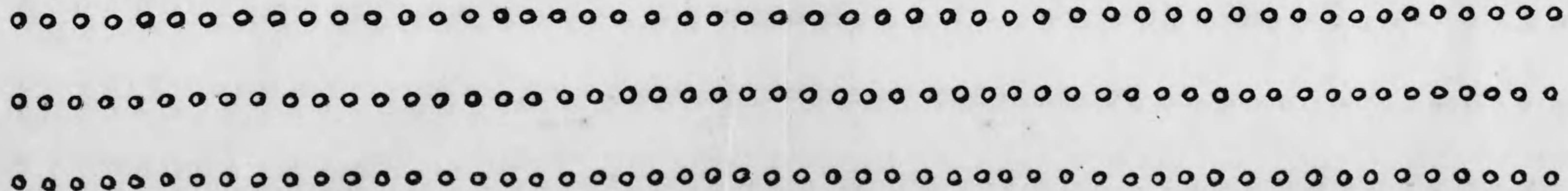
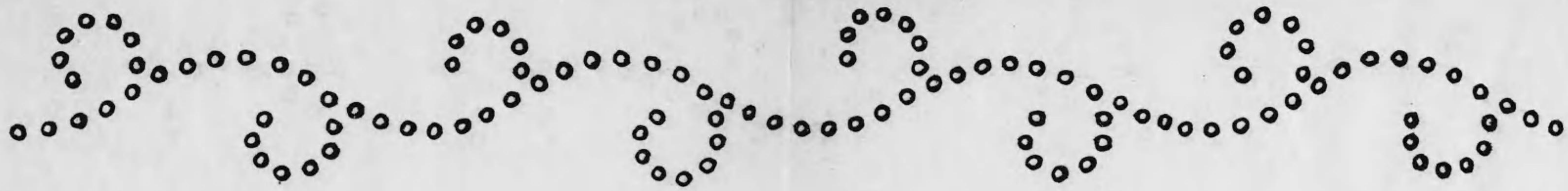
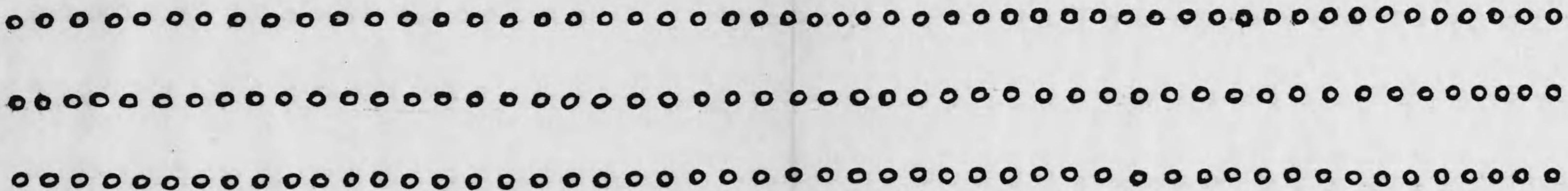
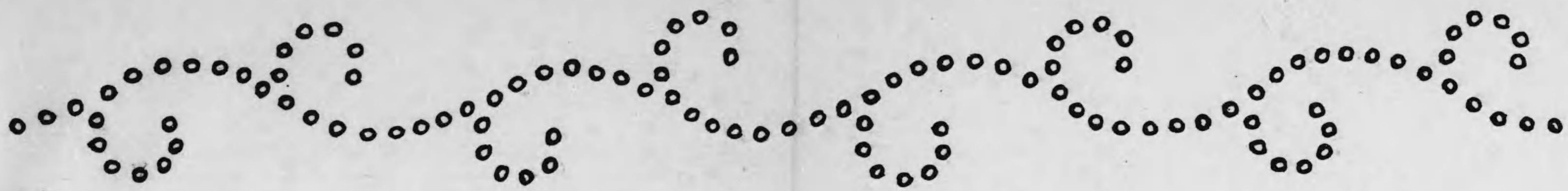


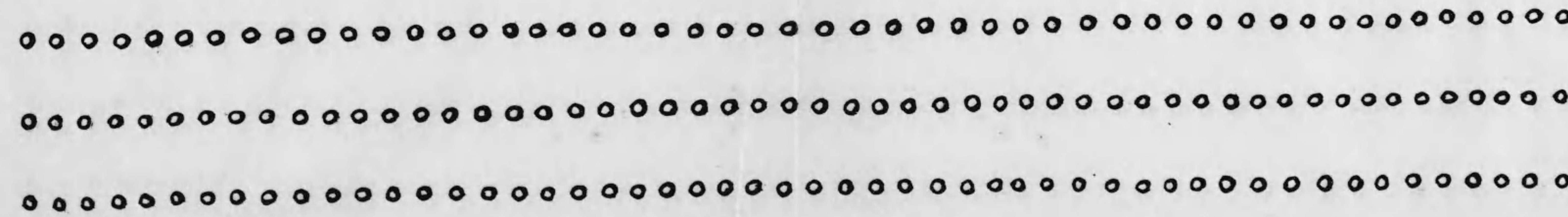
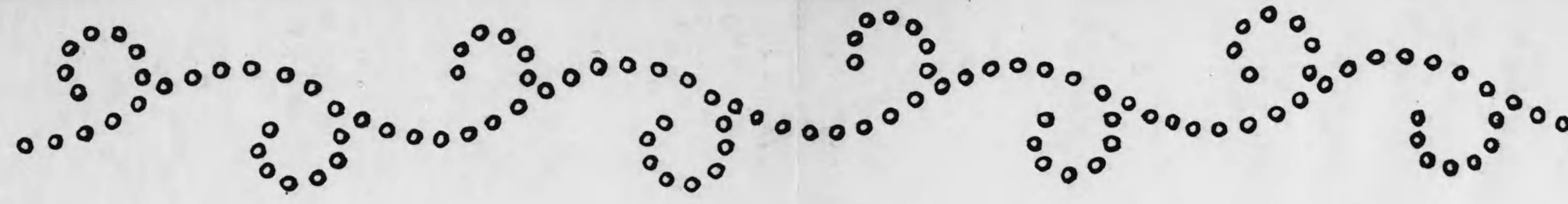
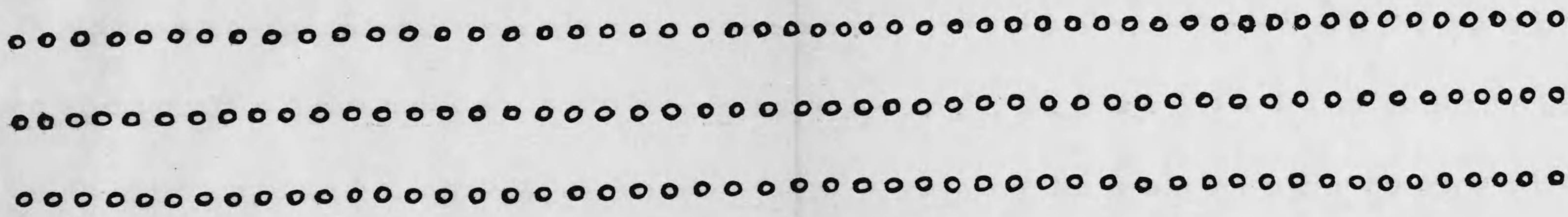
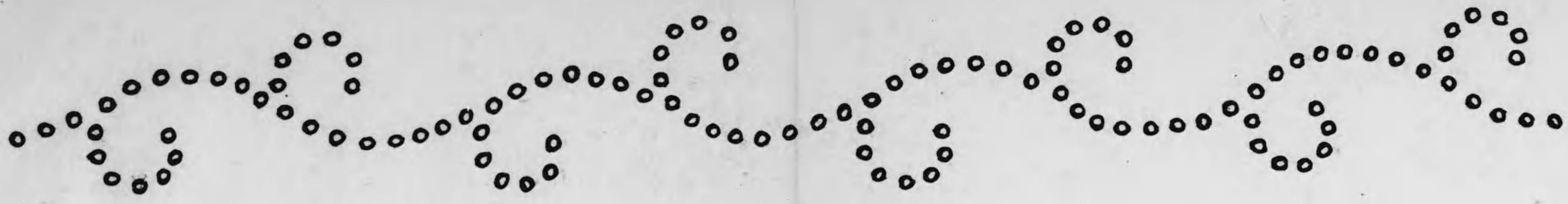
第七圖

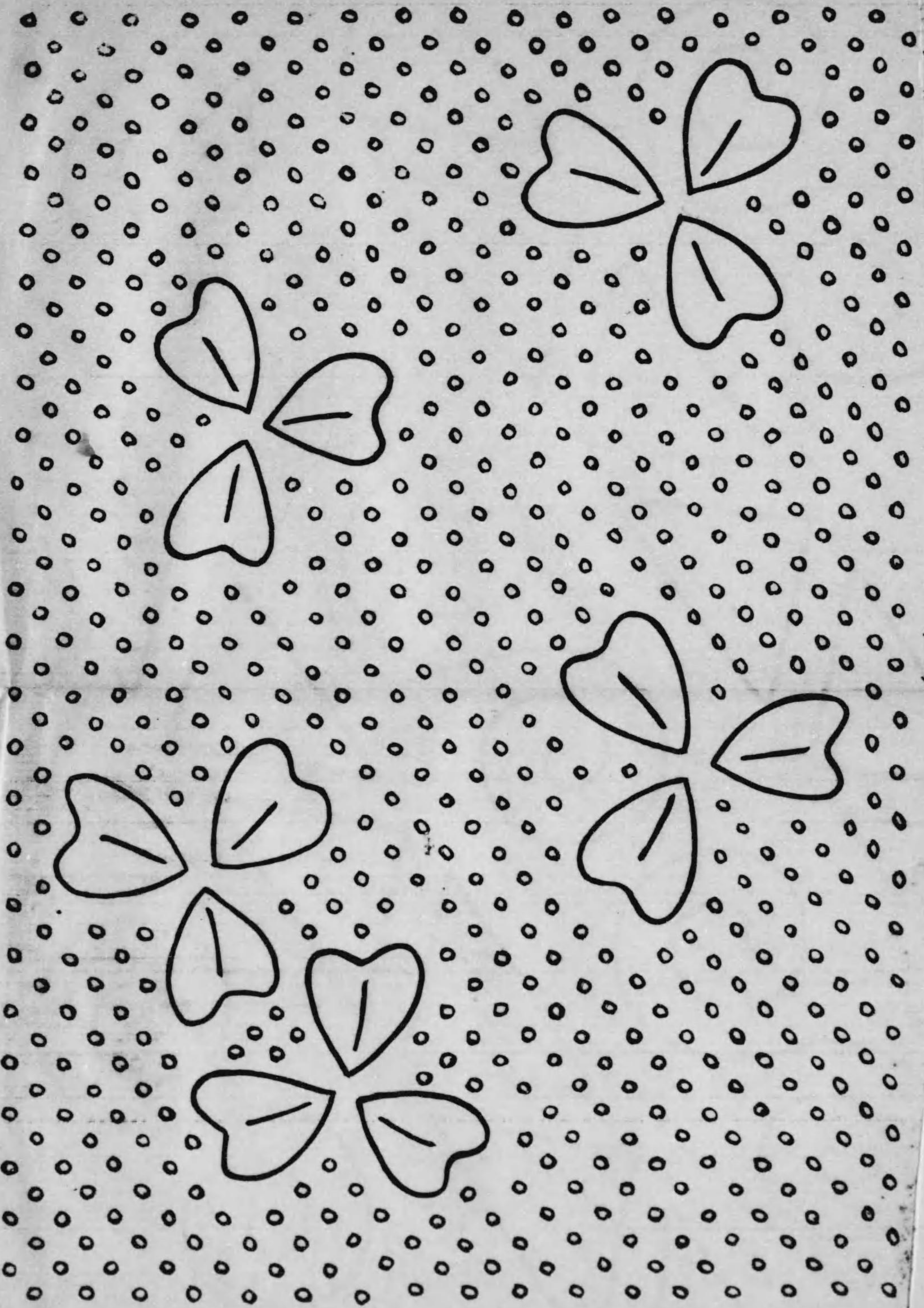




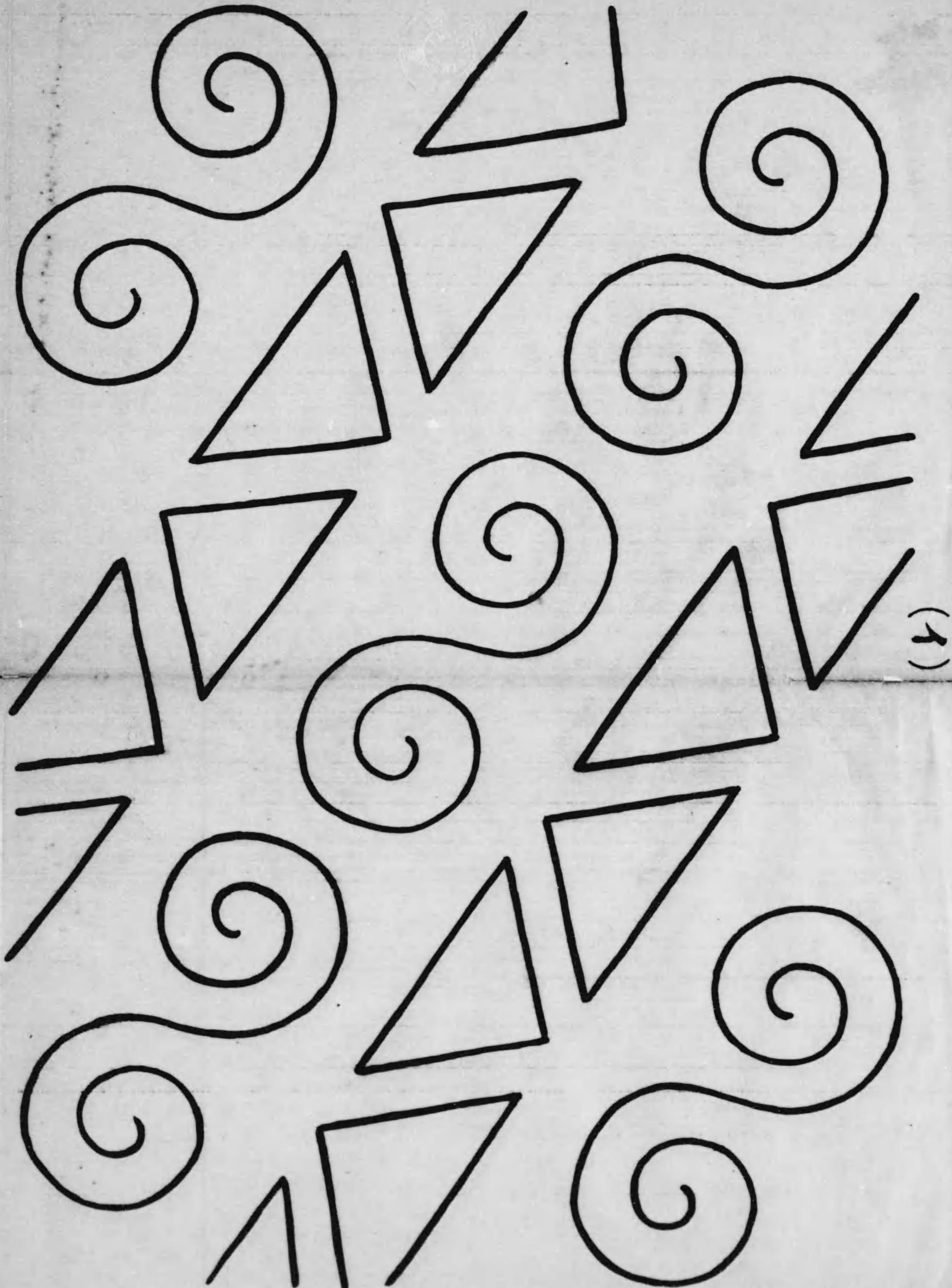
第八圖



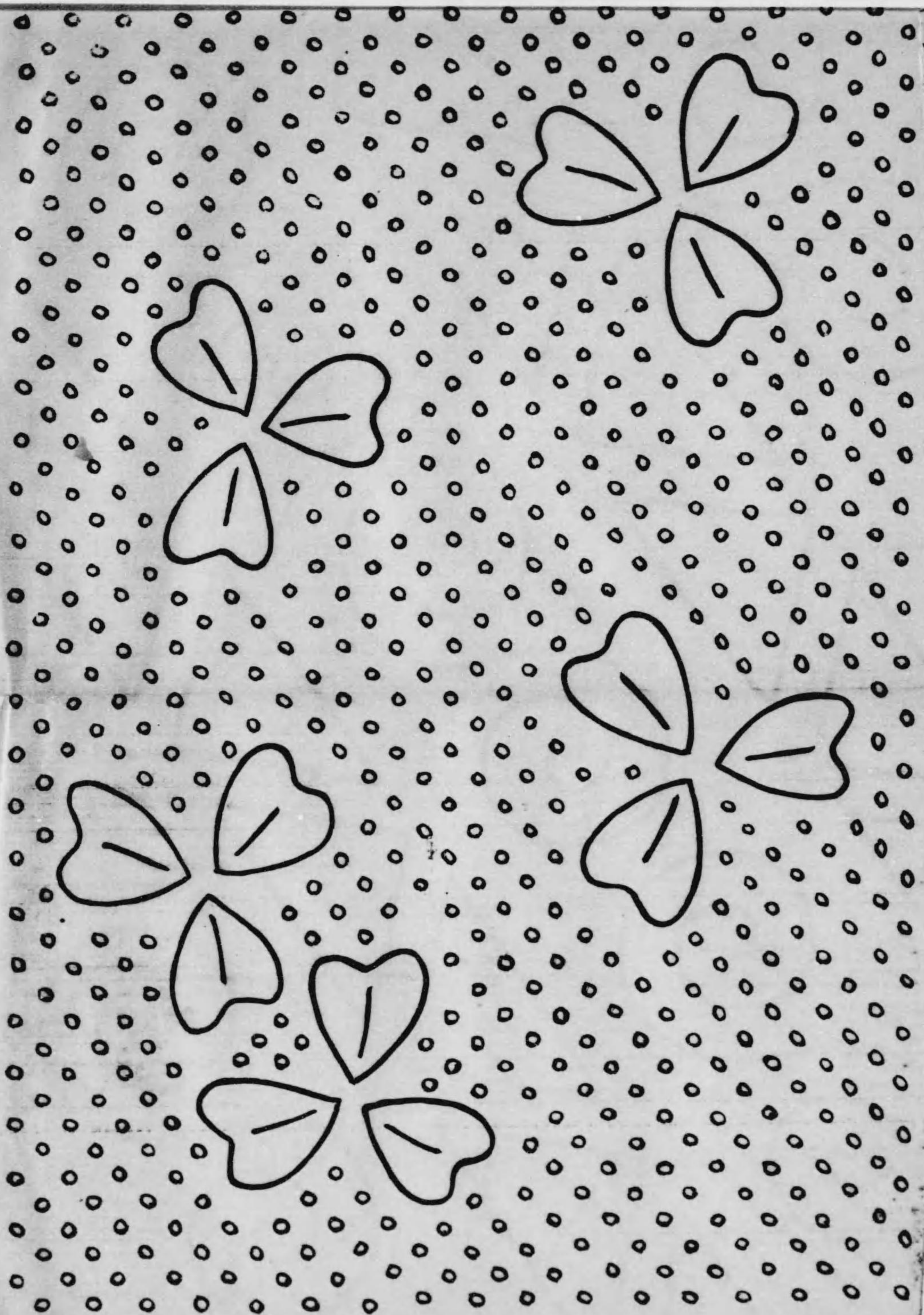




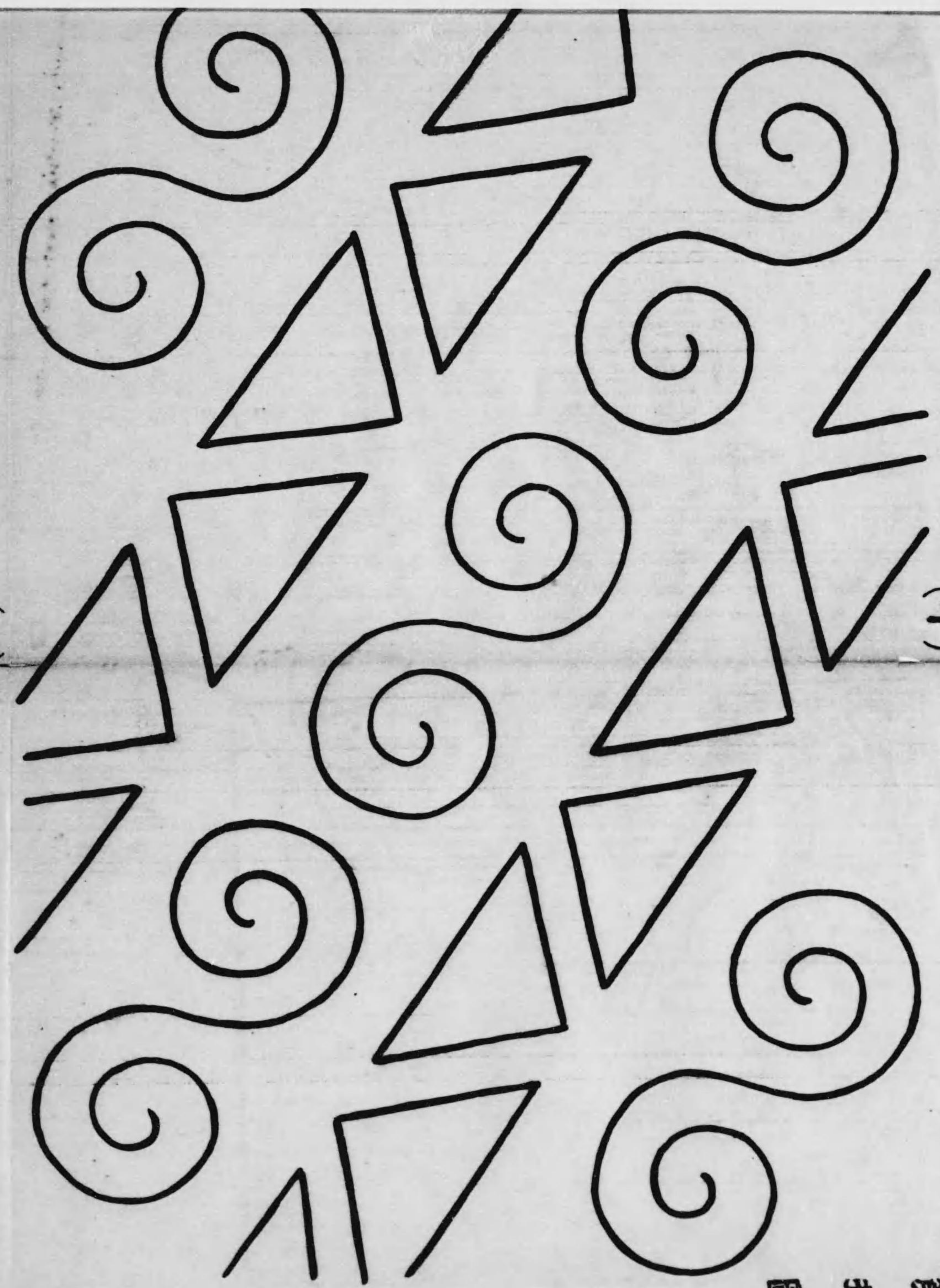
(1)



(1)

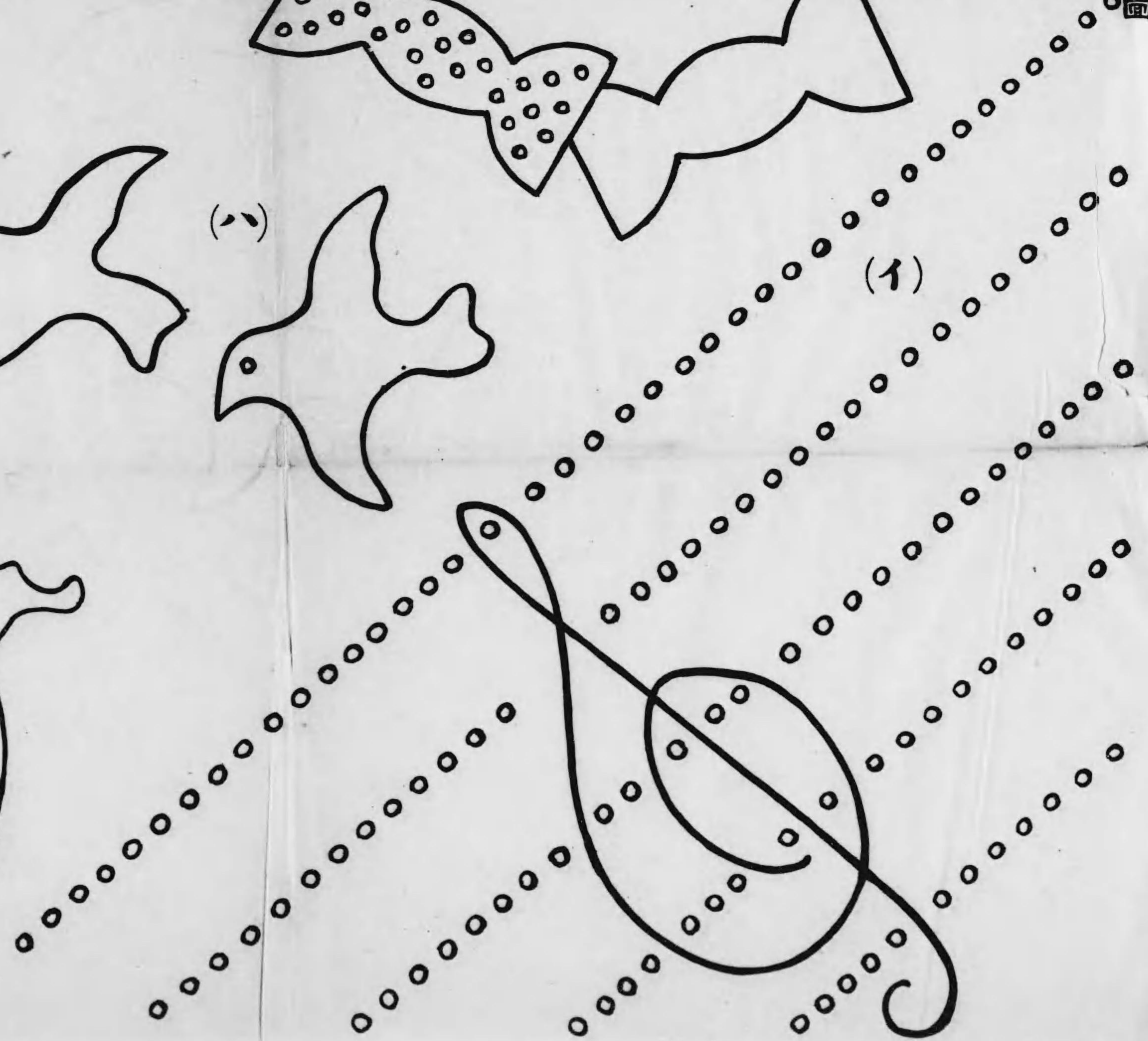
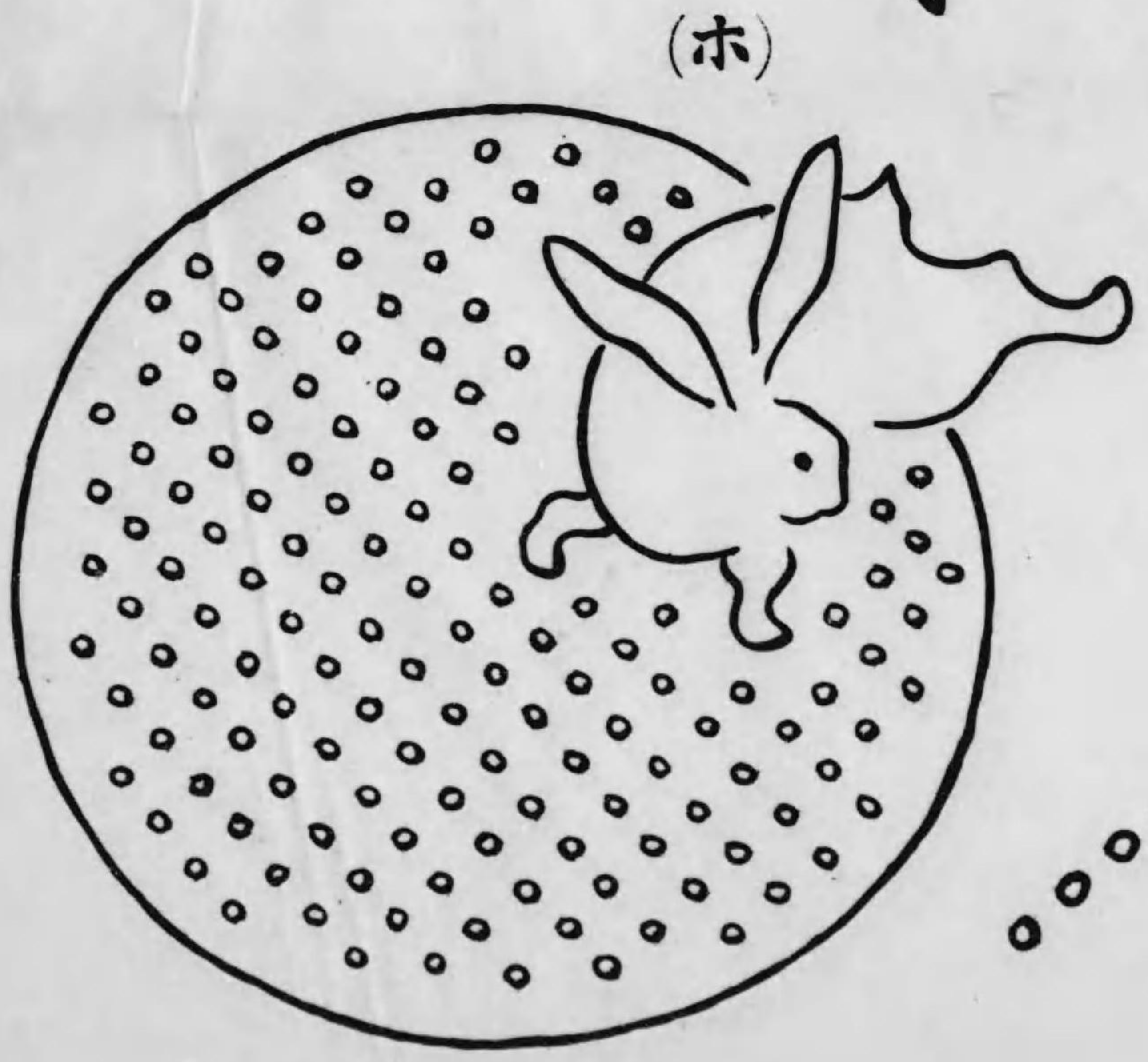
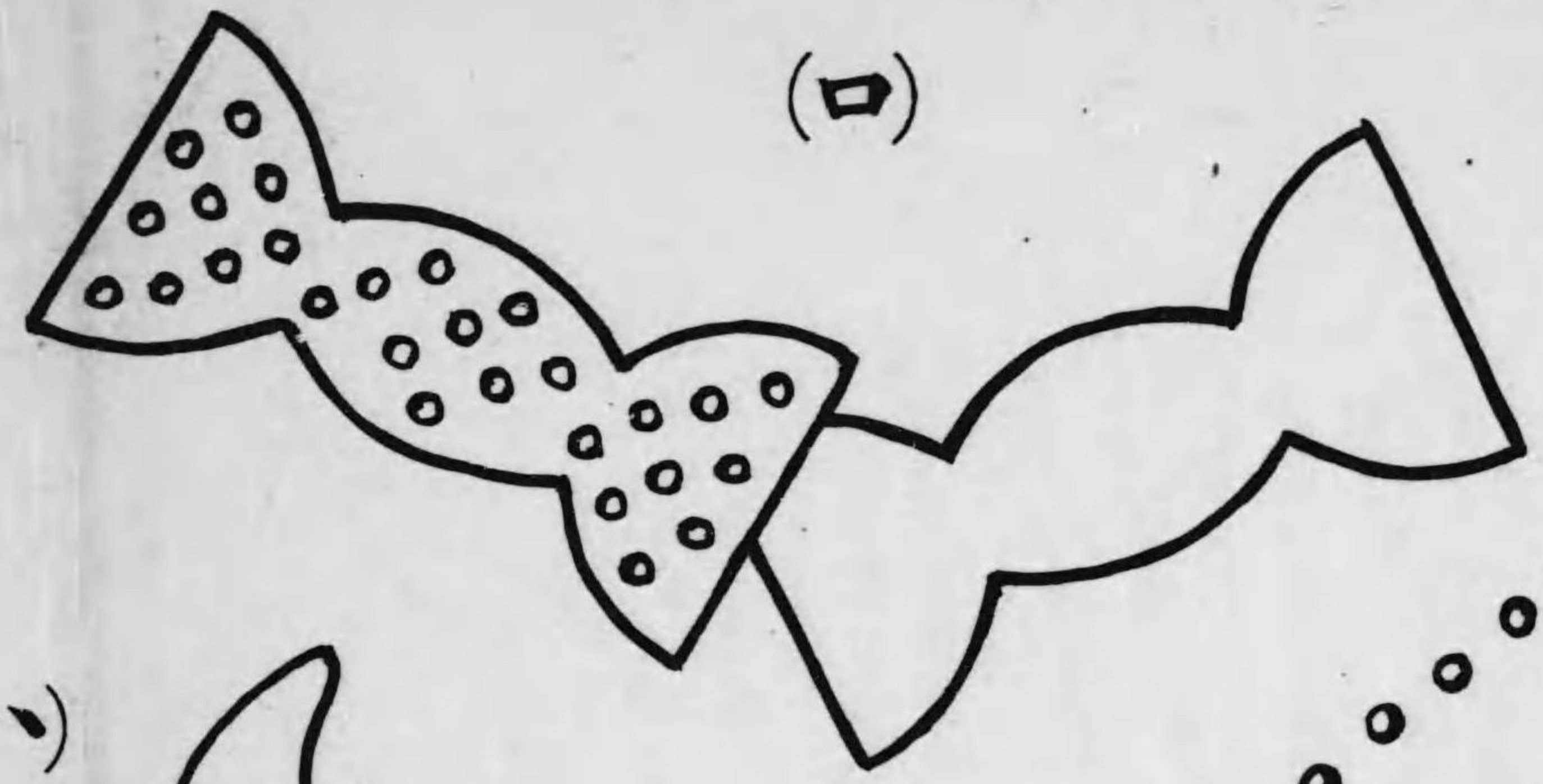
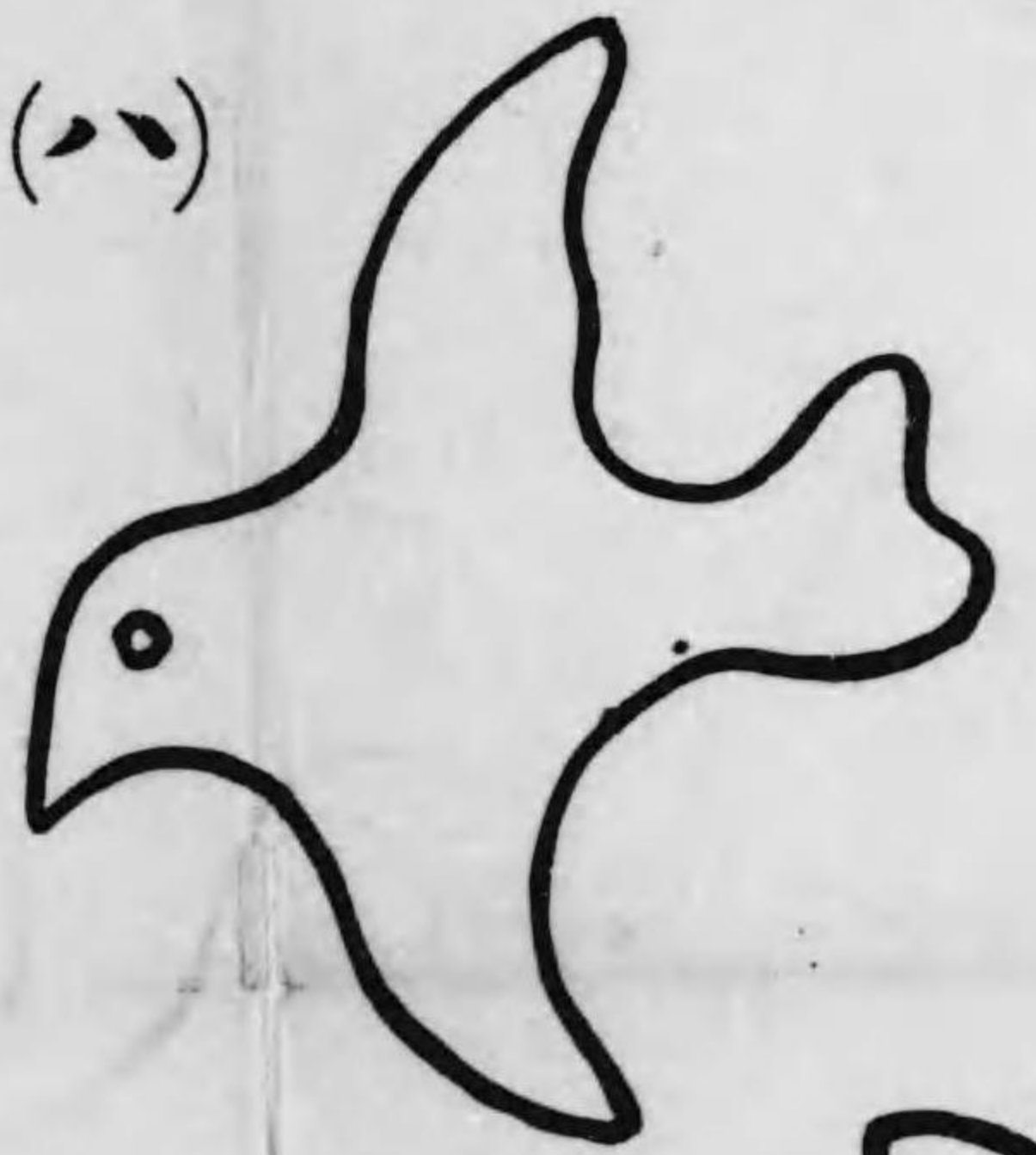
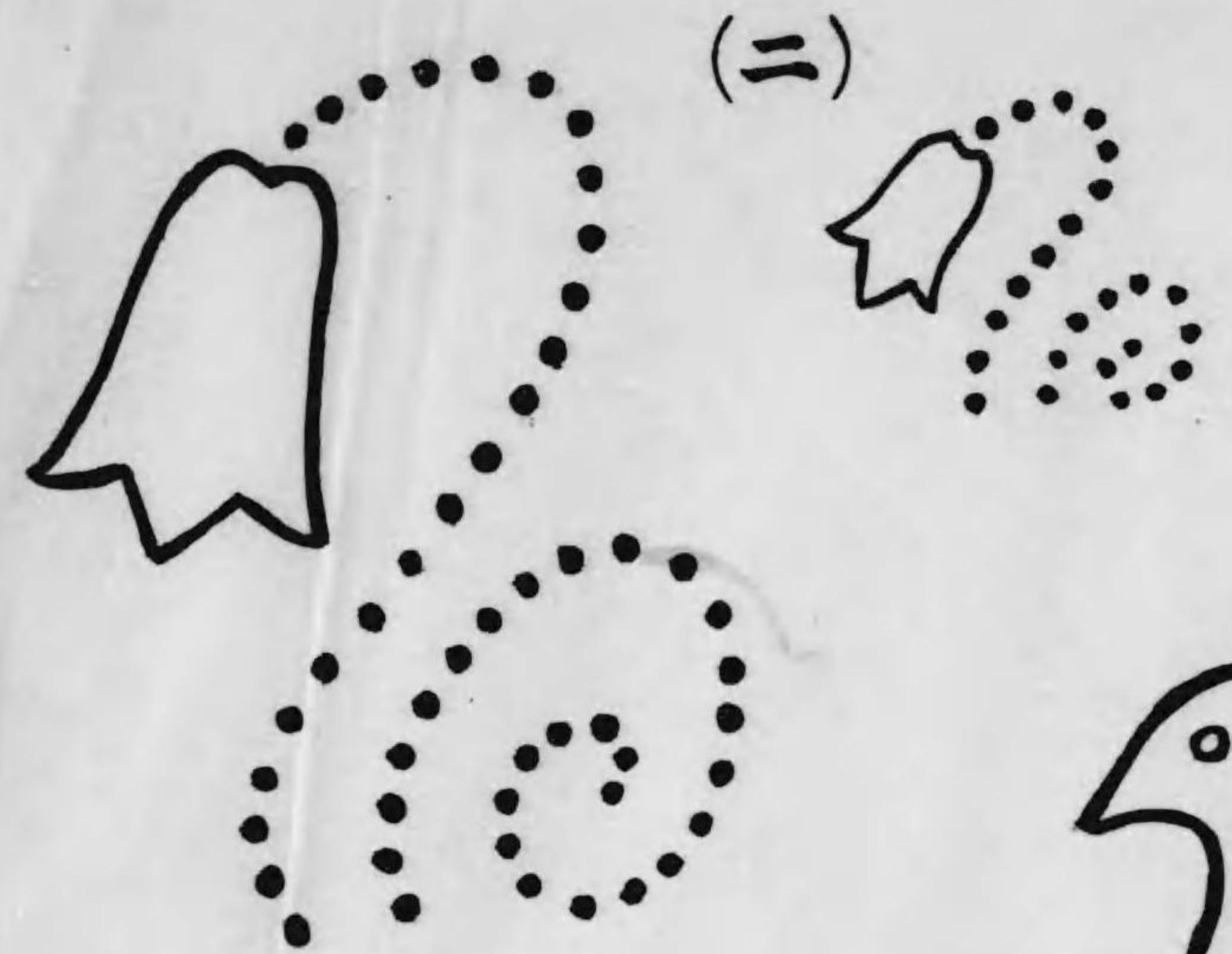


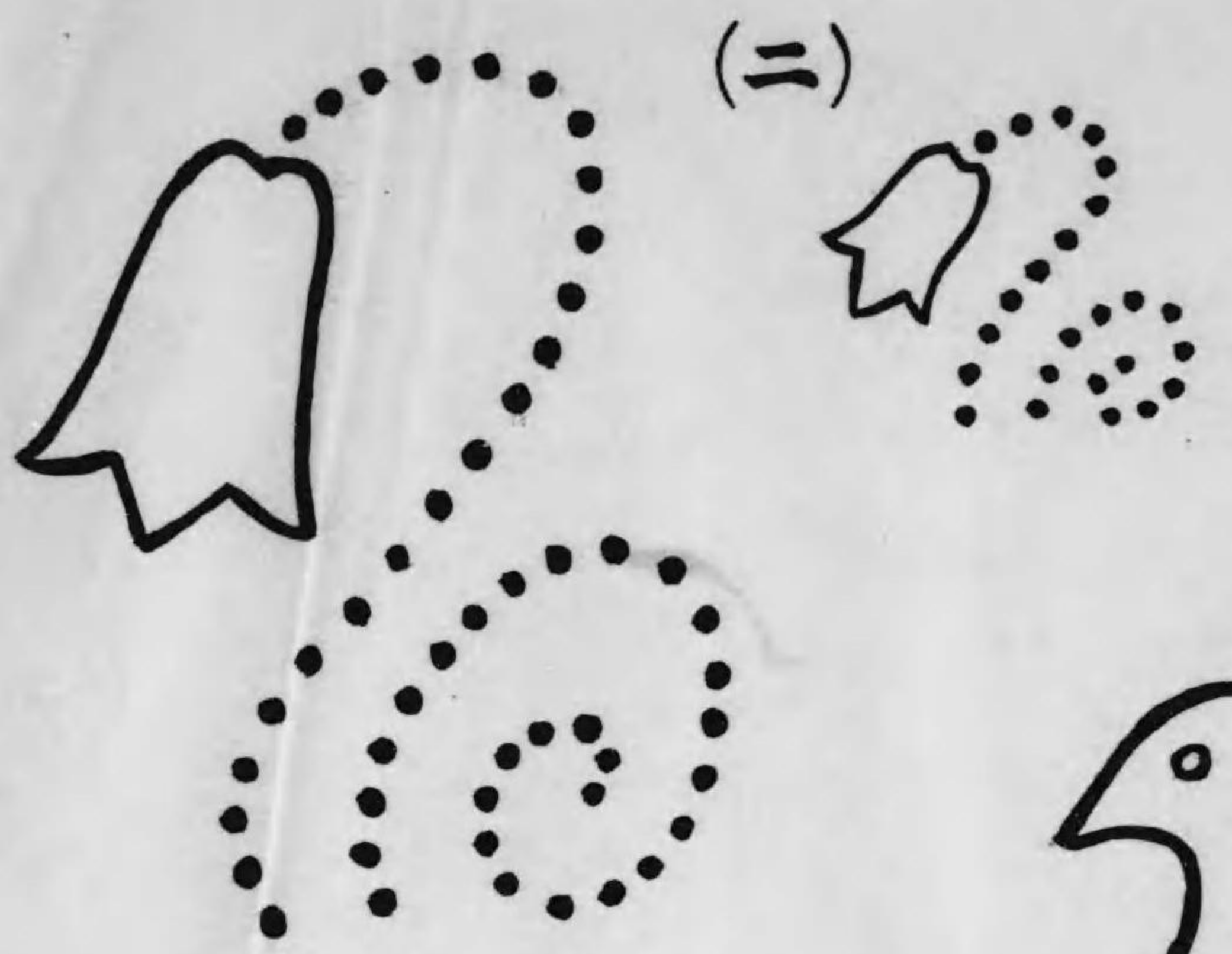
(□)



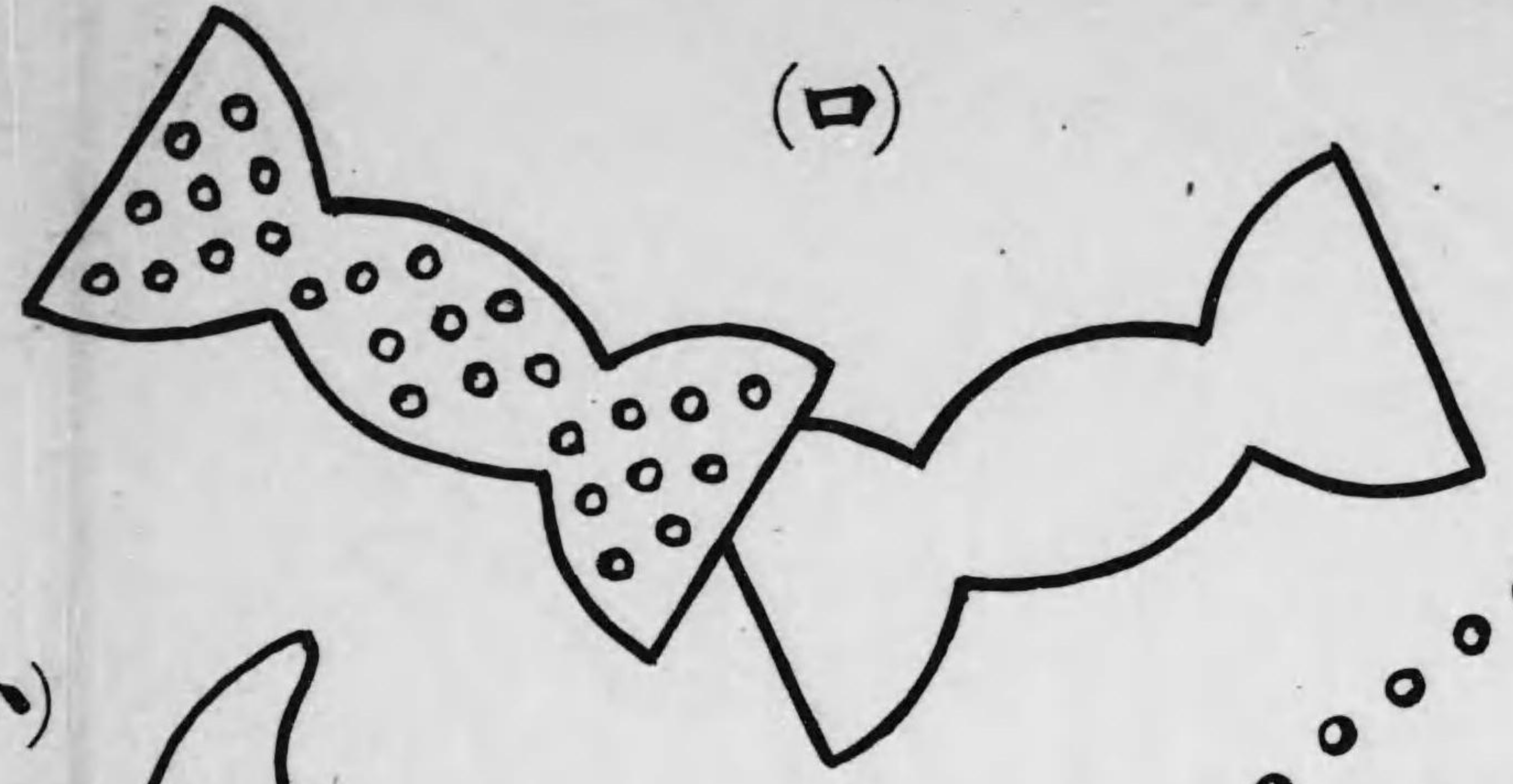
(1)

第十圖





(二)



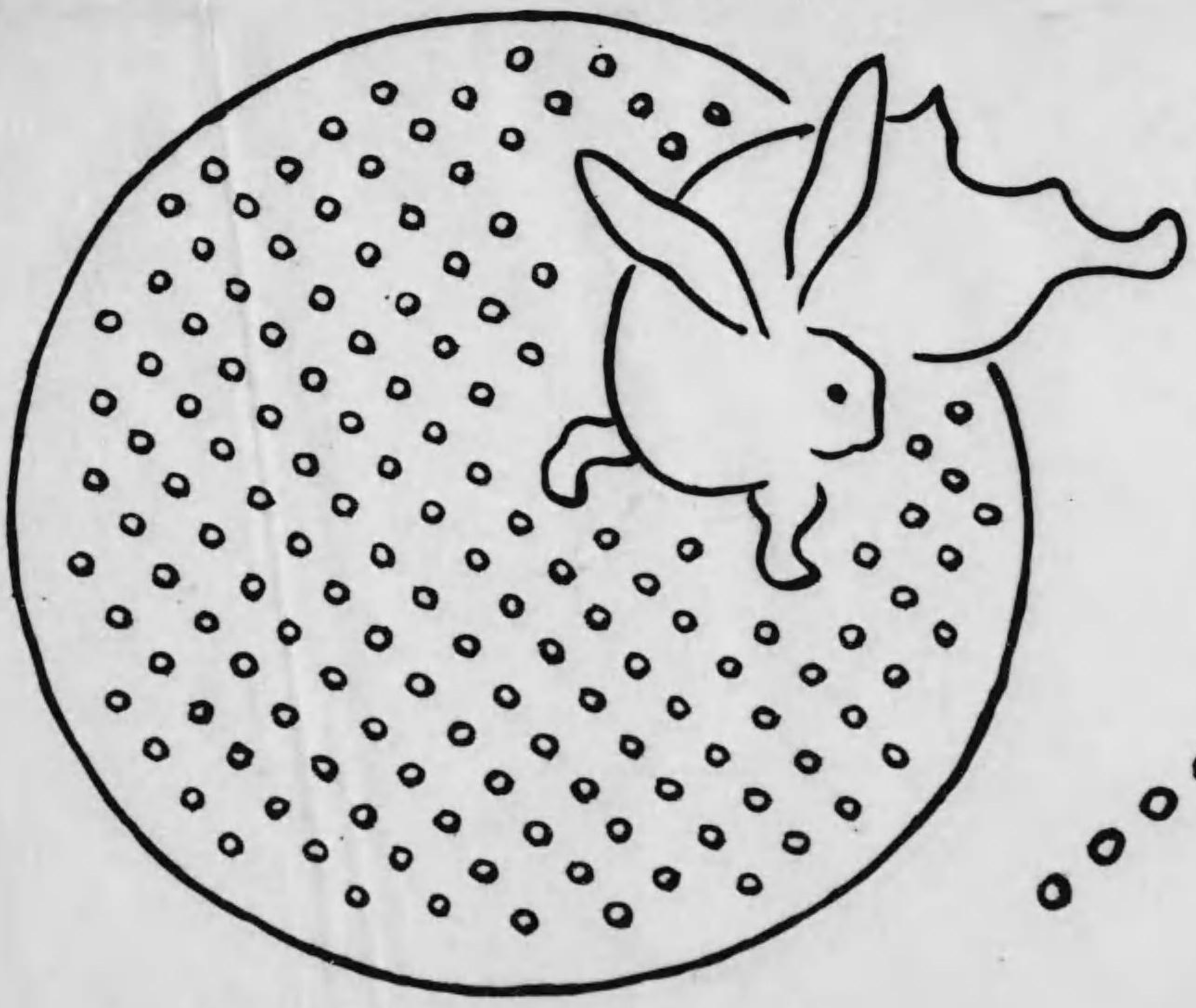
(口)



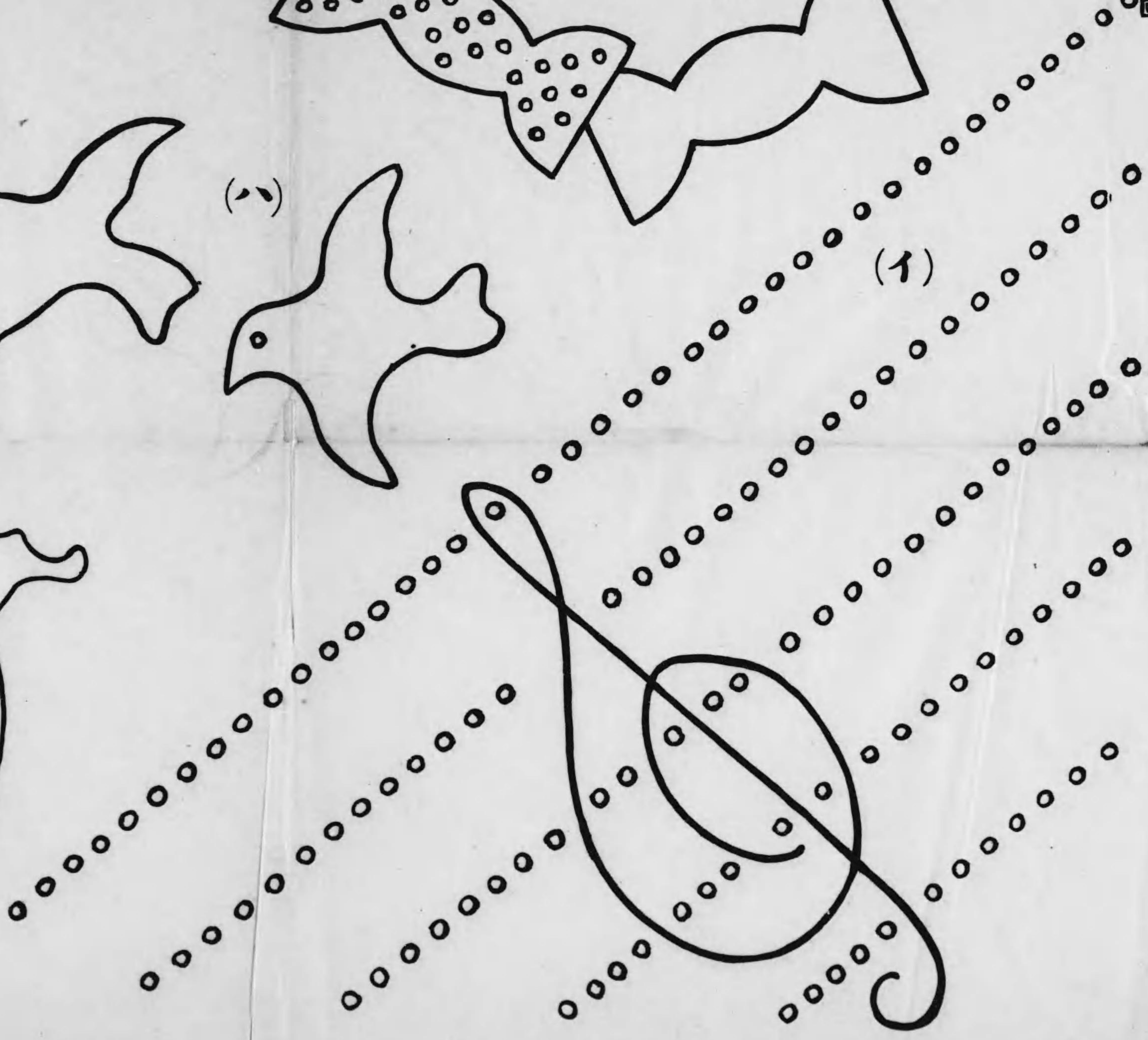
(ハ)

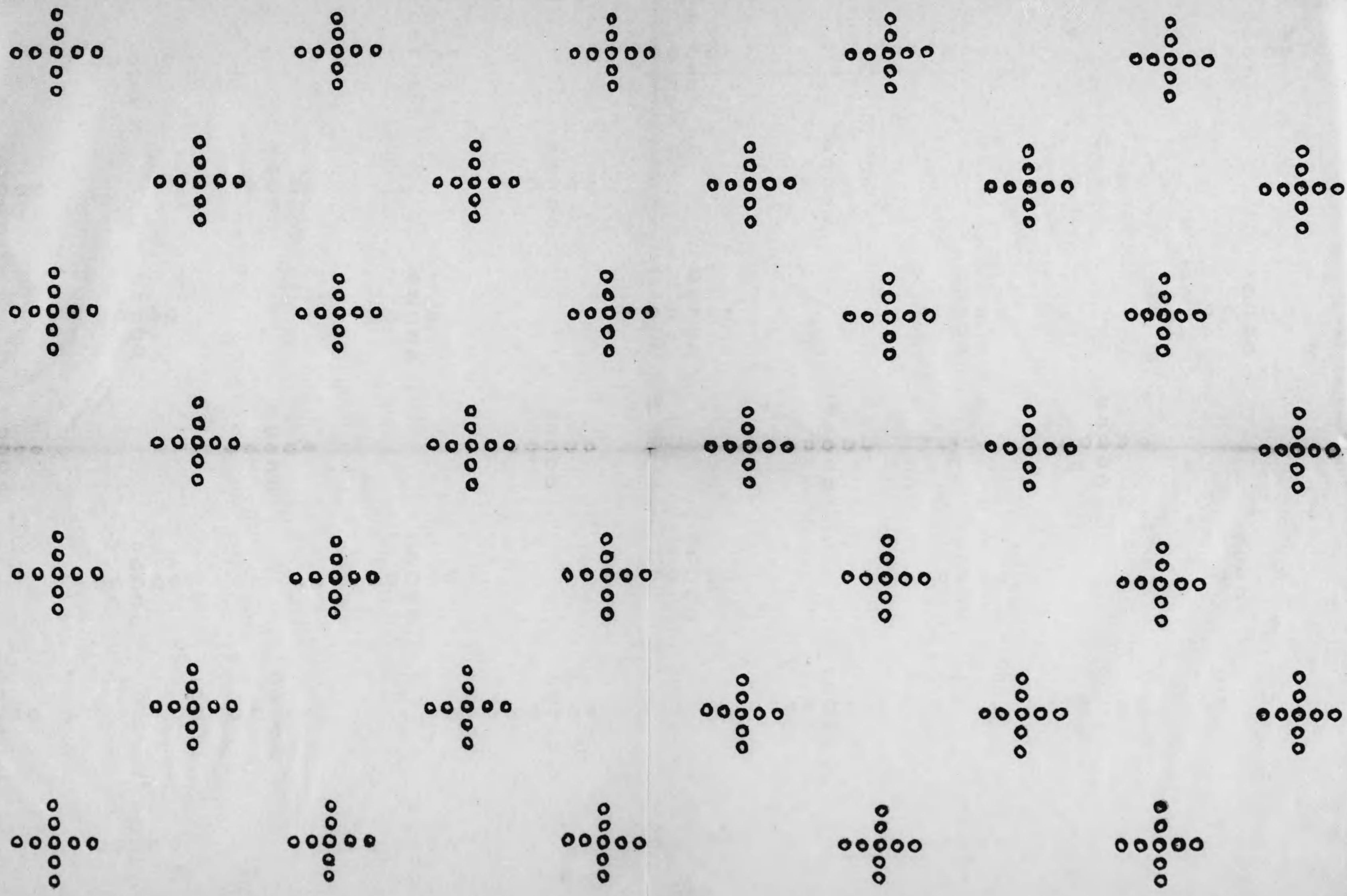


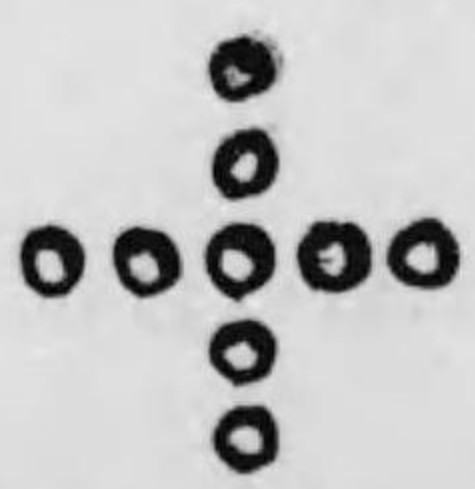
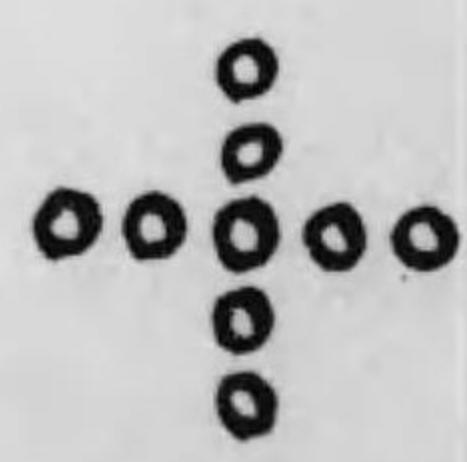
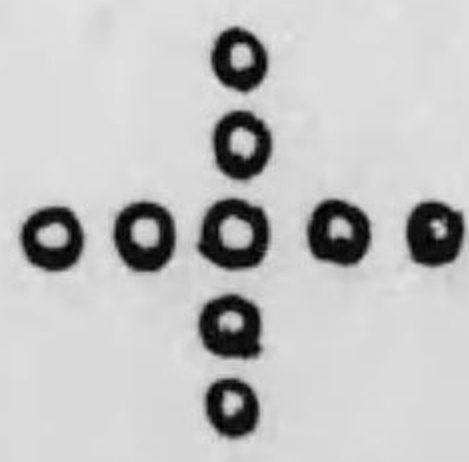
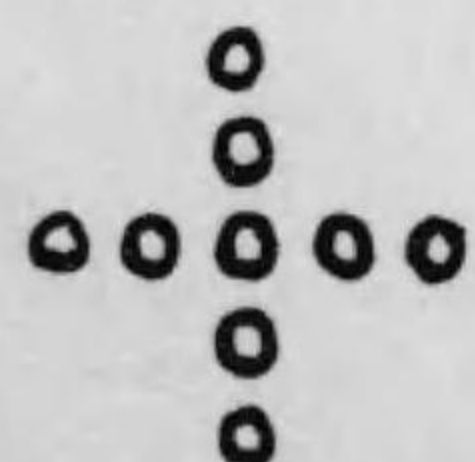
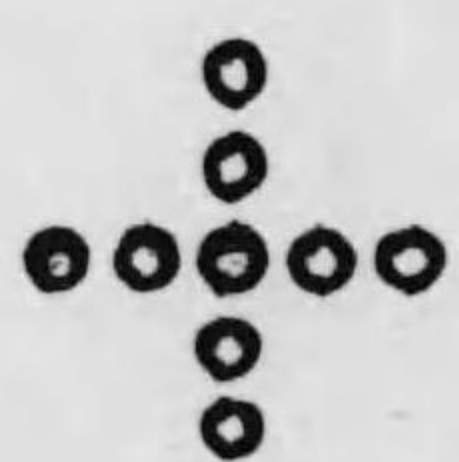
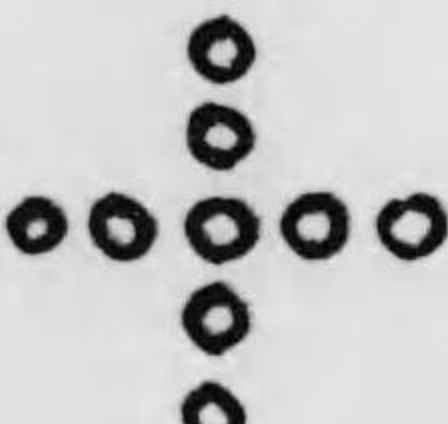
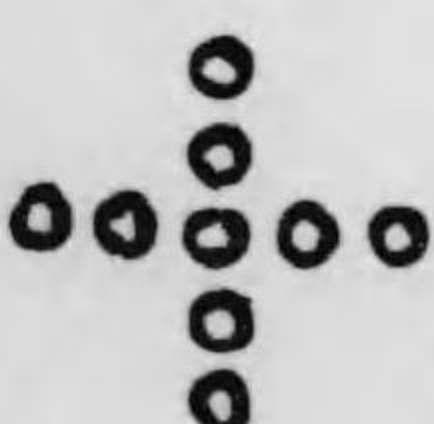
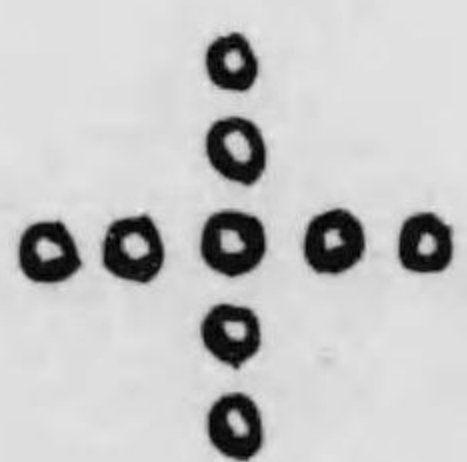
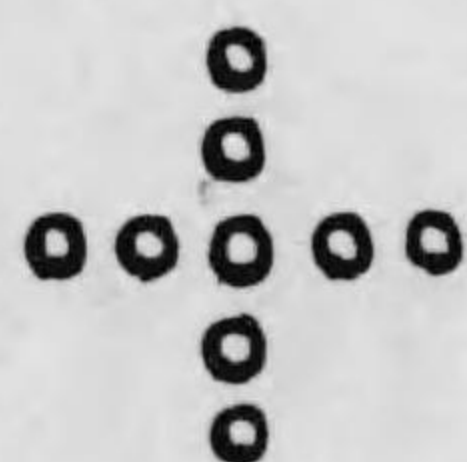
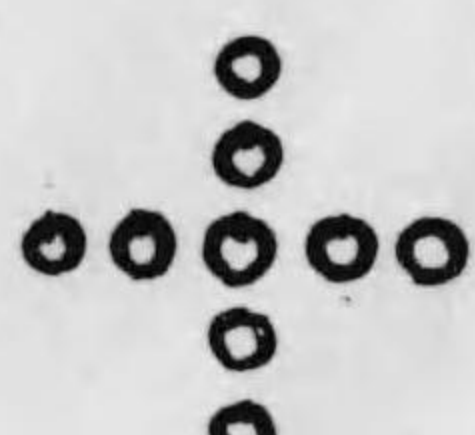
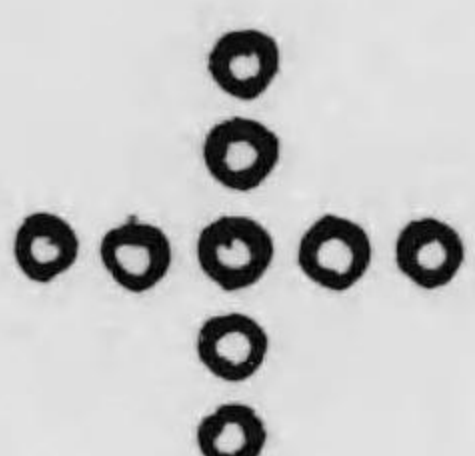
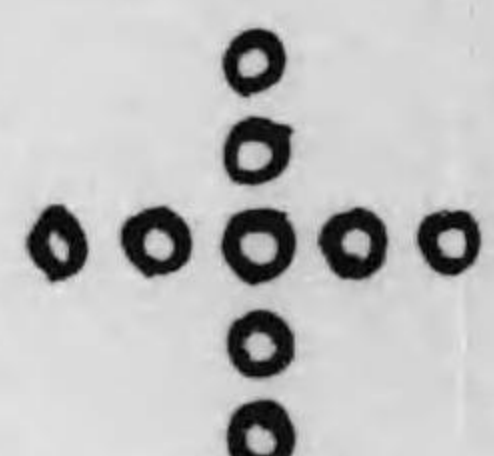
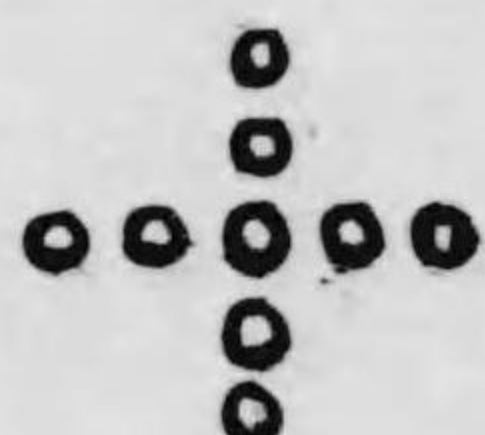
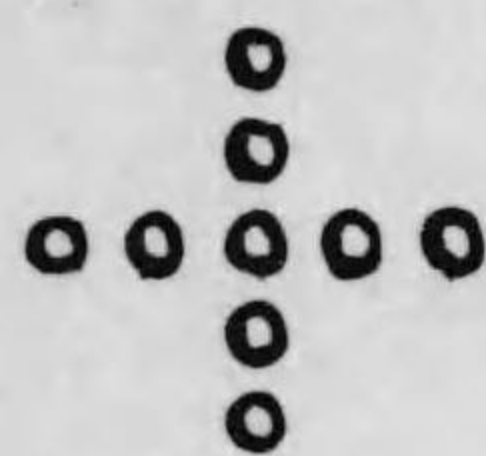
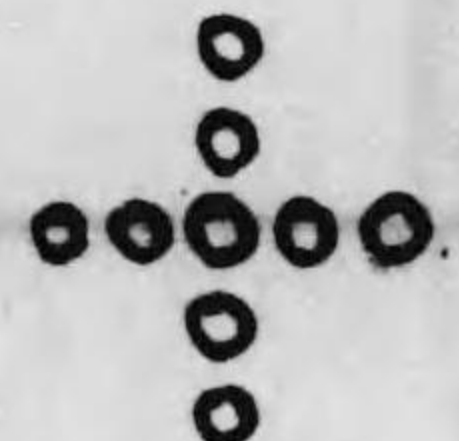
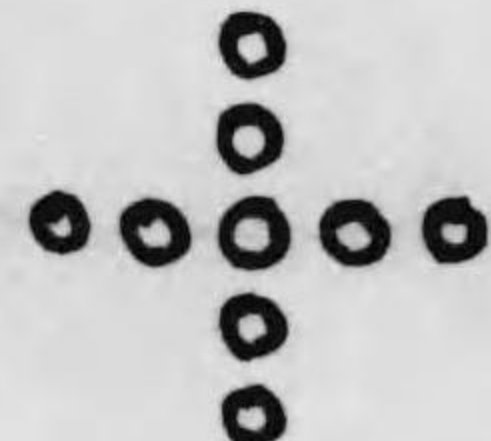
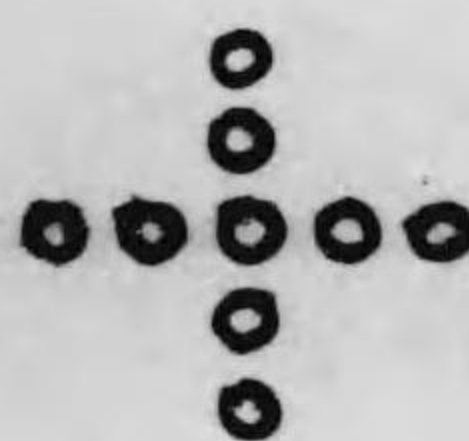
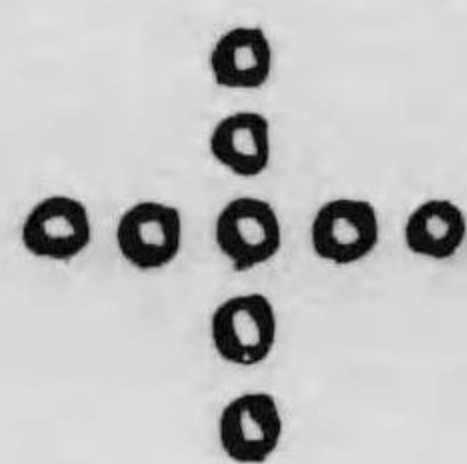
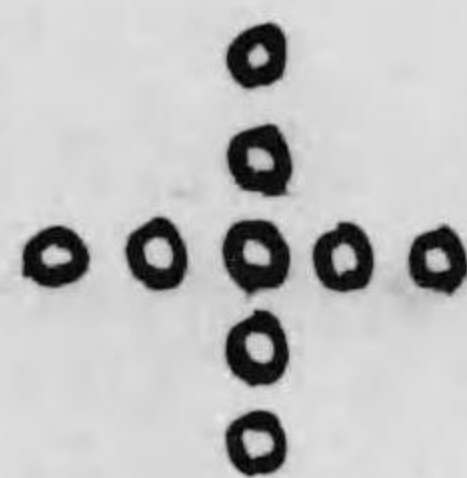
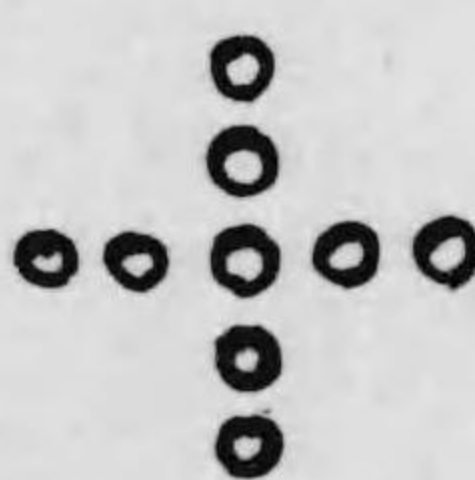
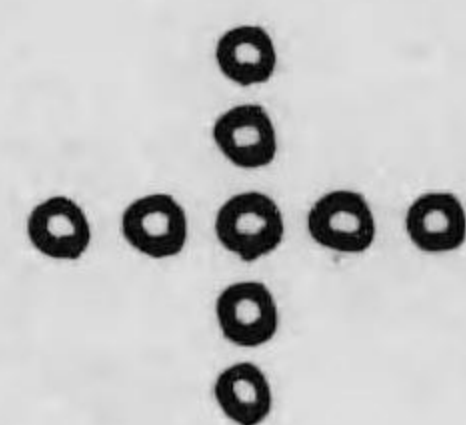
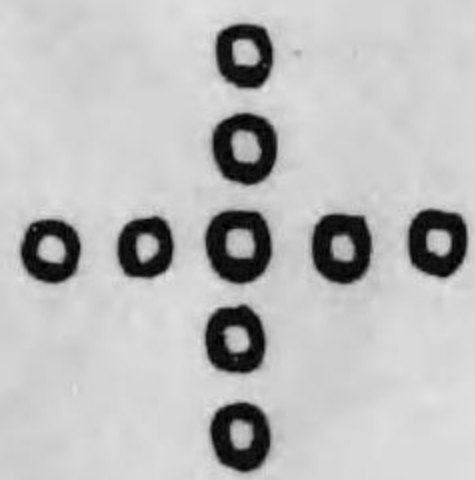
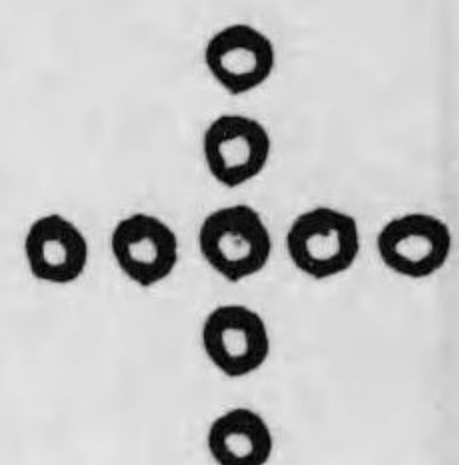
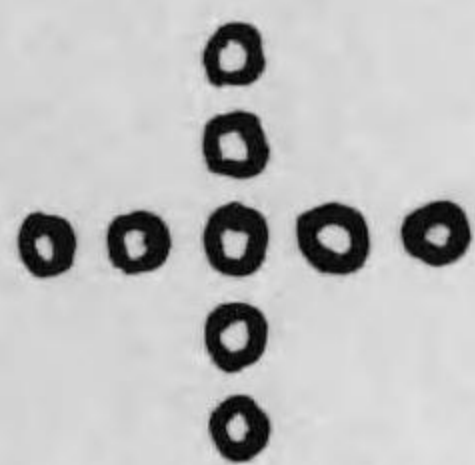
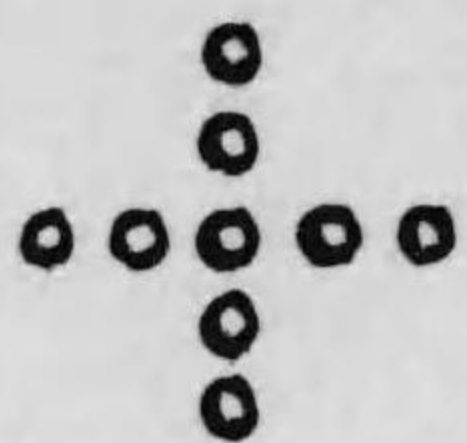
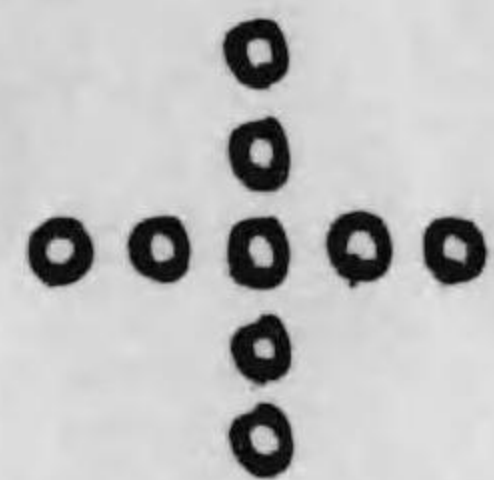
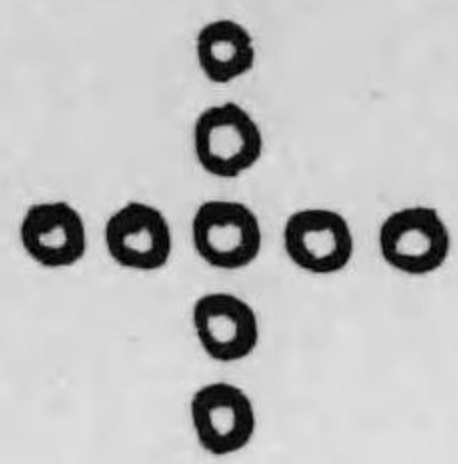
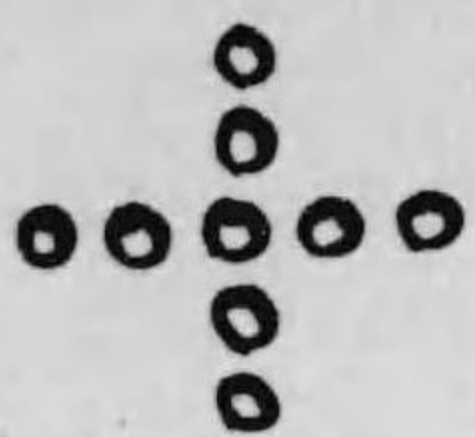
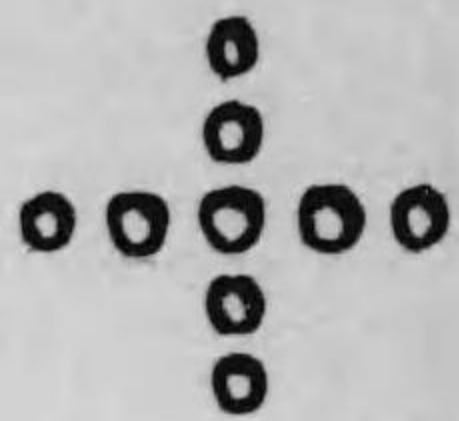
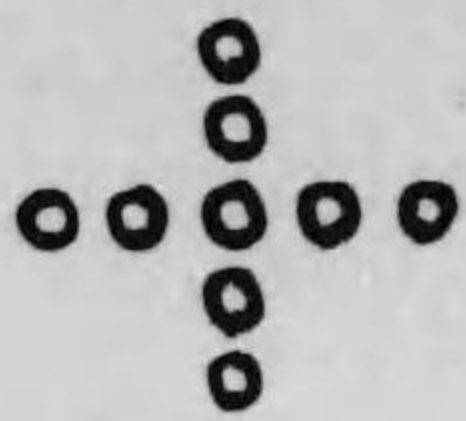
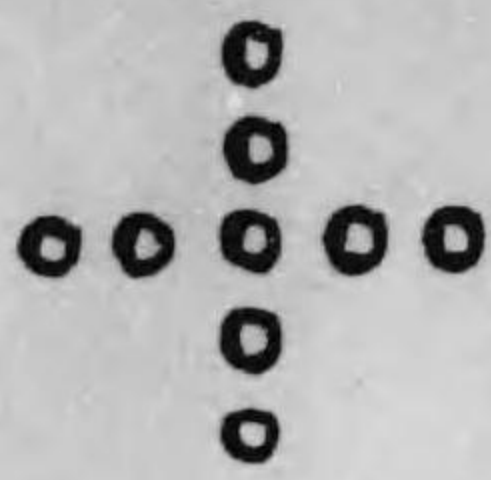
(イ)



(ホ)

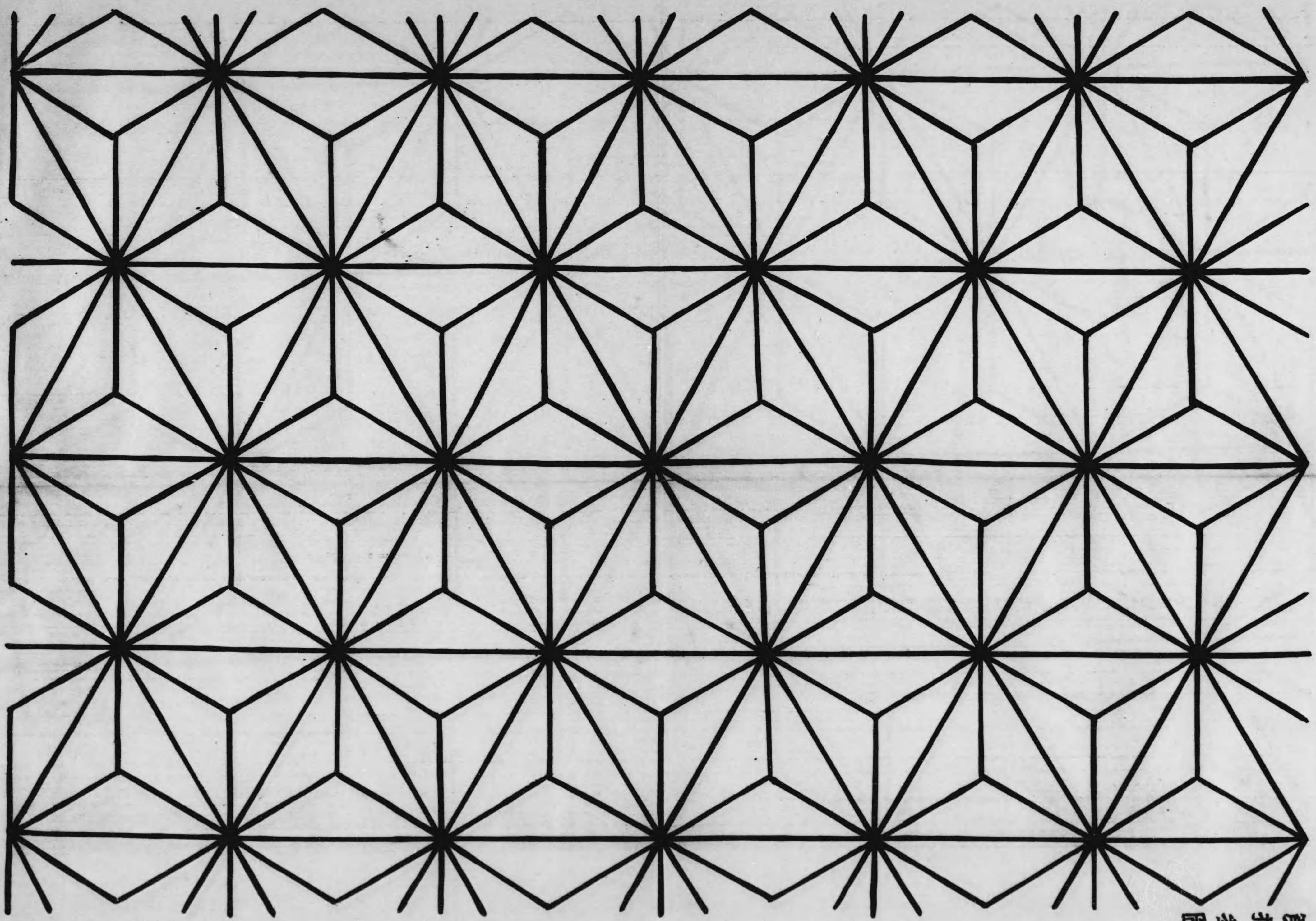






第拾貳圖

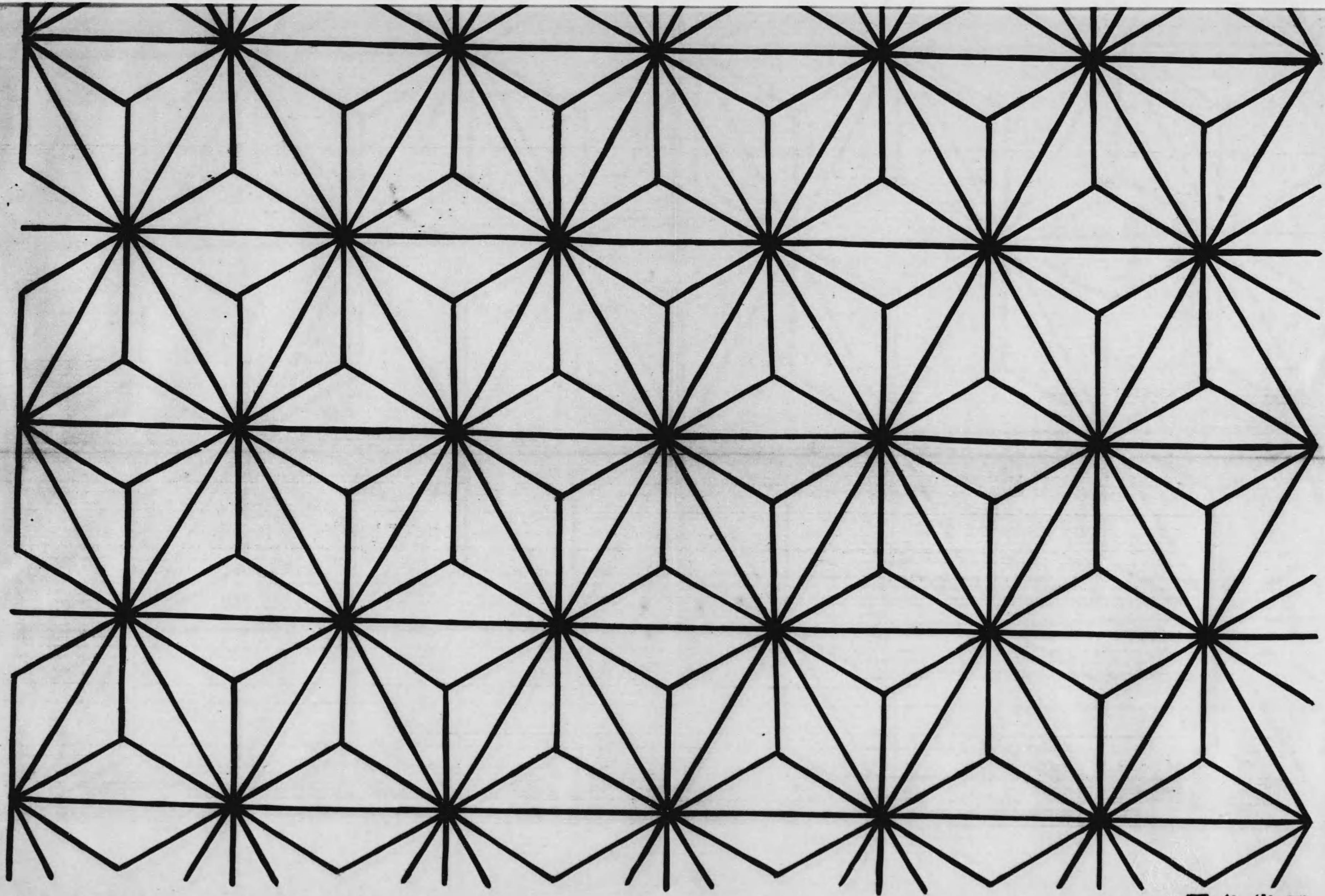
第拾壹圖



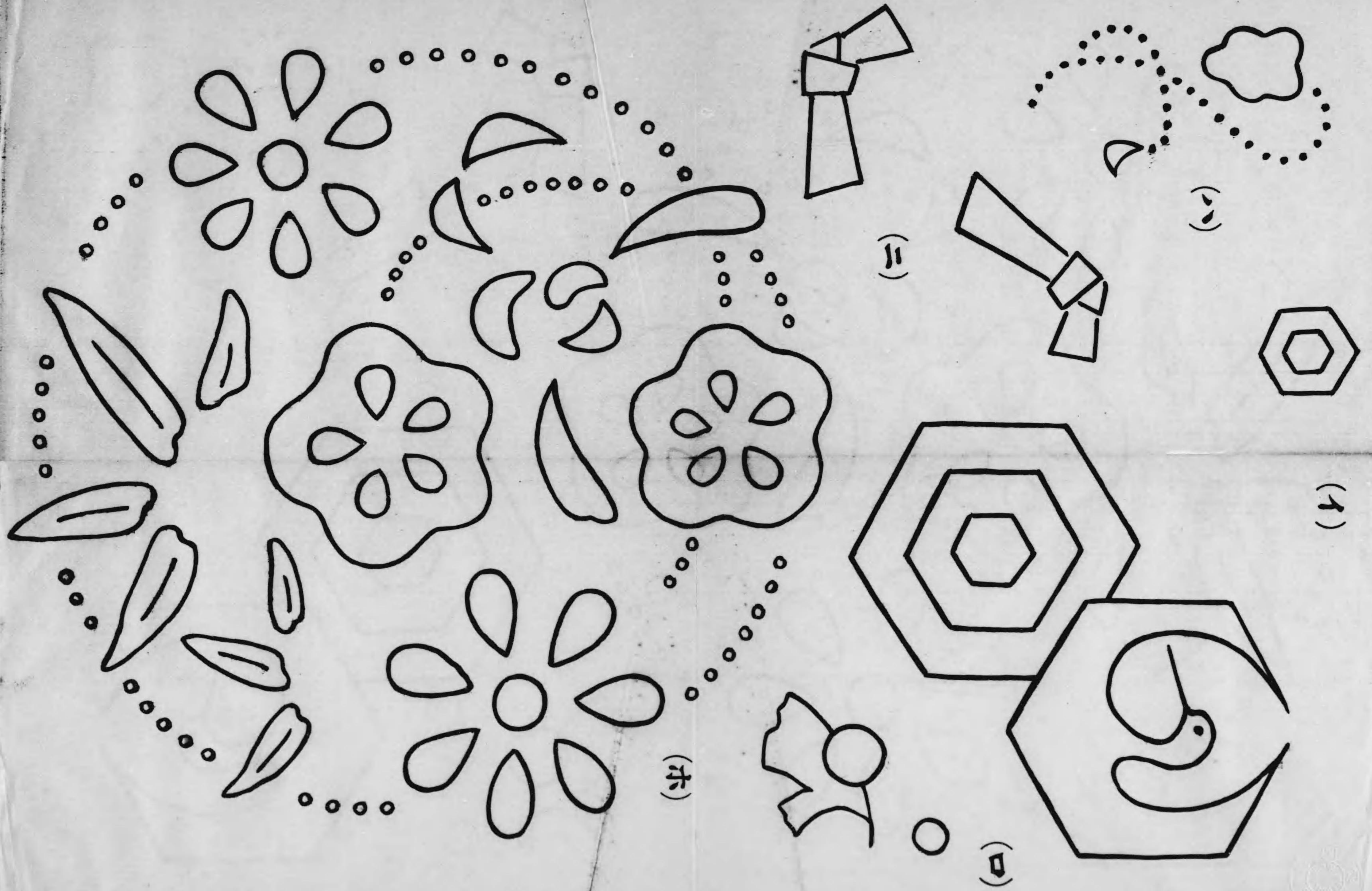
第拾壹圖



○○○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○



第拾參圖



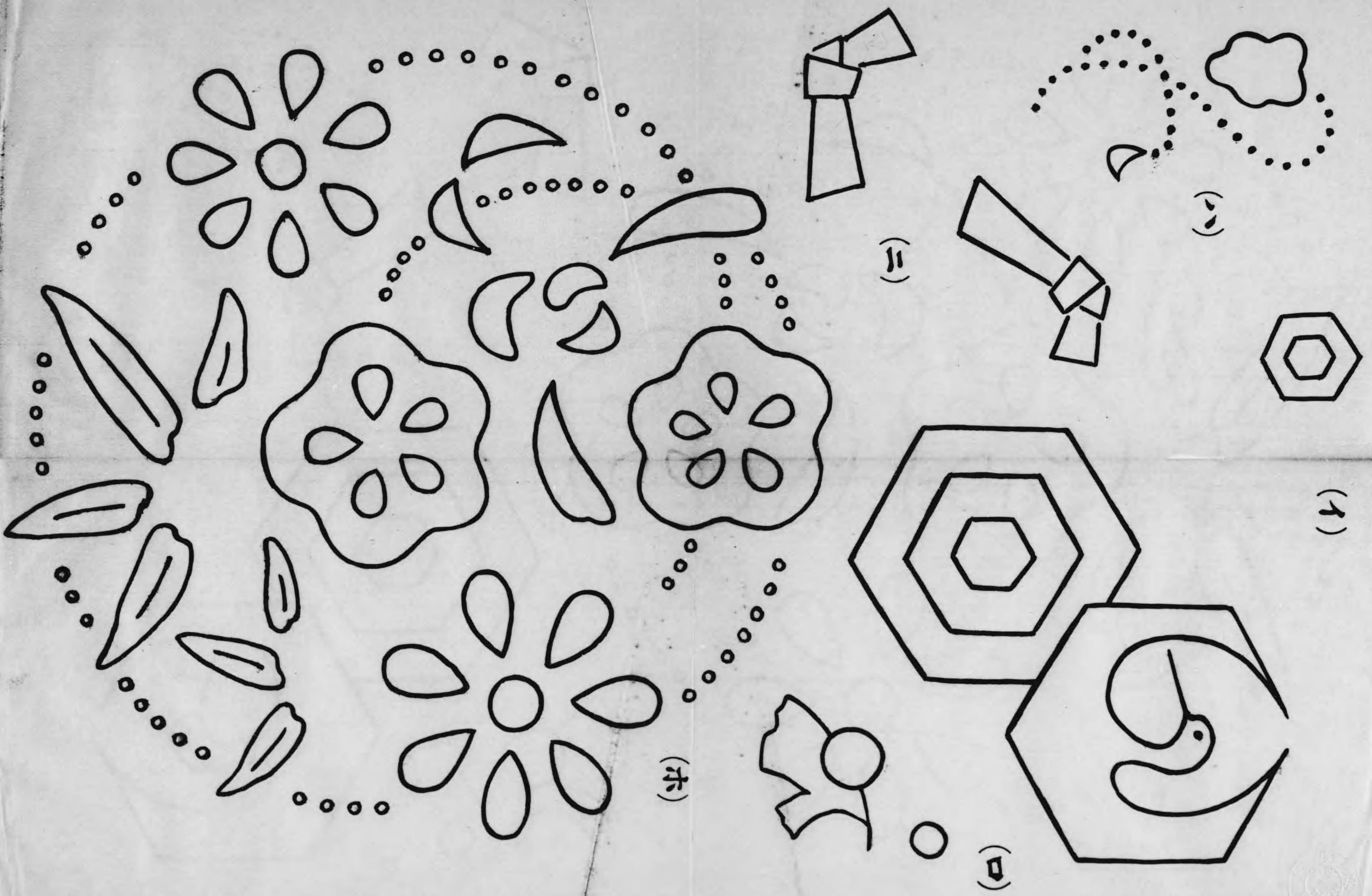
(一)

(二)

(三)

(ホ)

(口)



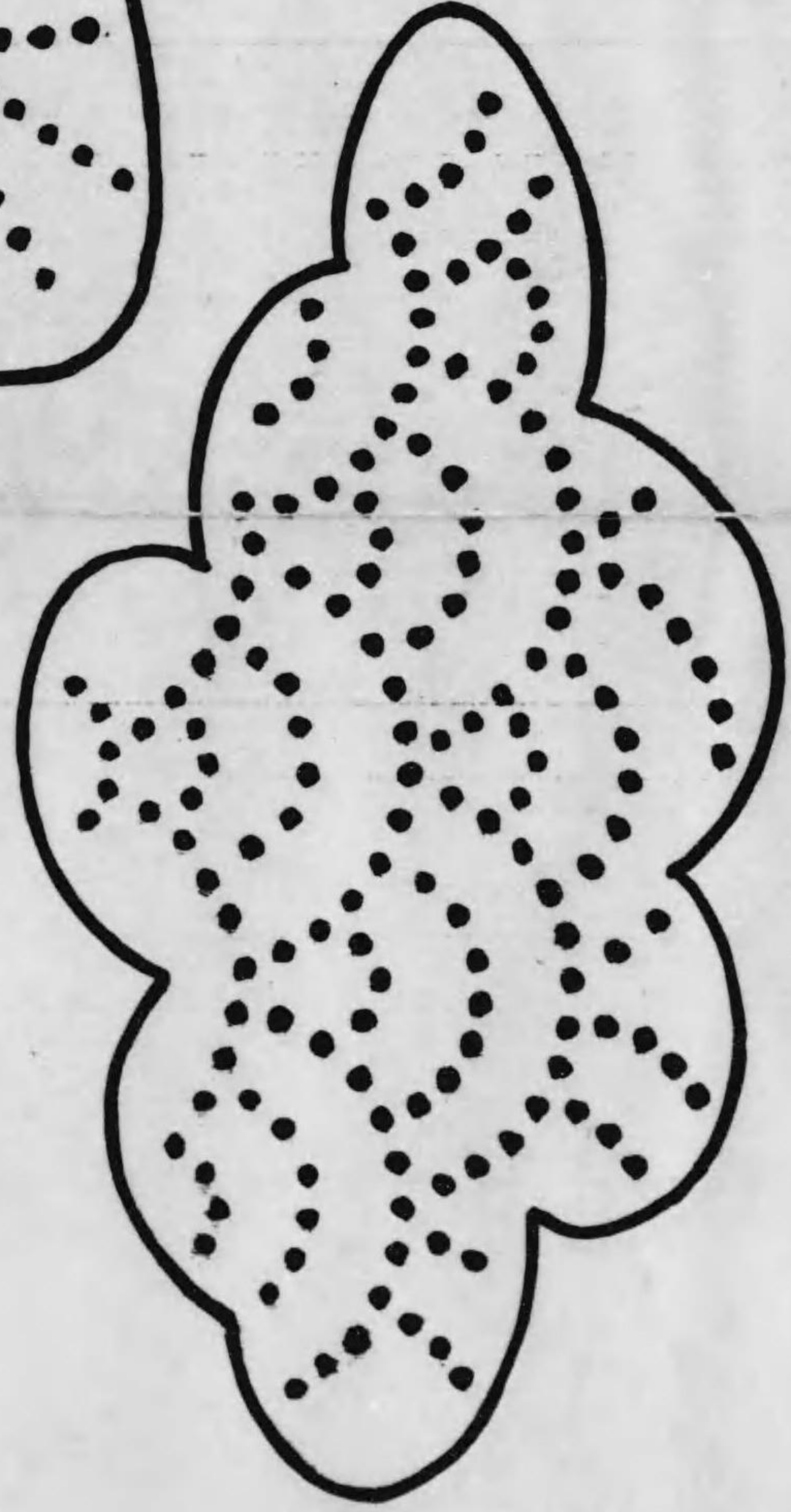
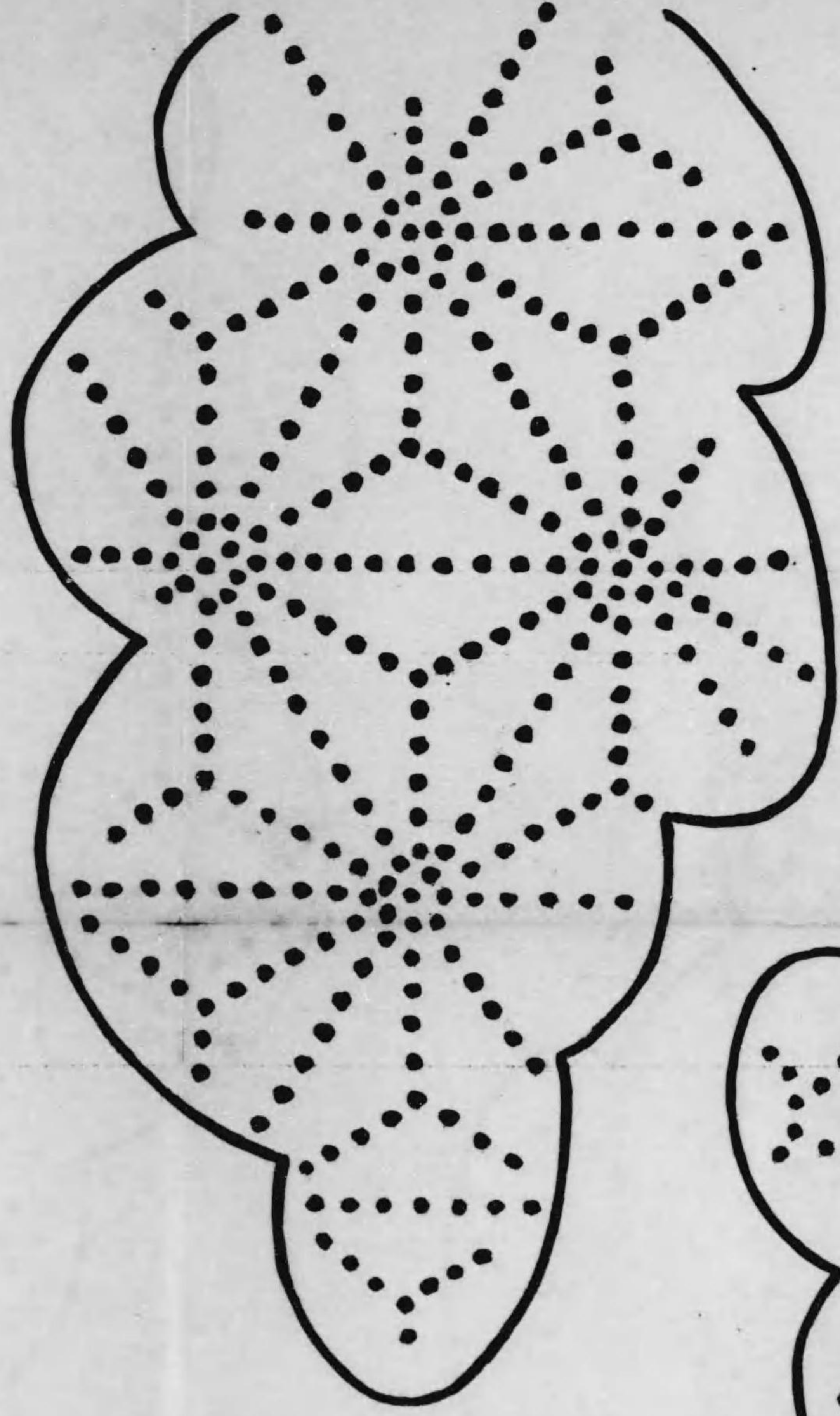
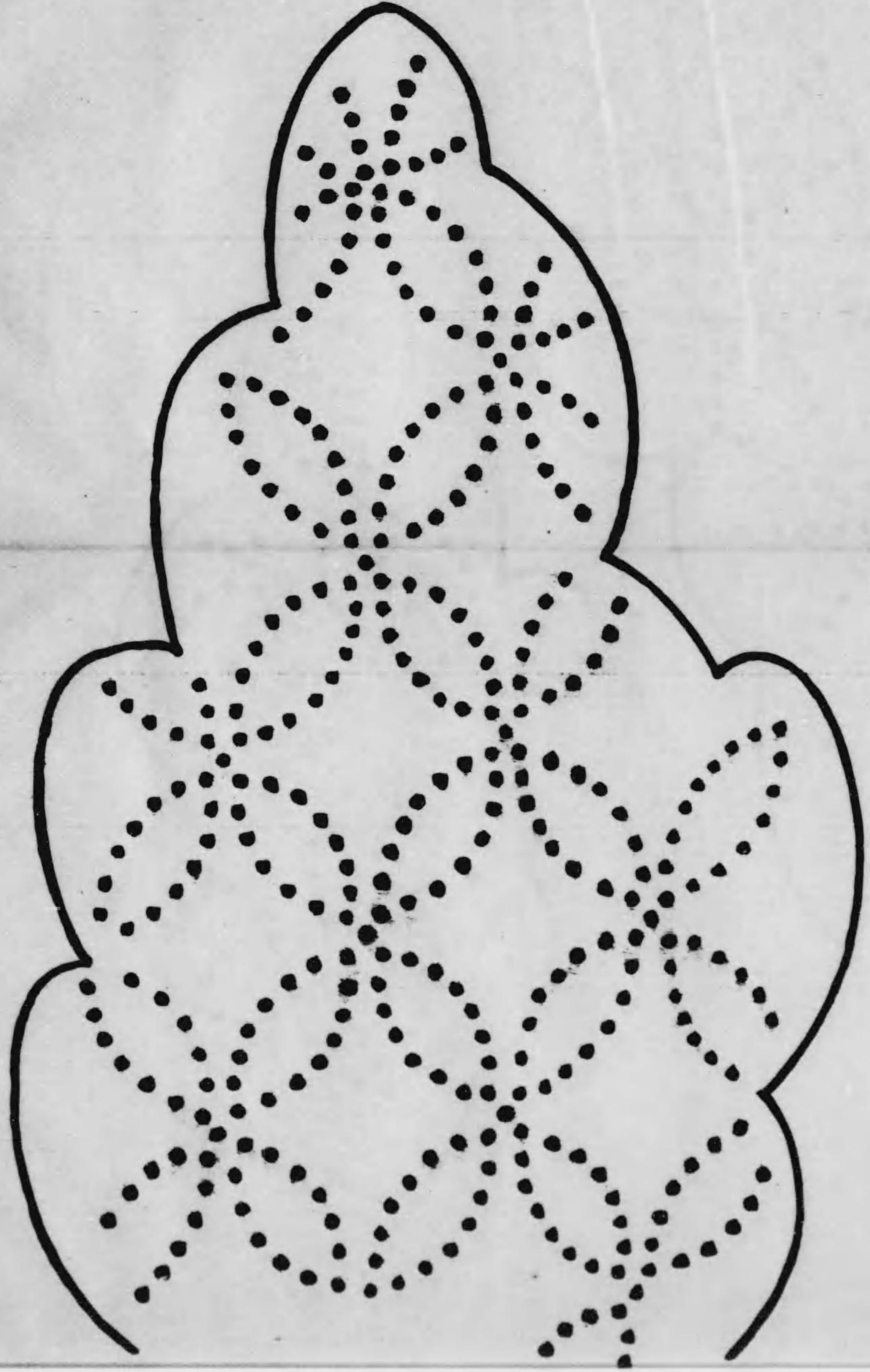
(1)

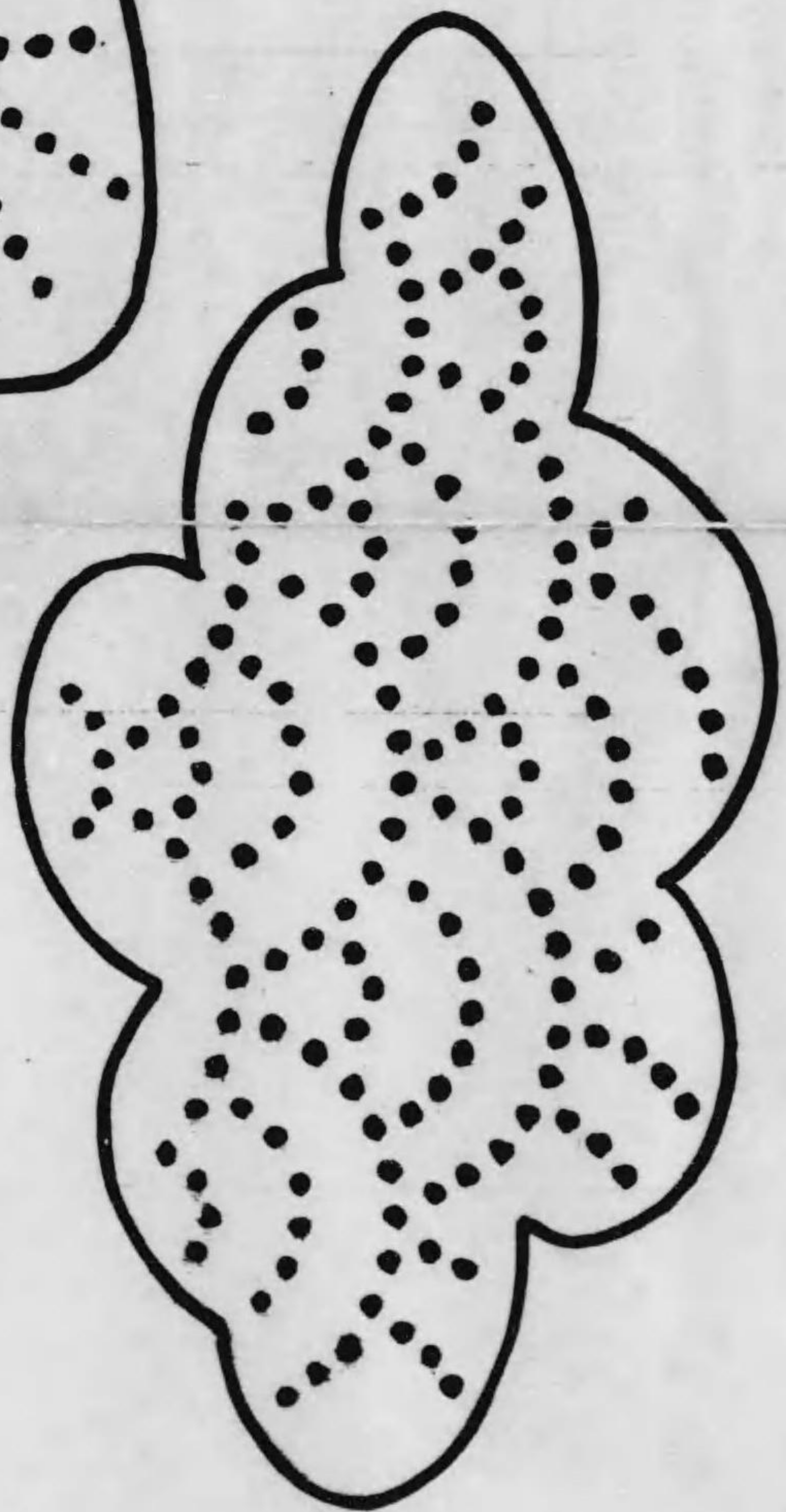
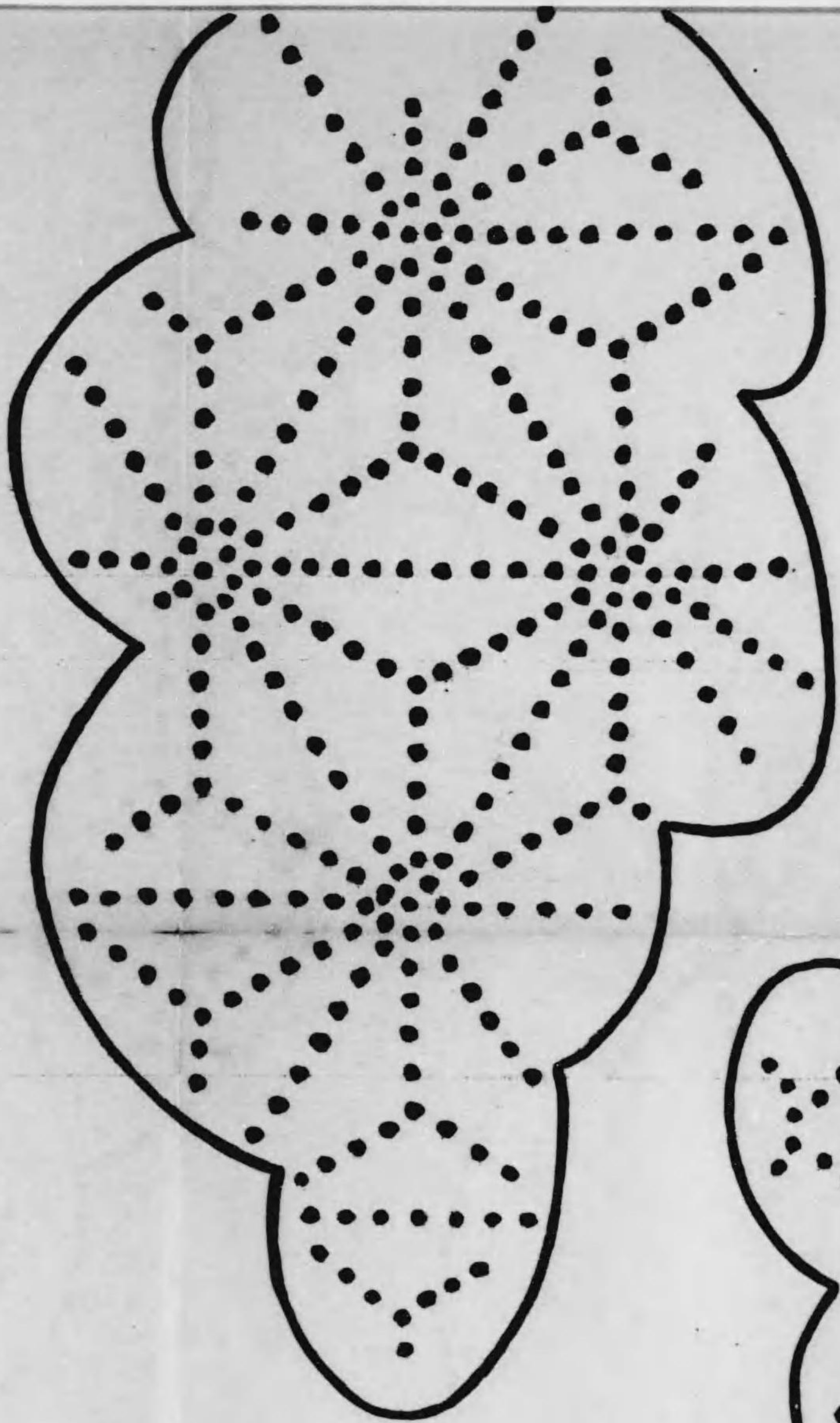
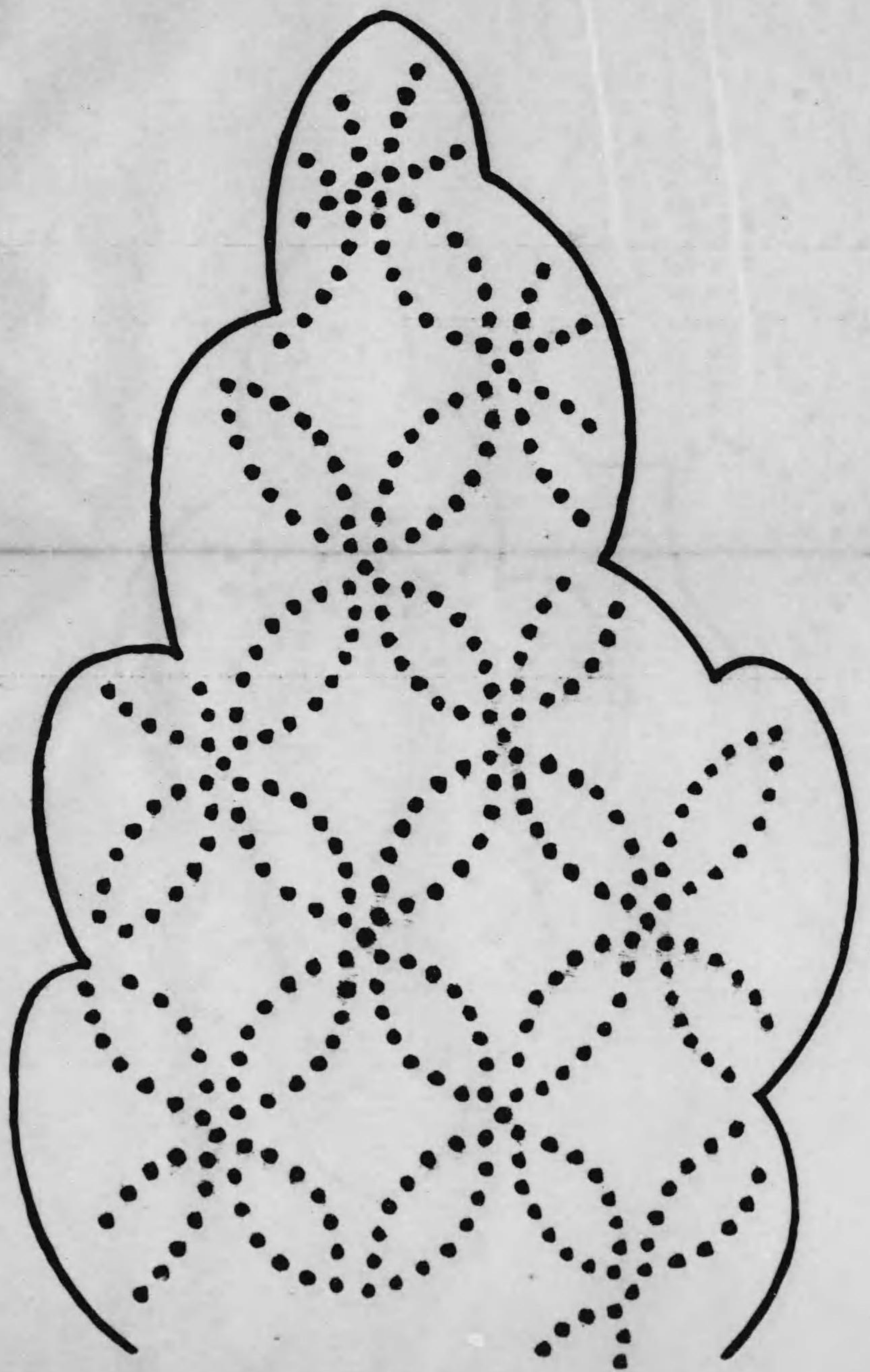
(2)

(3)

(4)

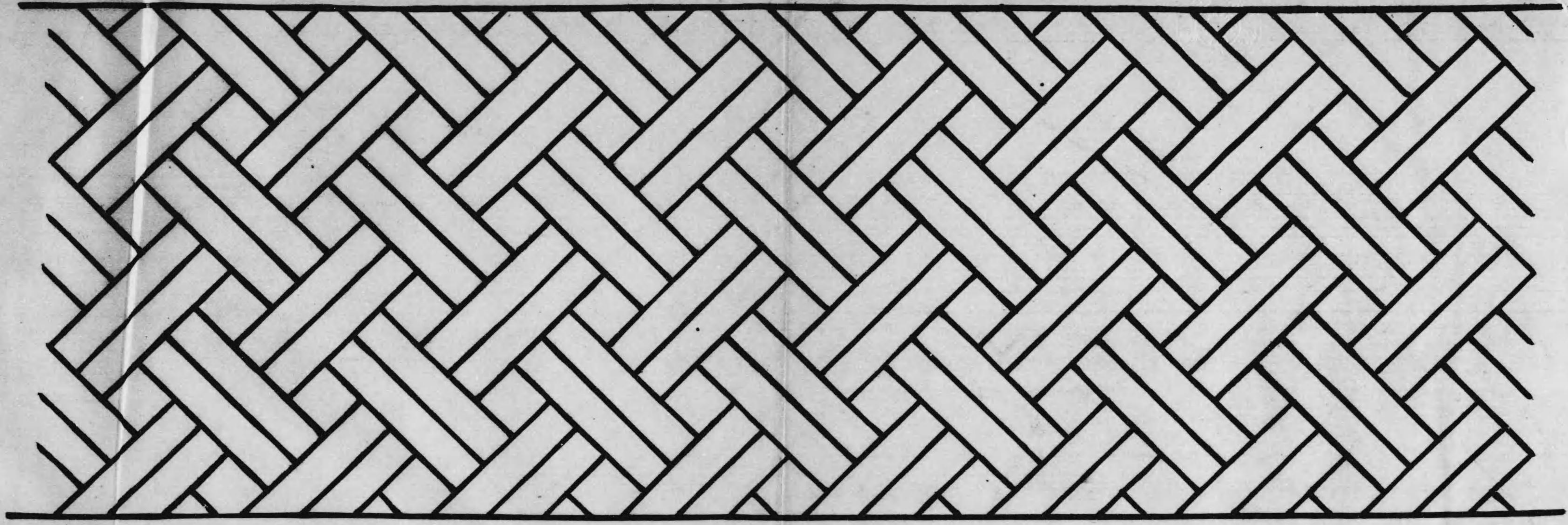
(5)



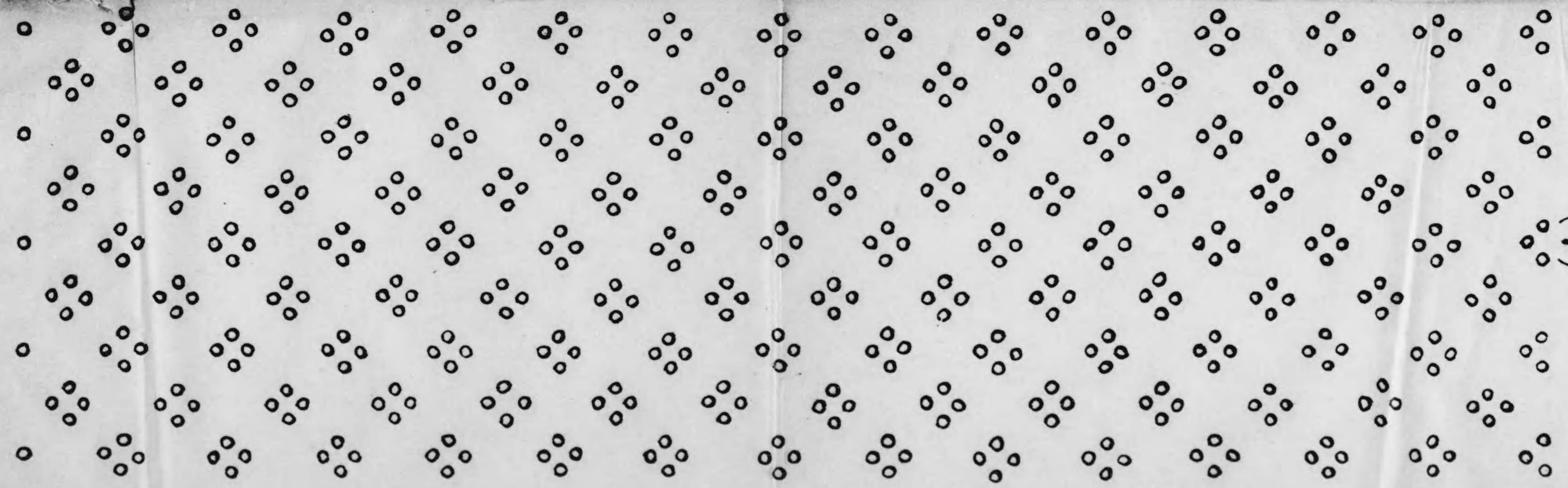


第拾五圖



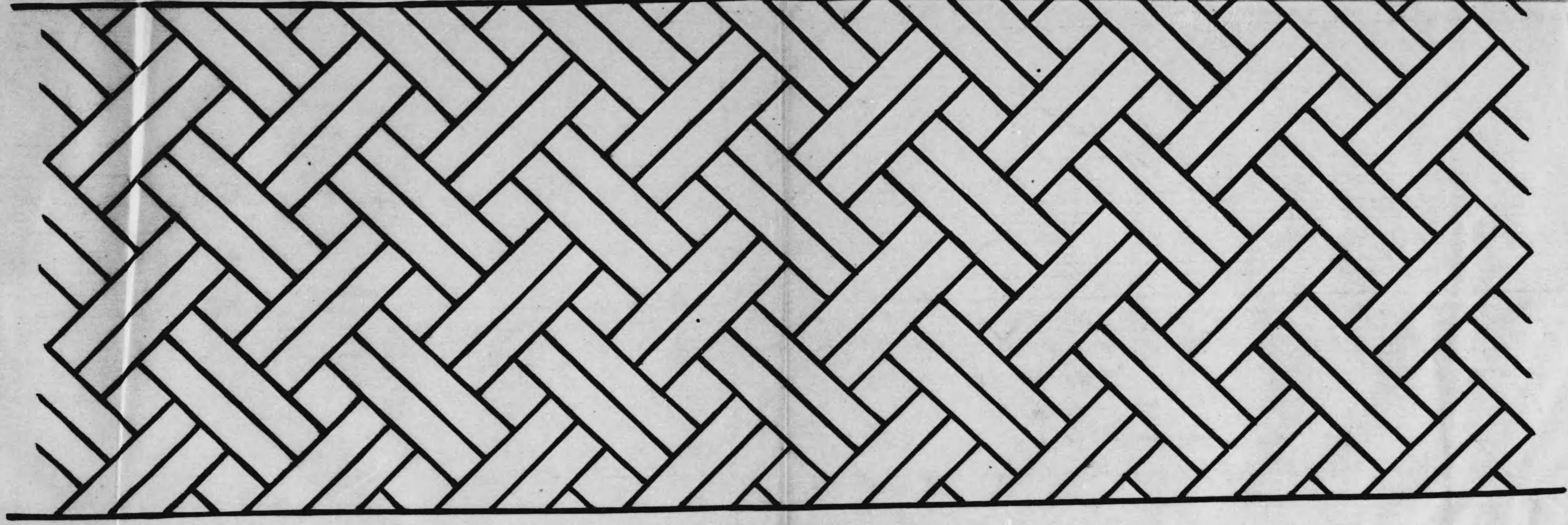


(口)

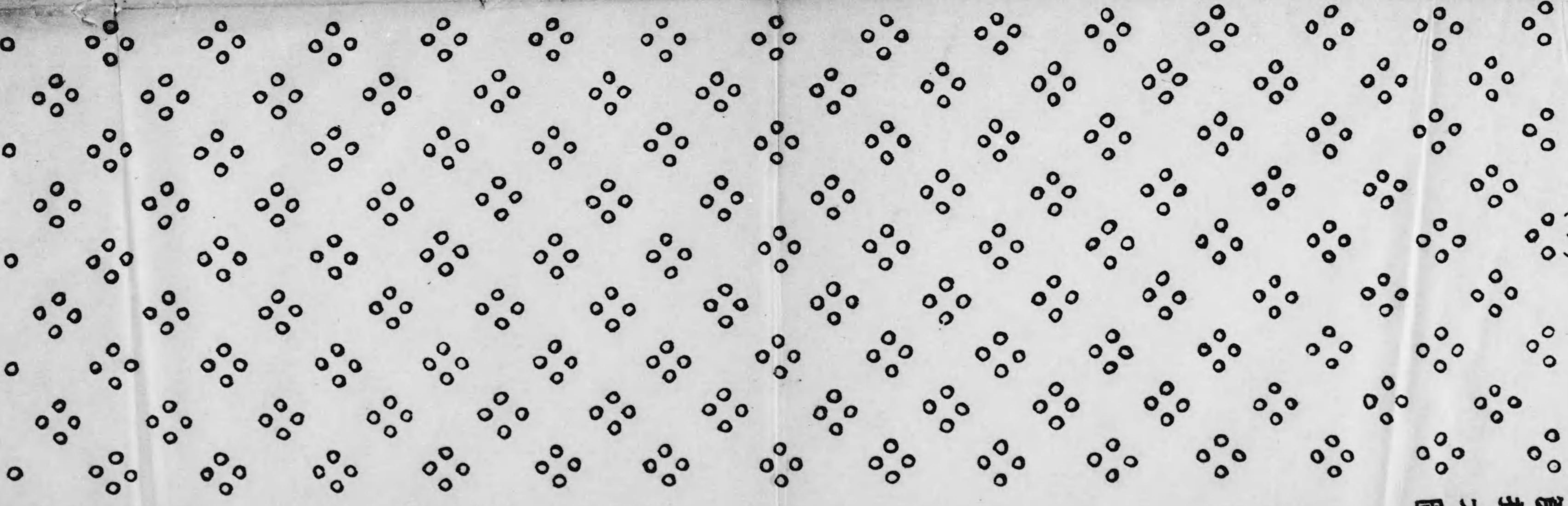


(1)

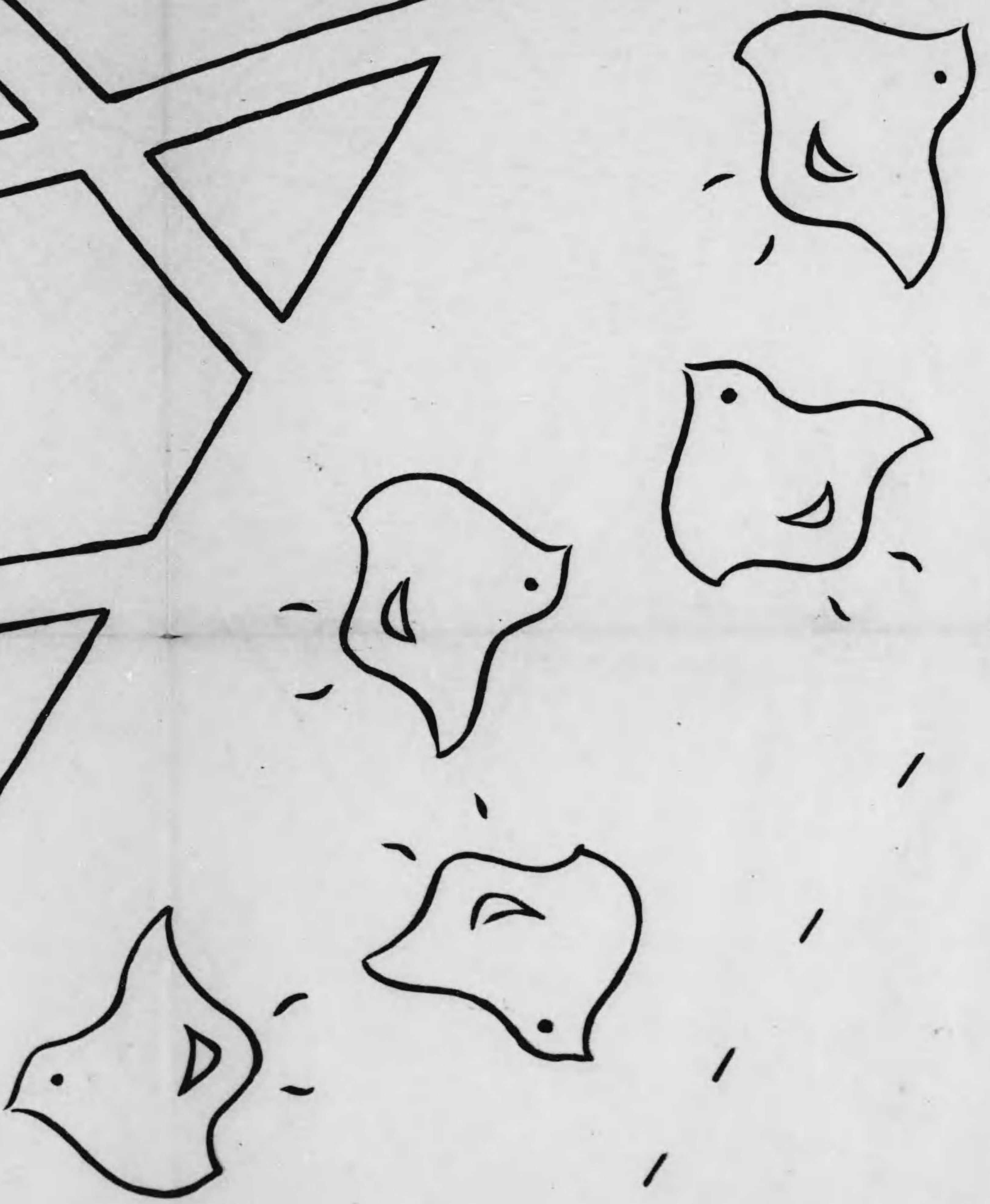
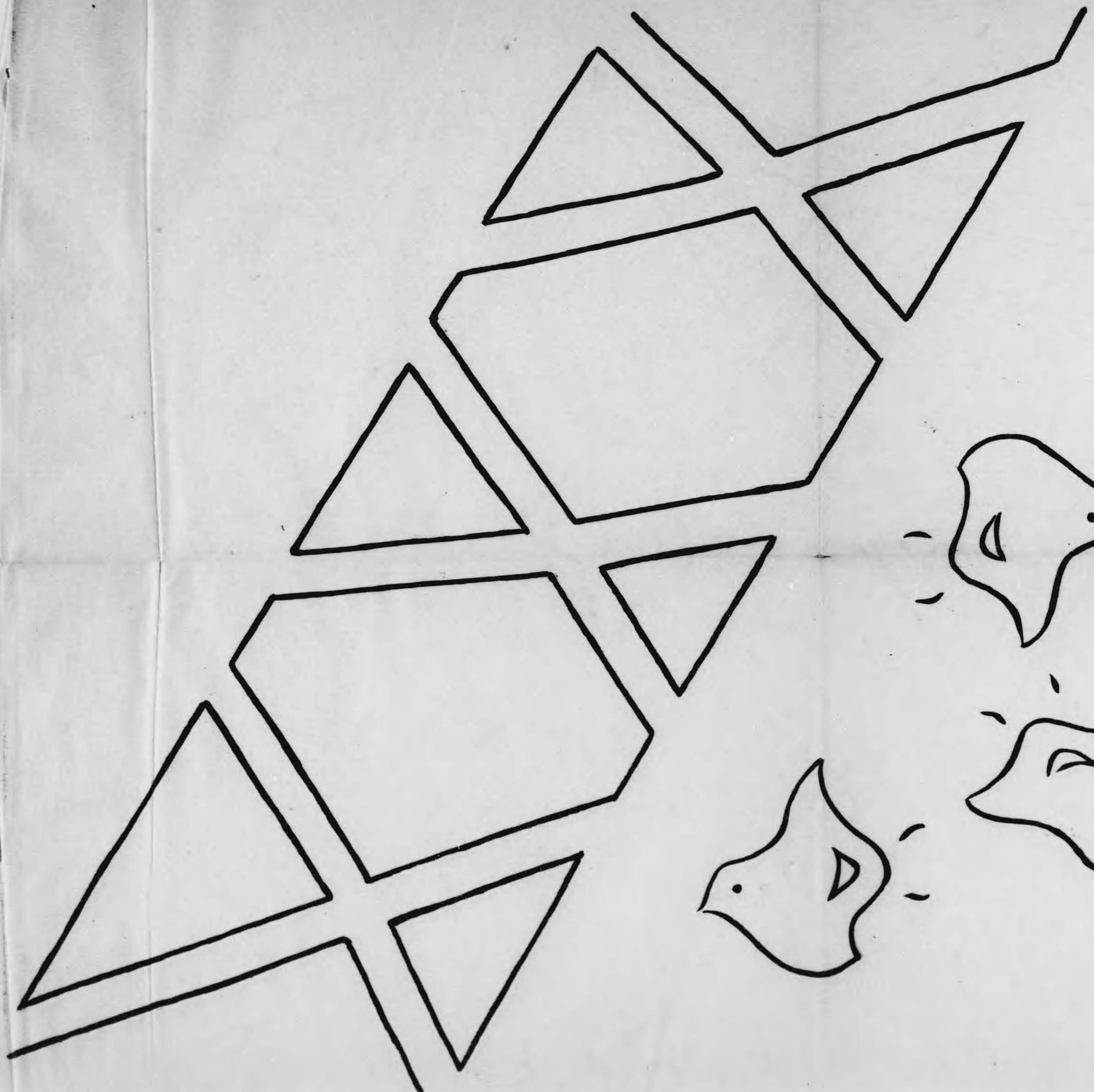
(口)



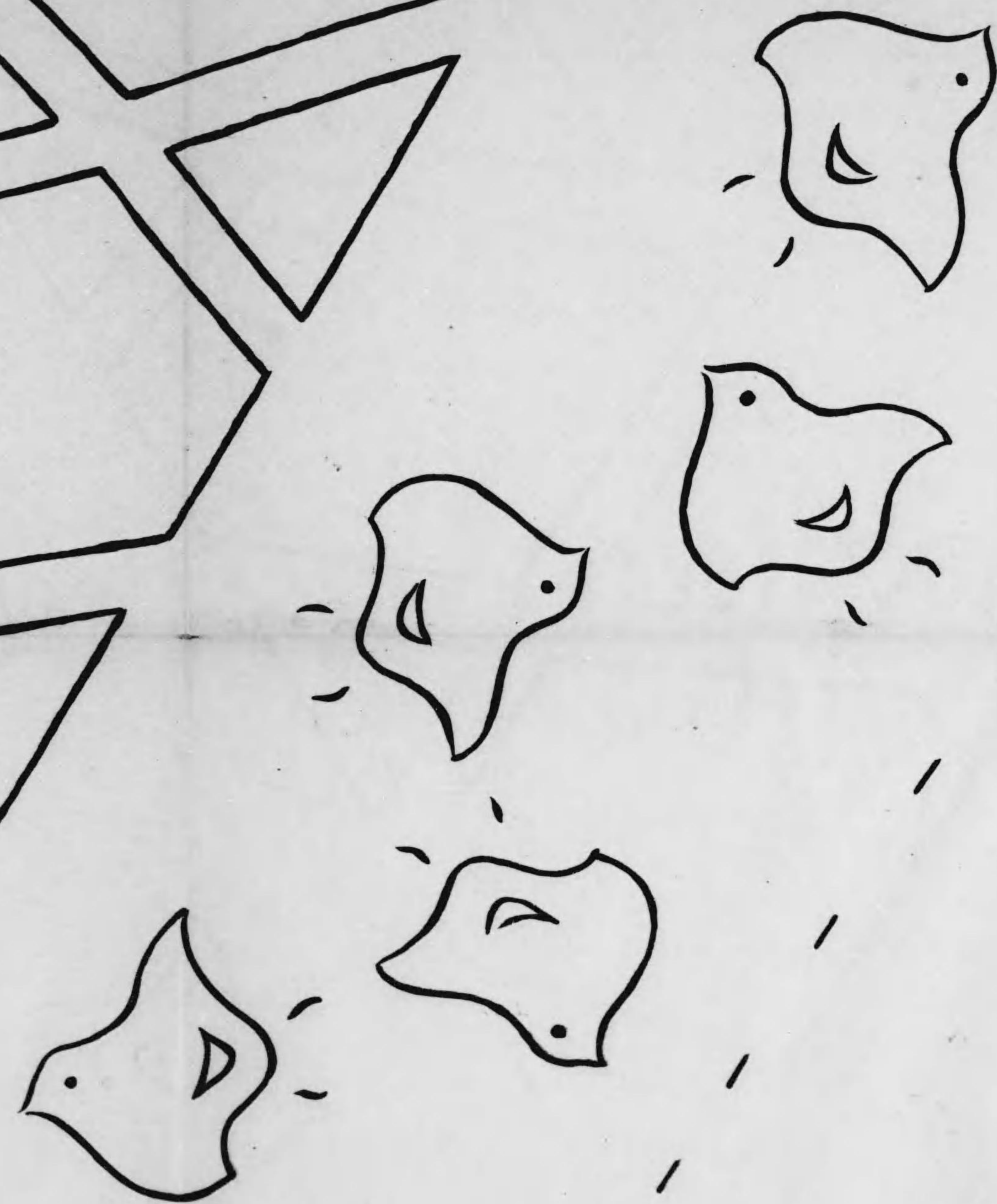
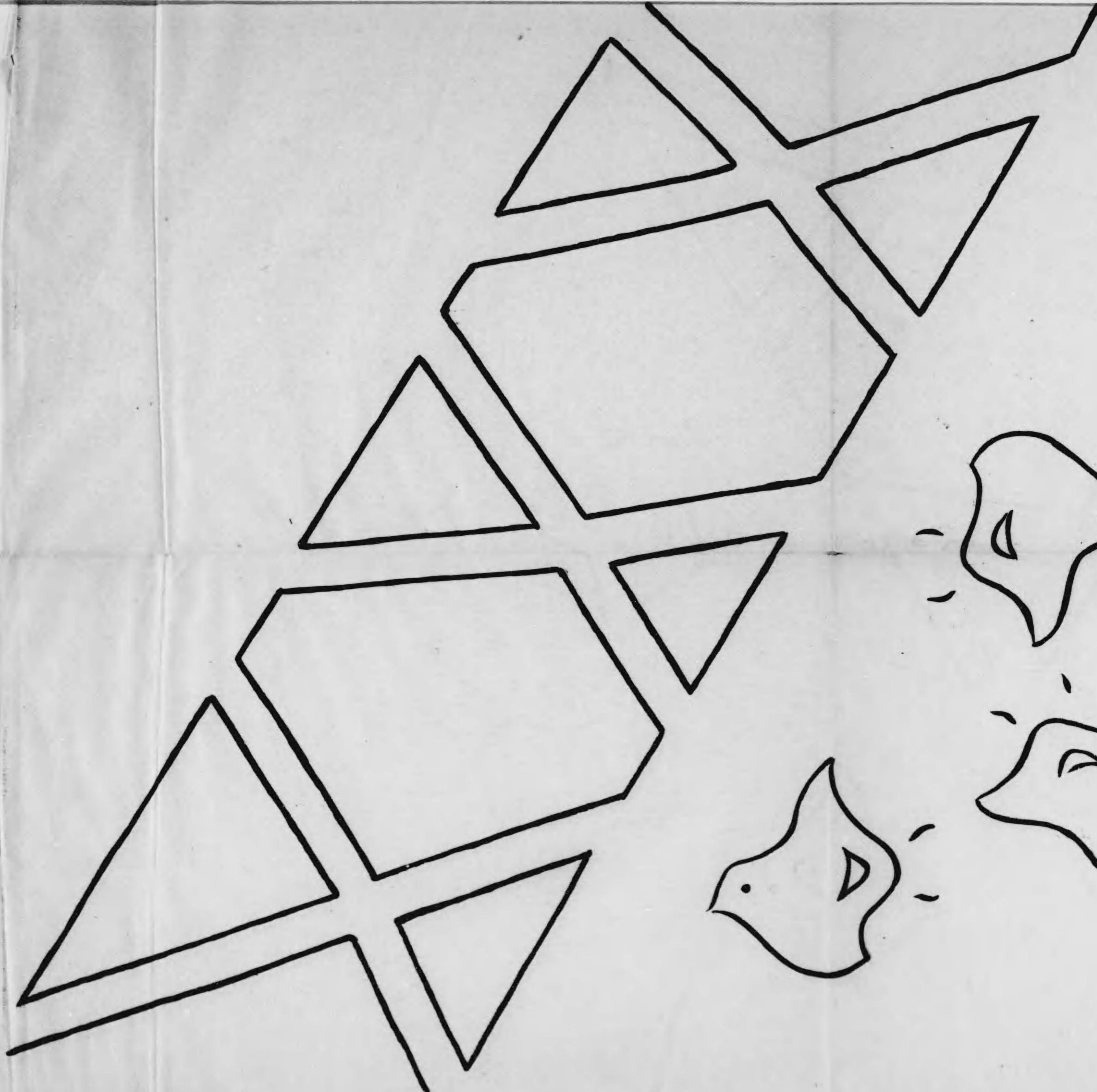
(1)



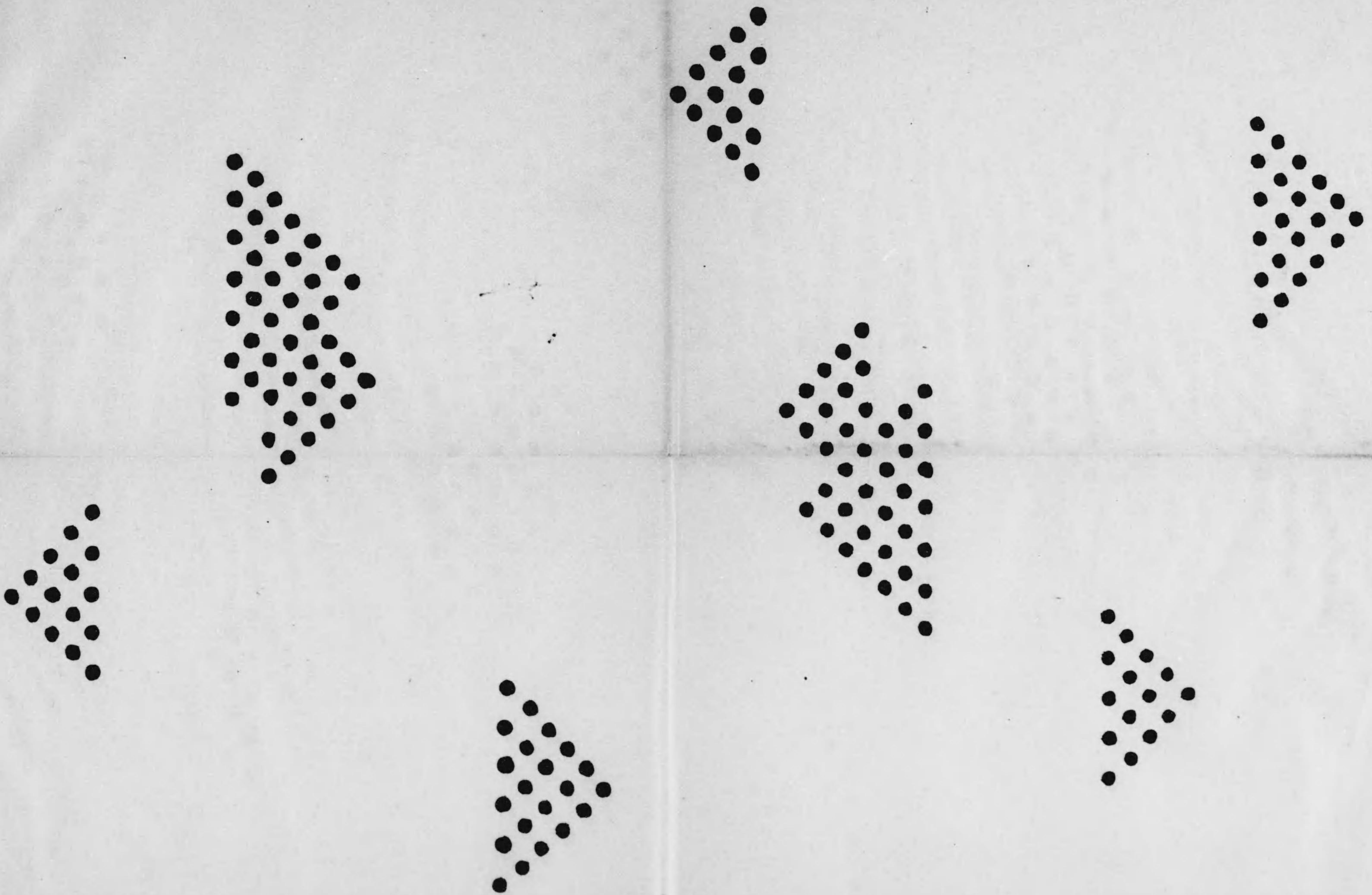
第拾六圖

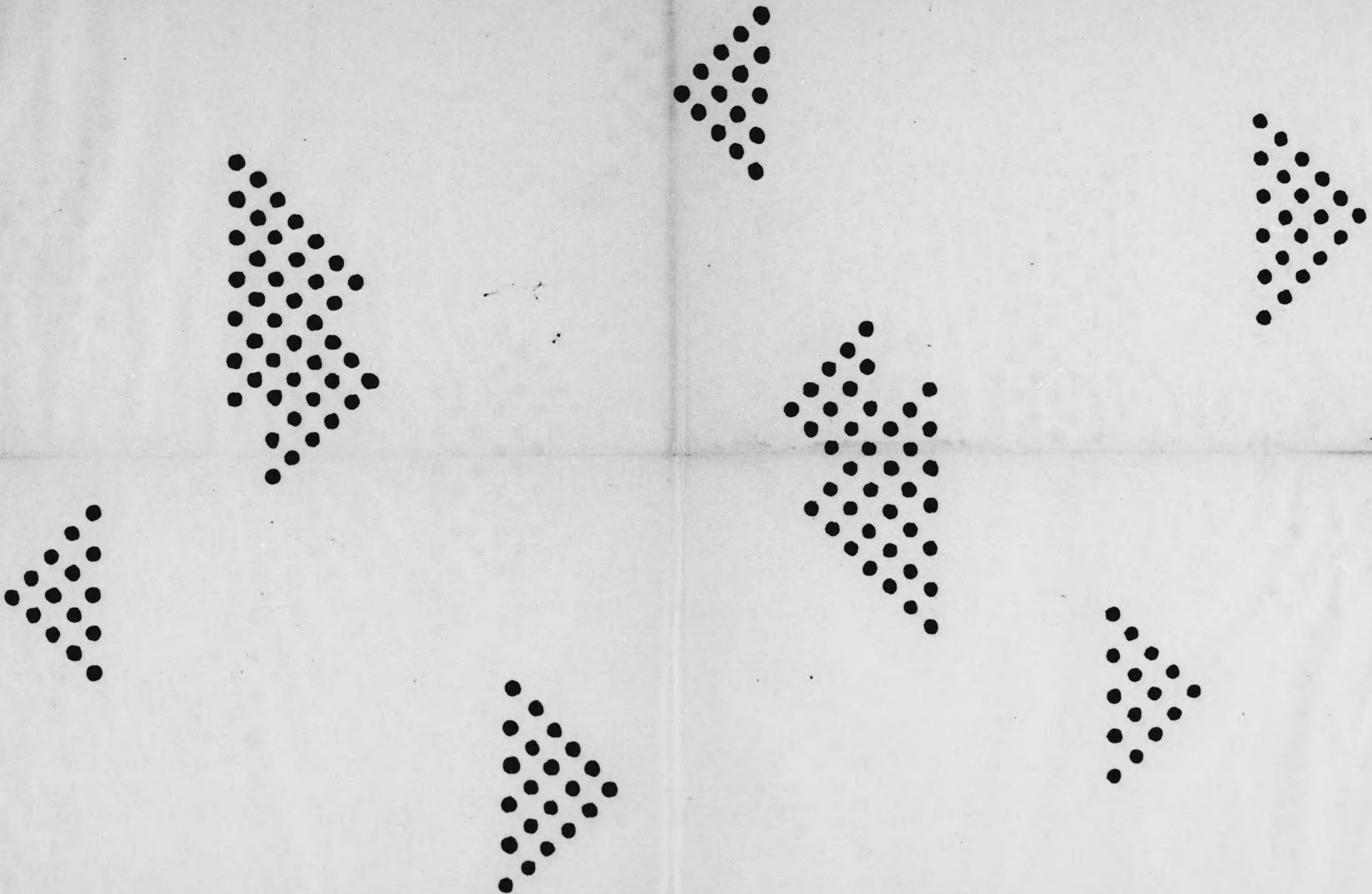


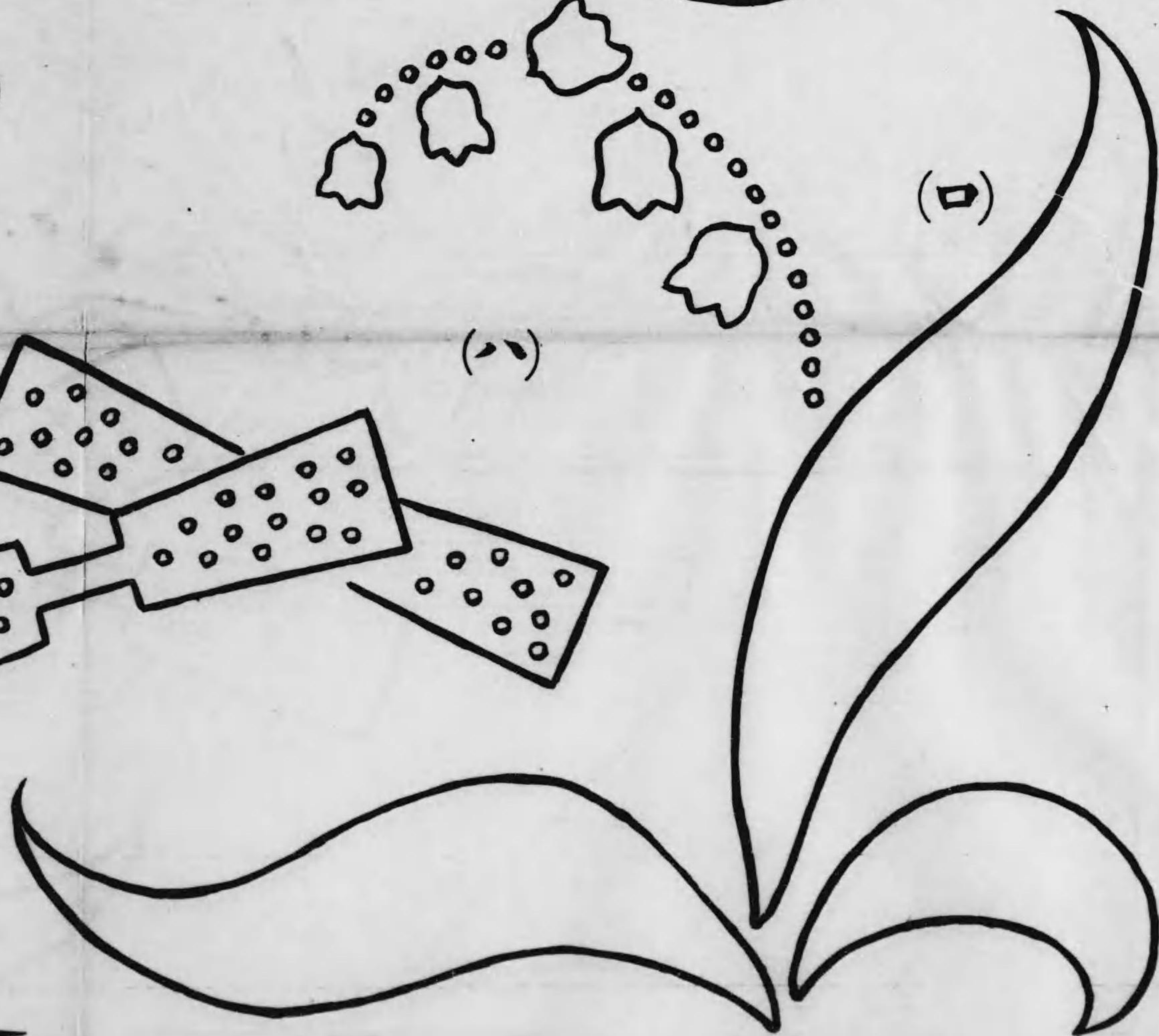
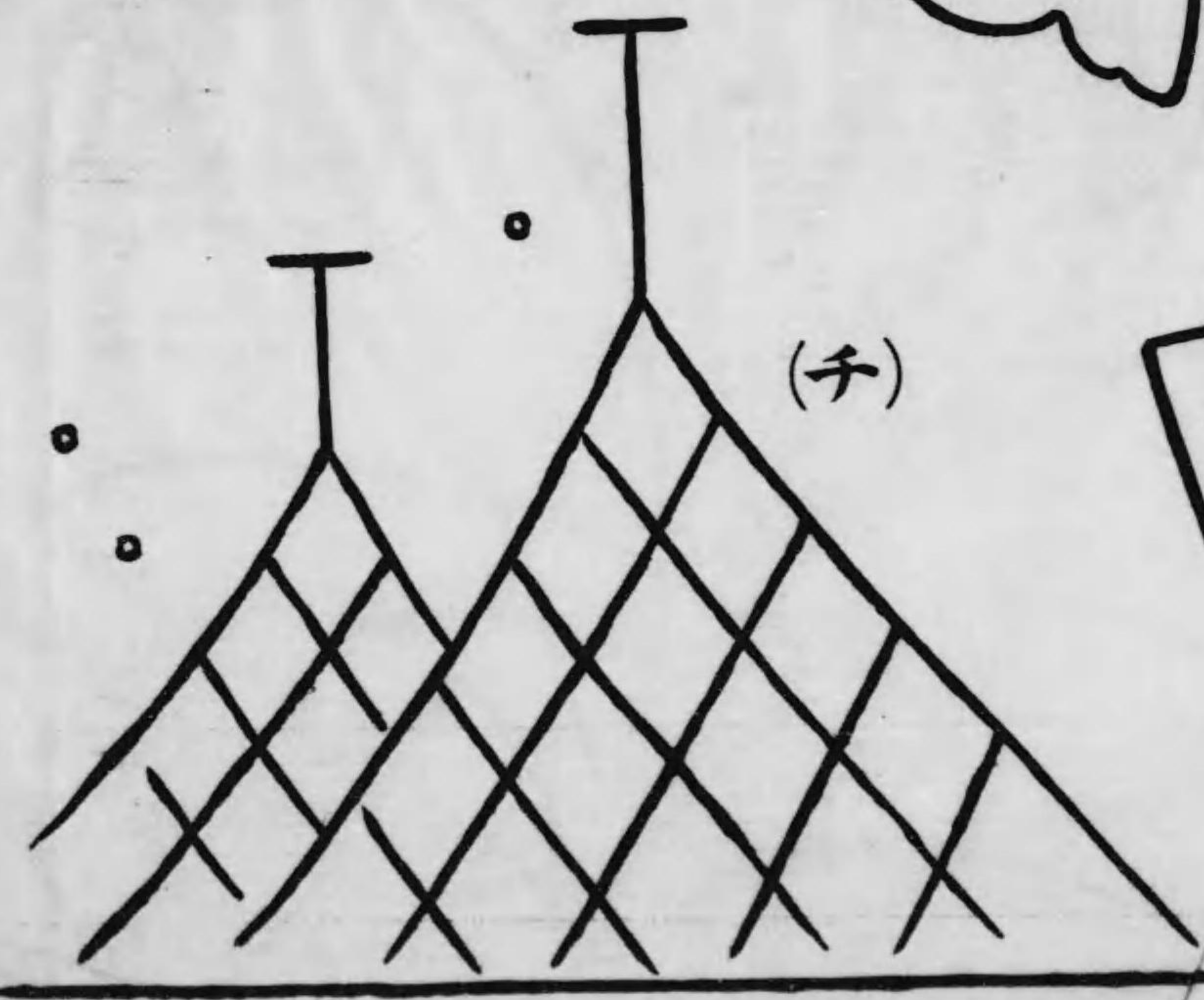
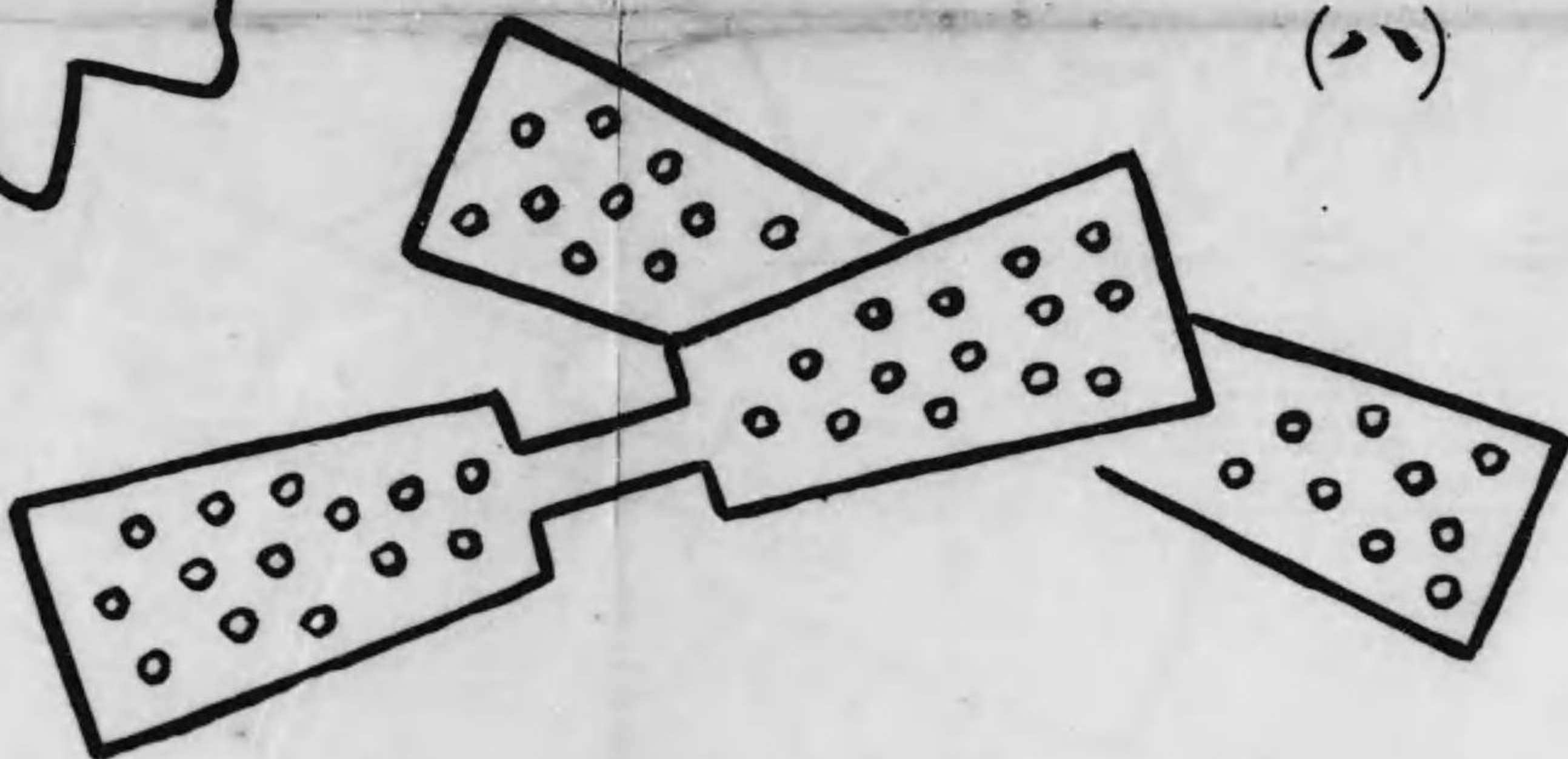
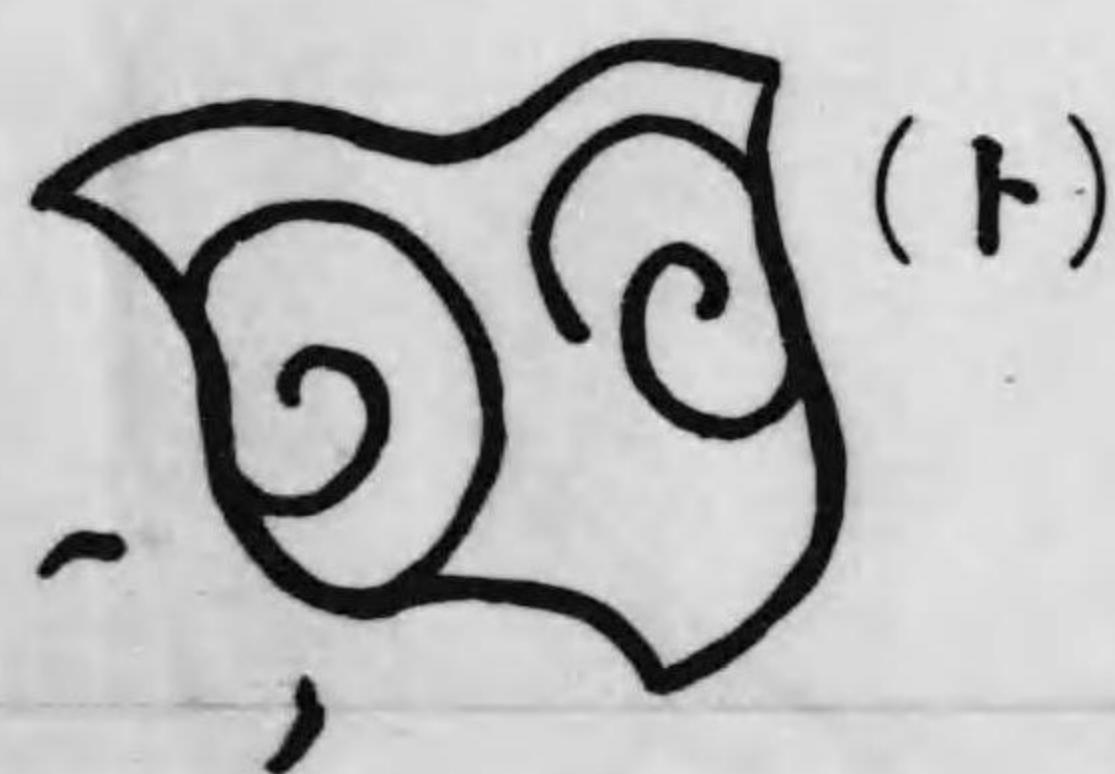
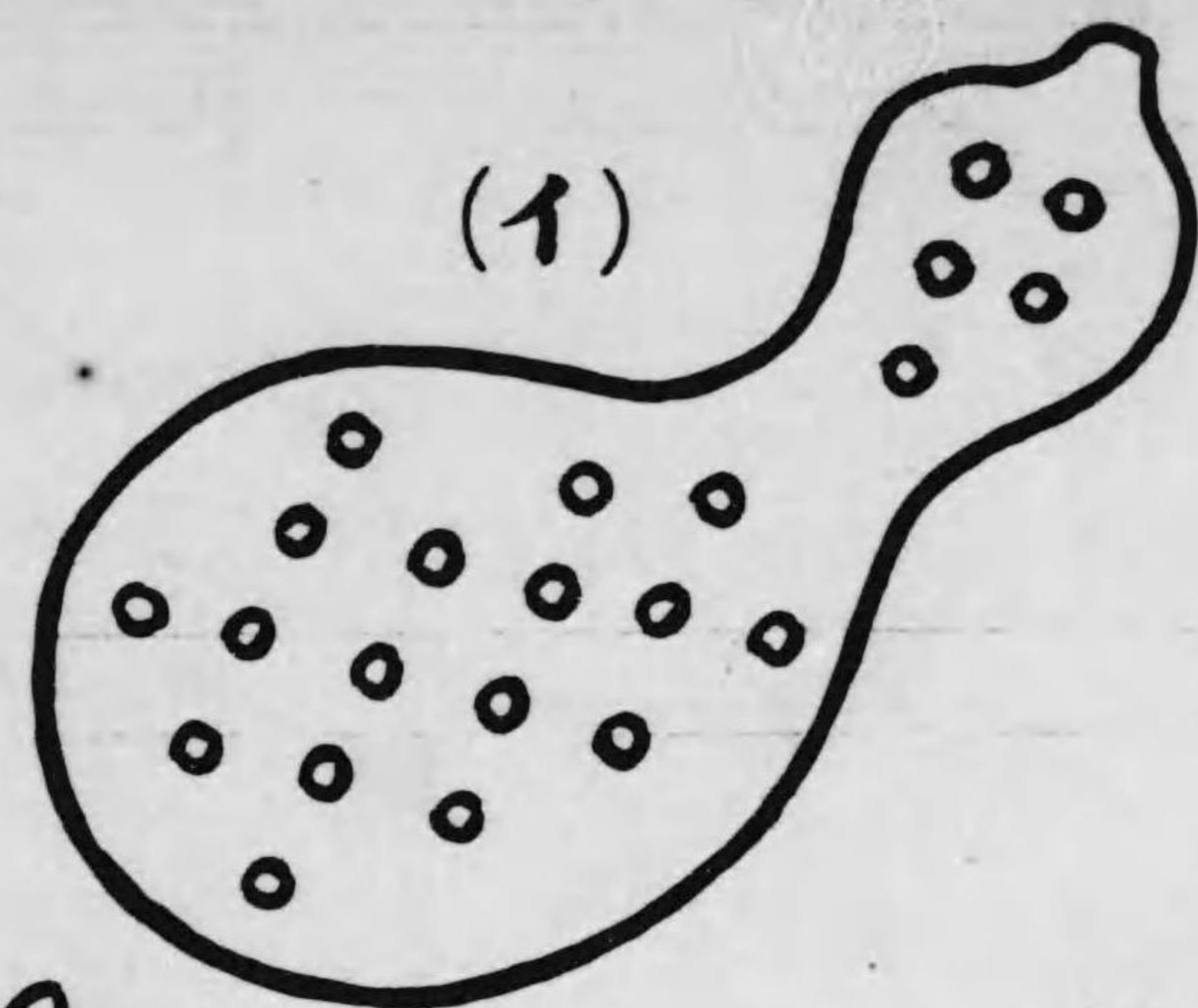
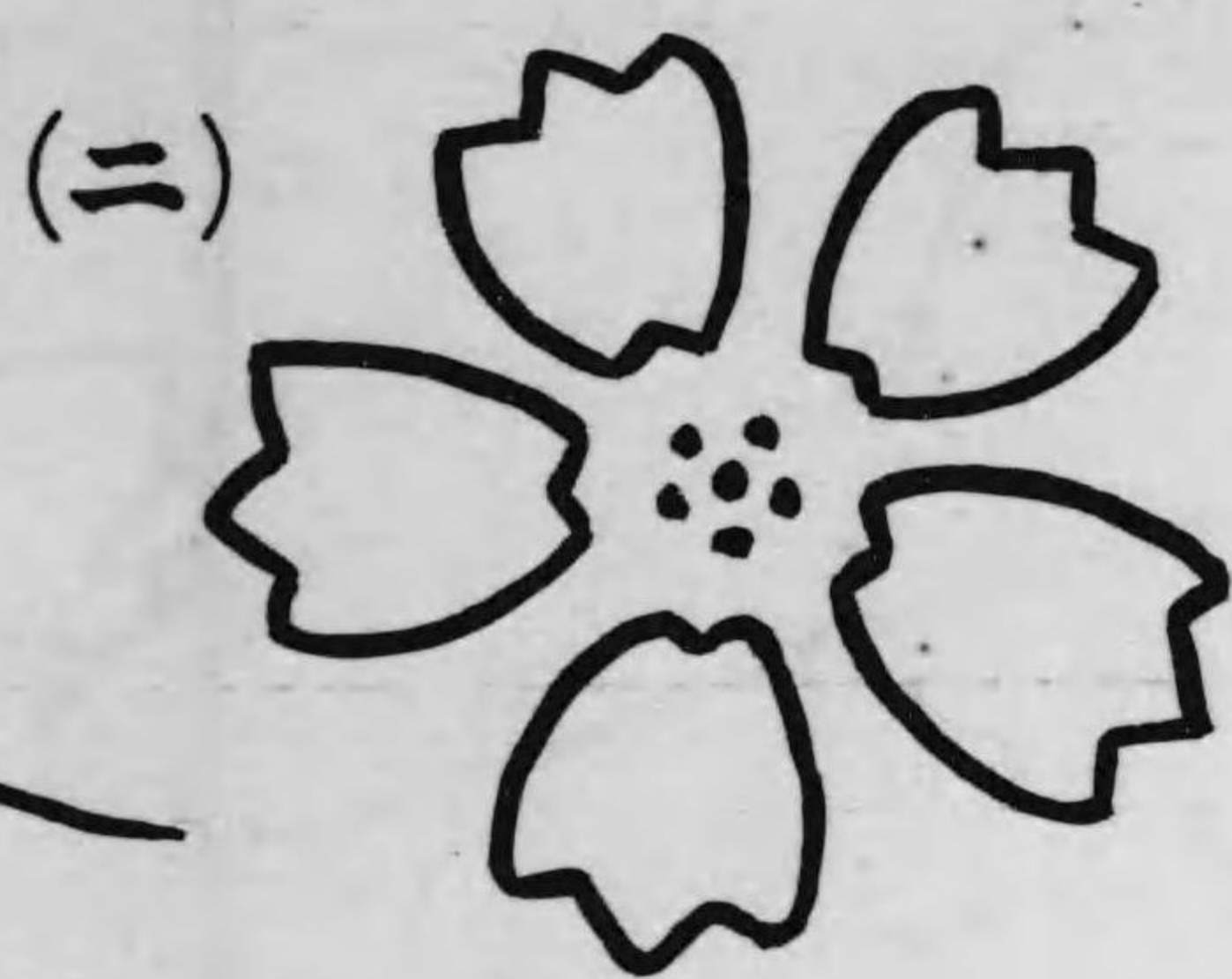
第七拾圖

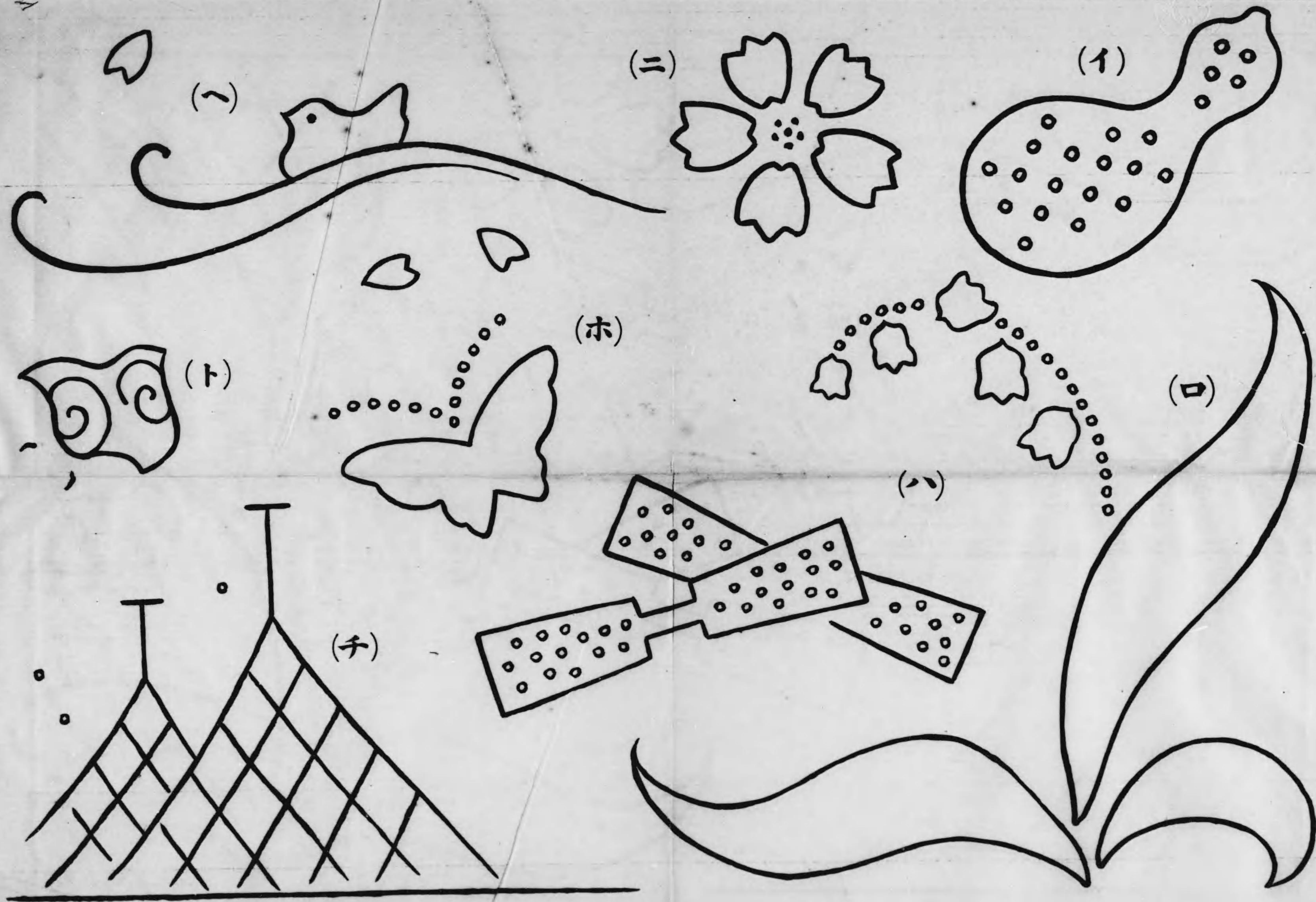


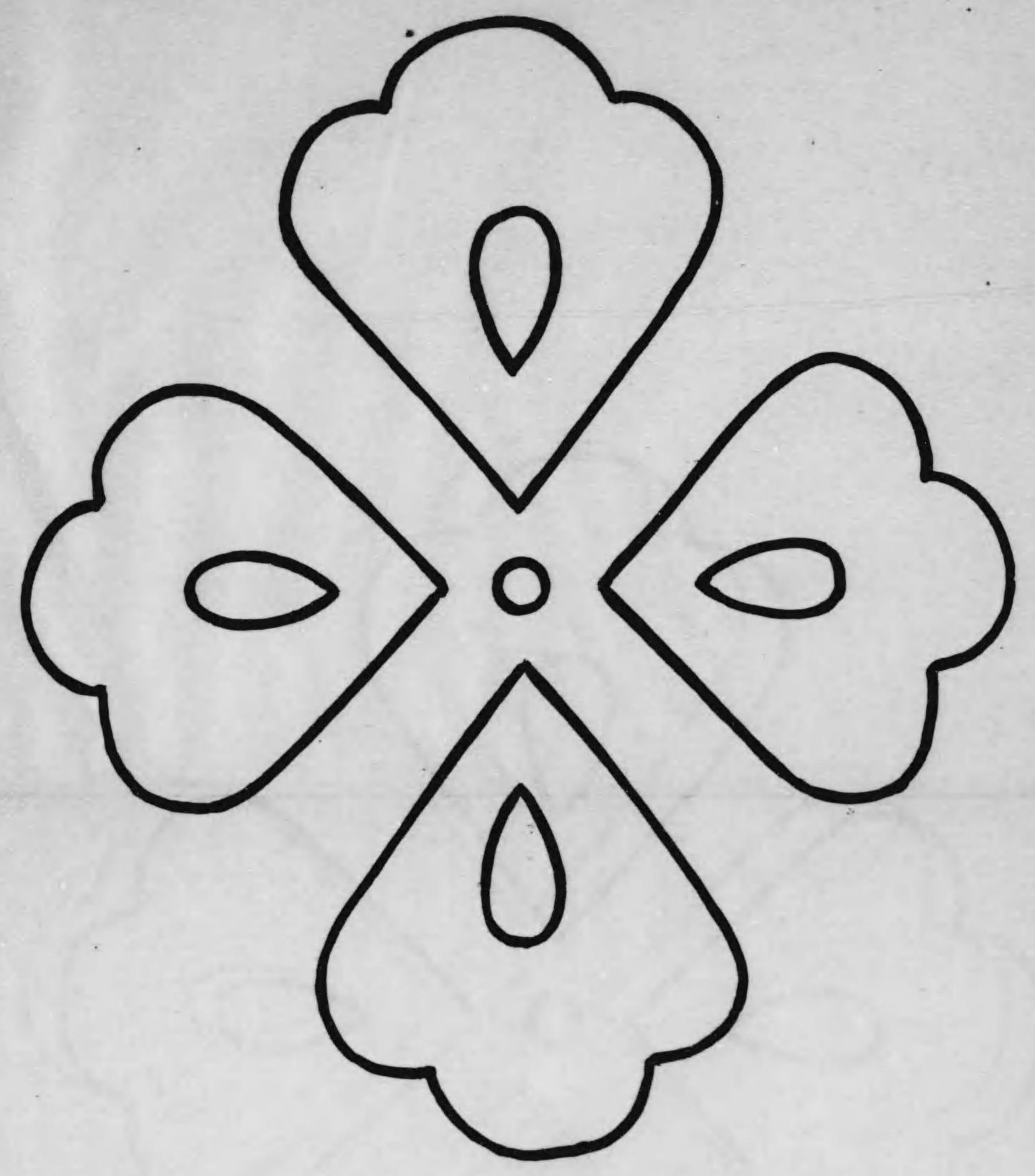
第七拾圖

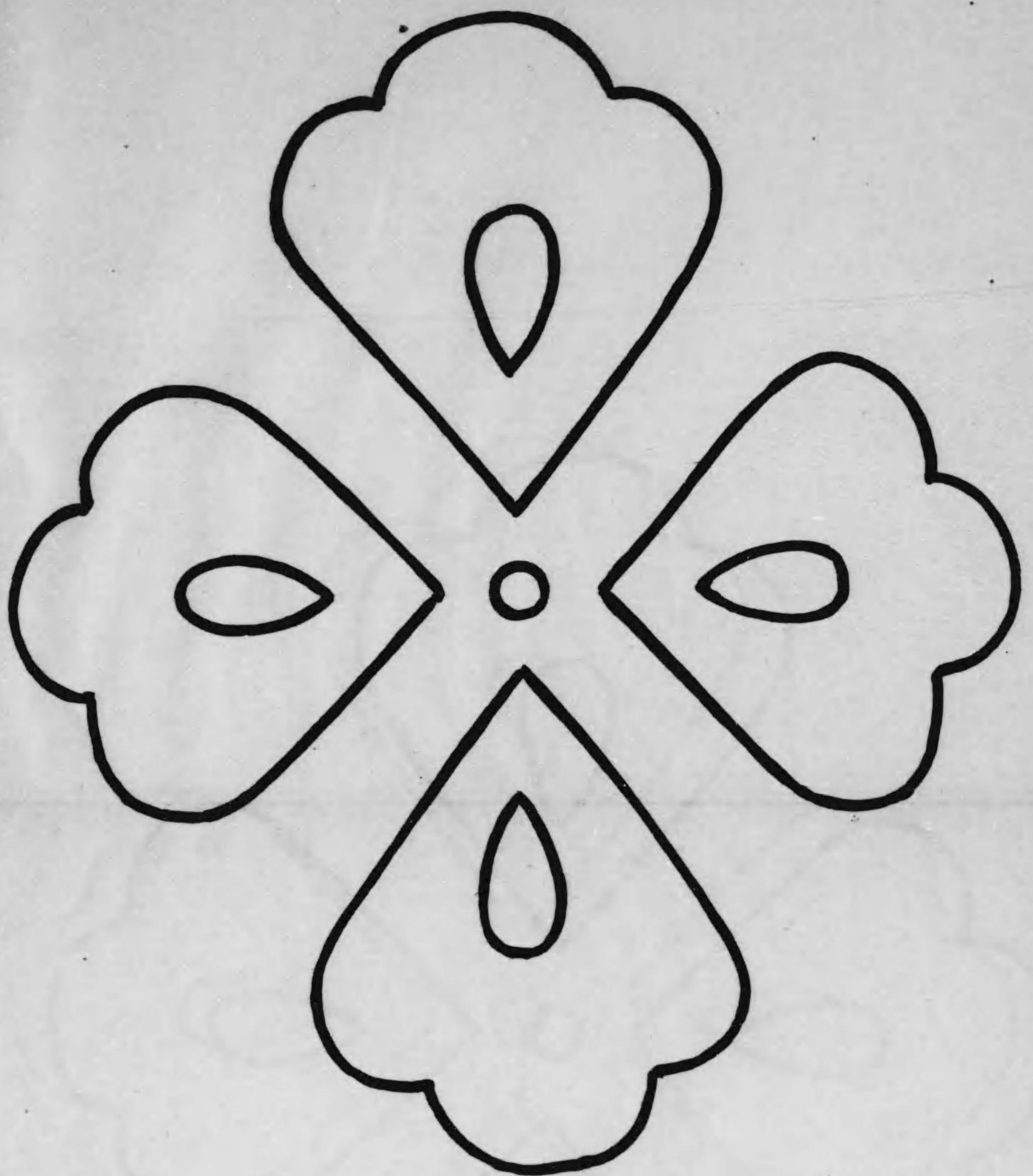
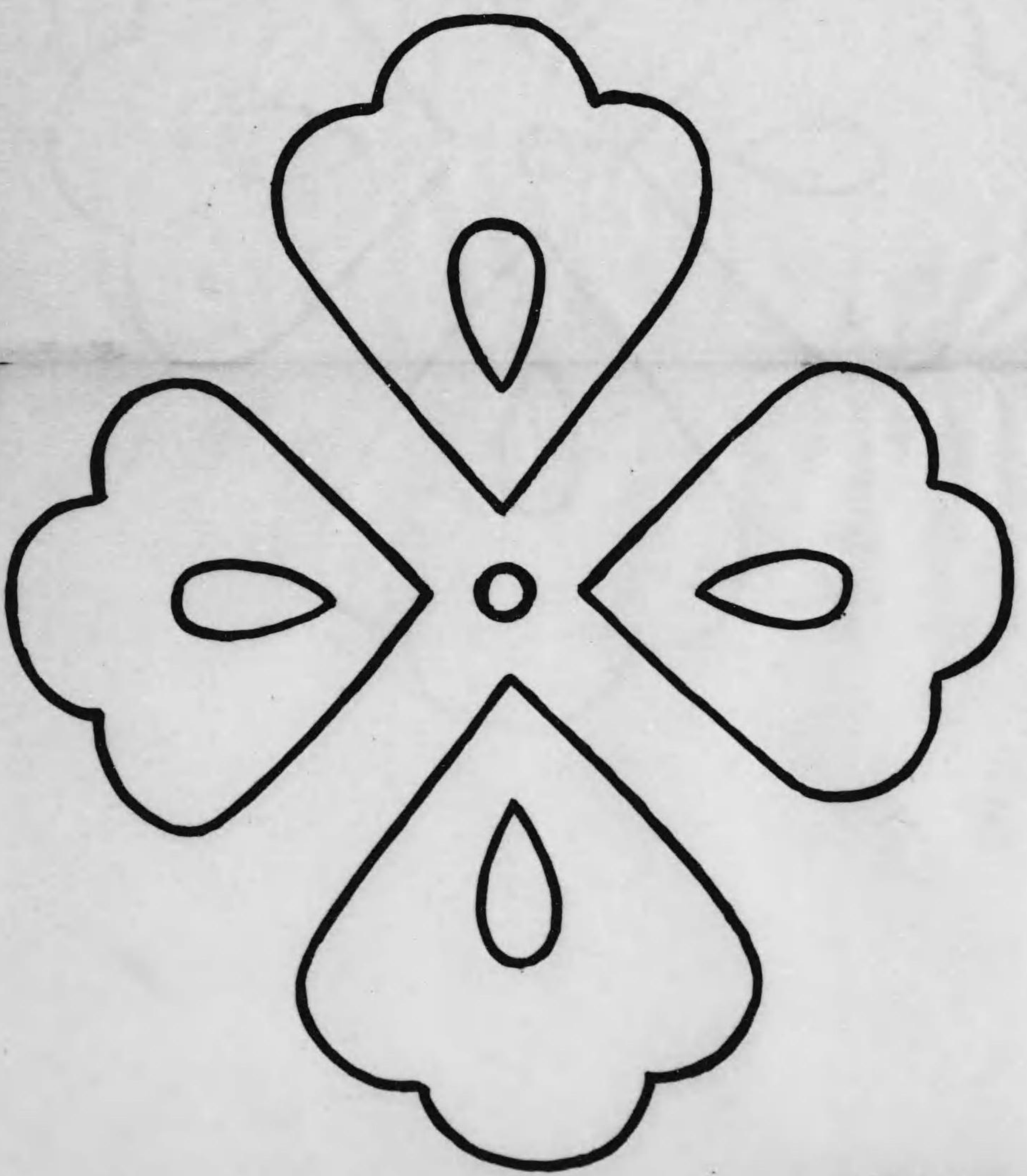


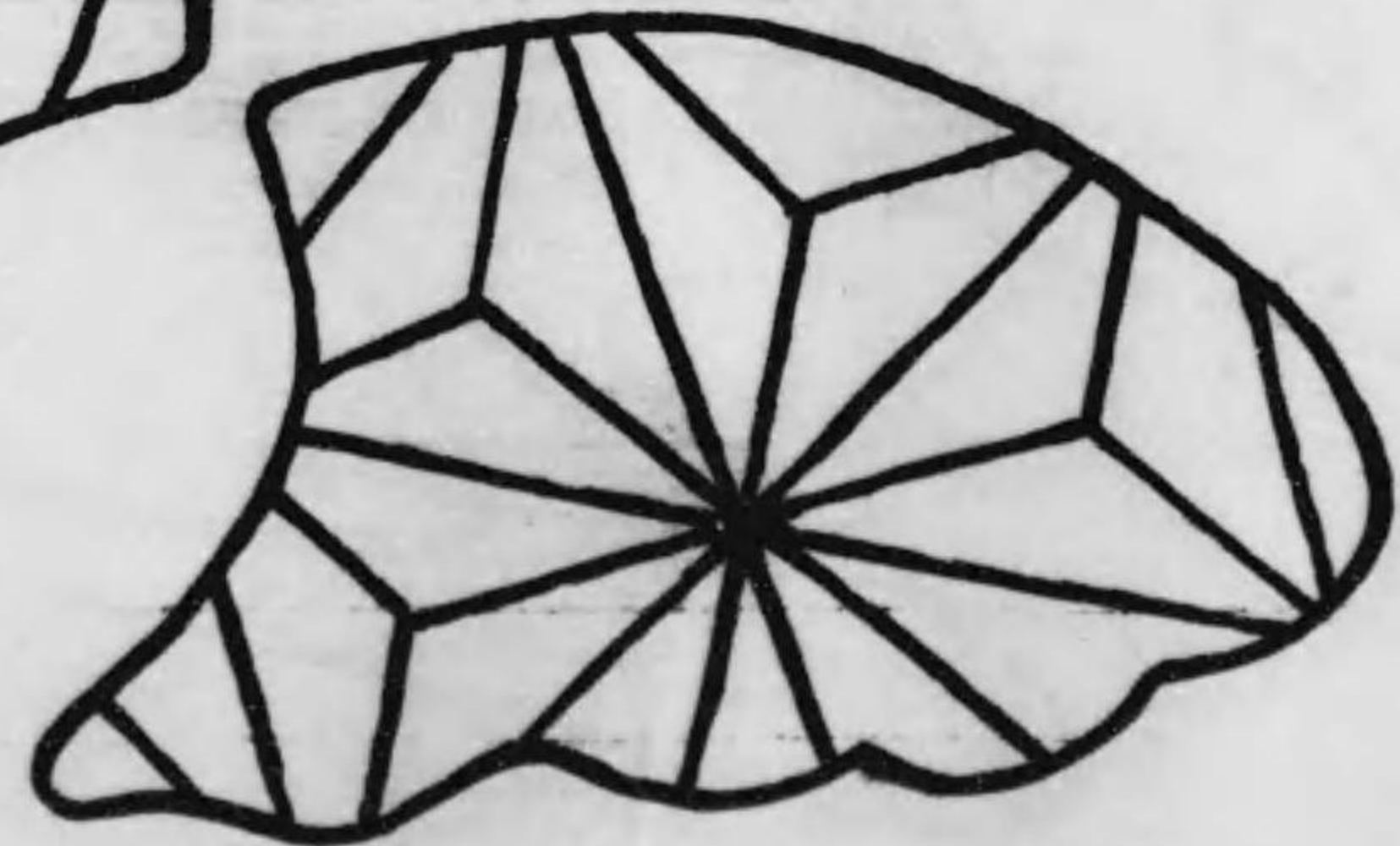
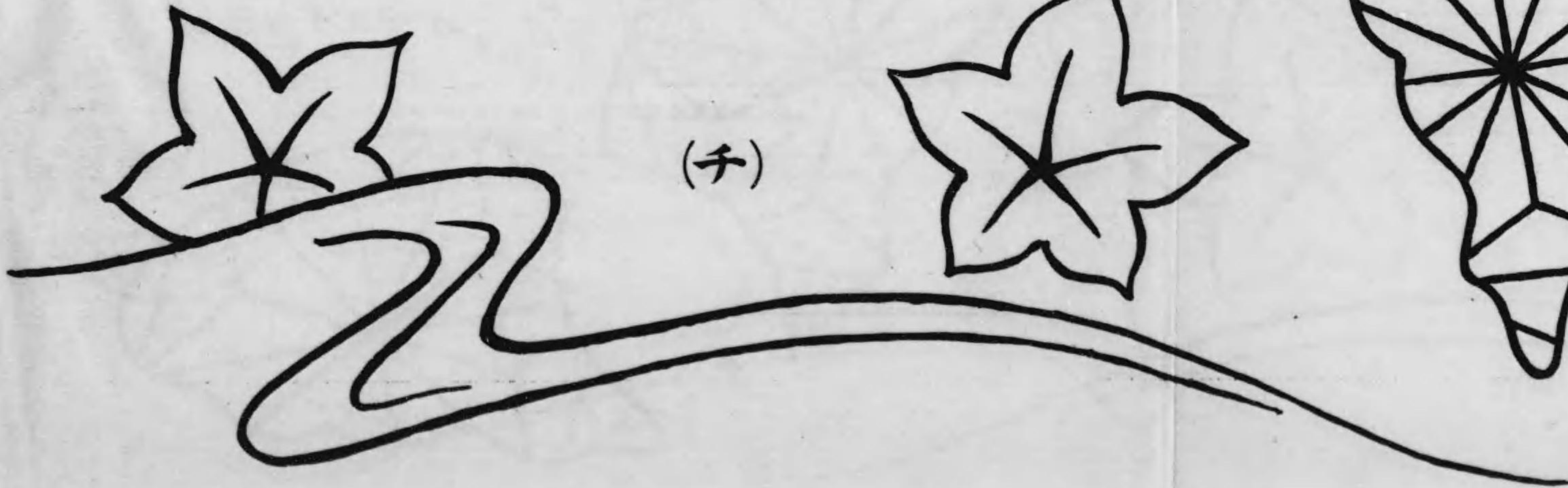
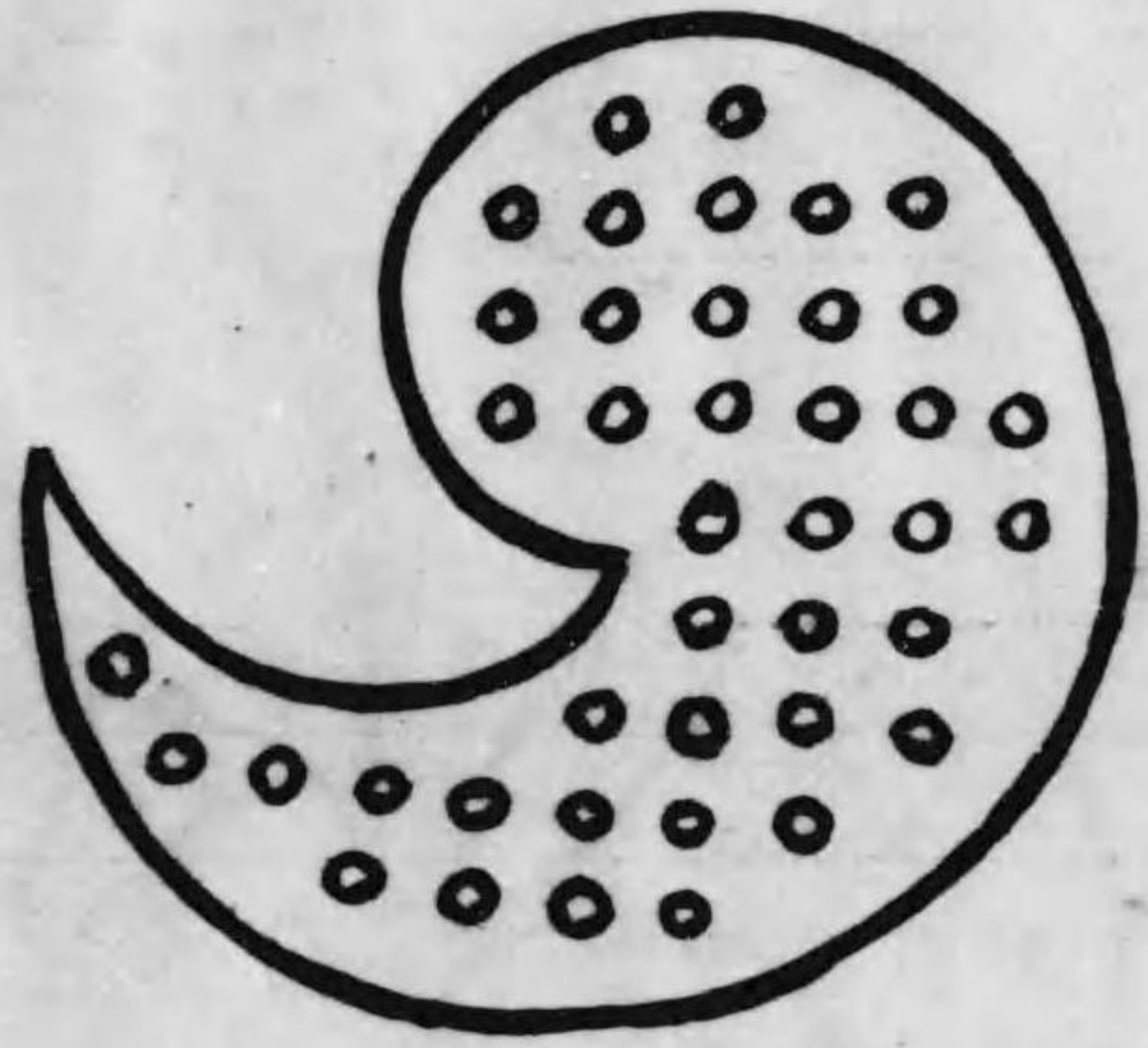
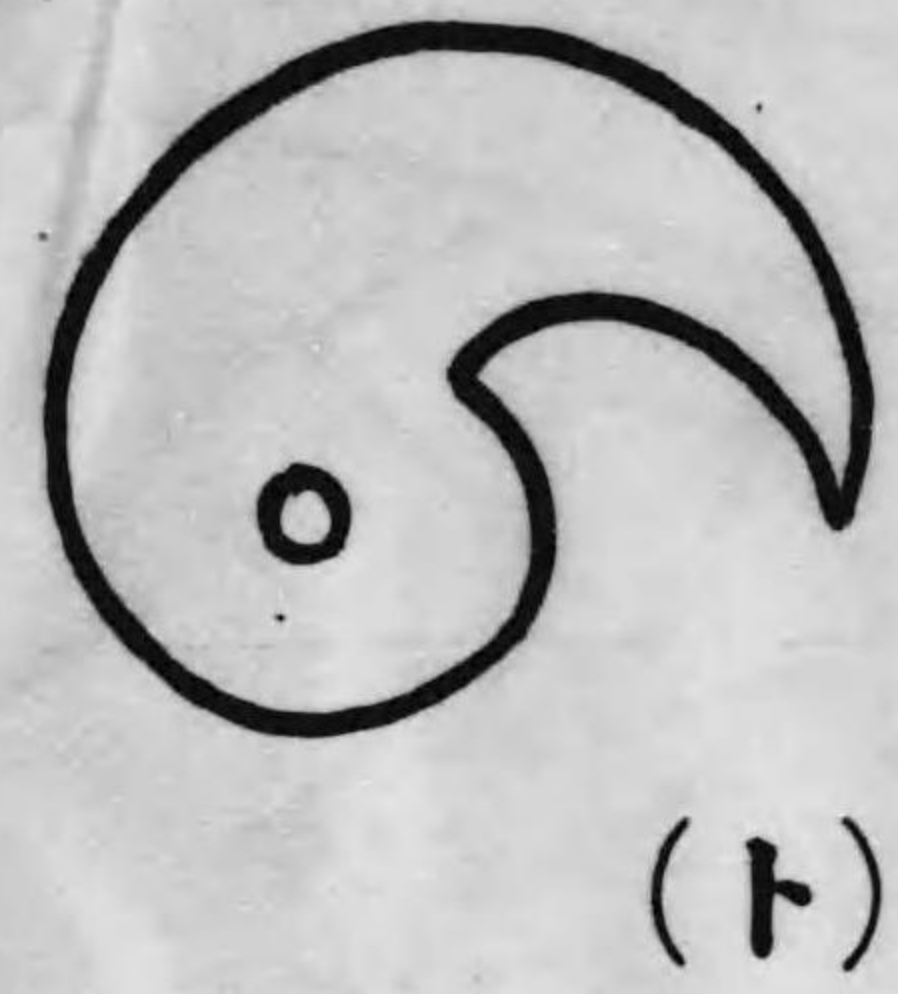
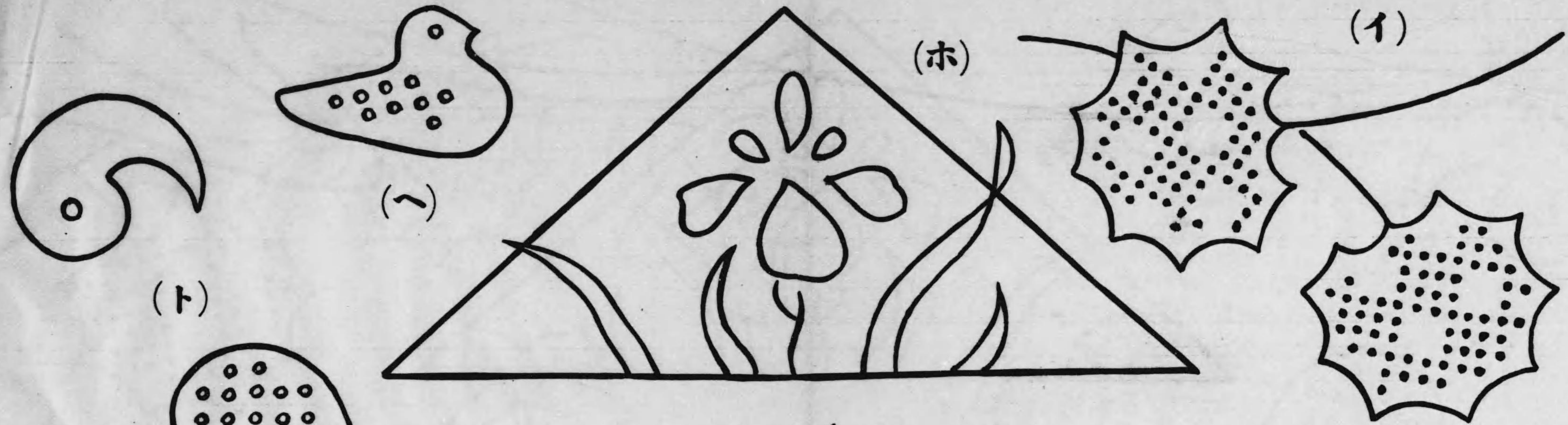


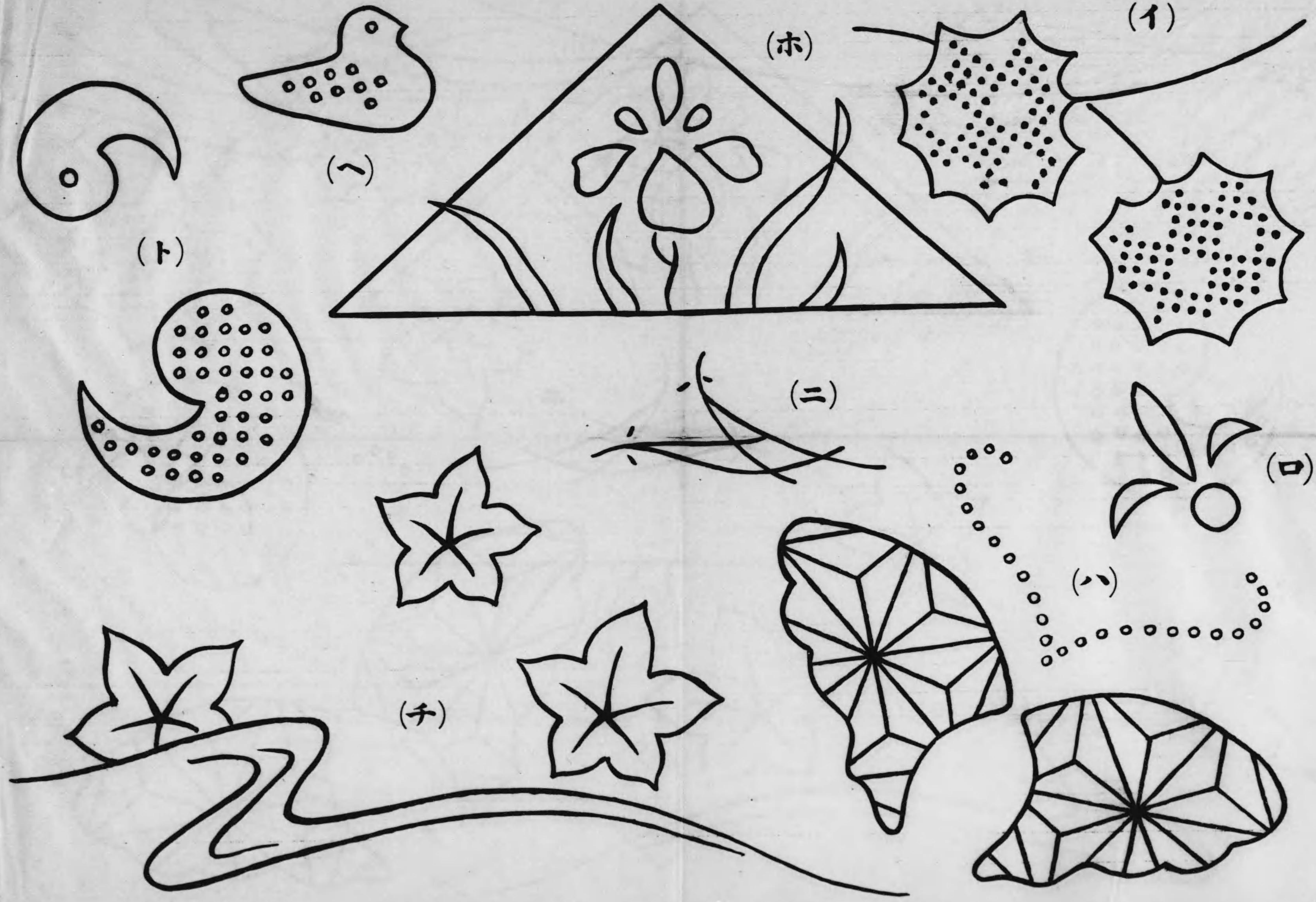


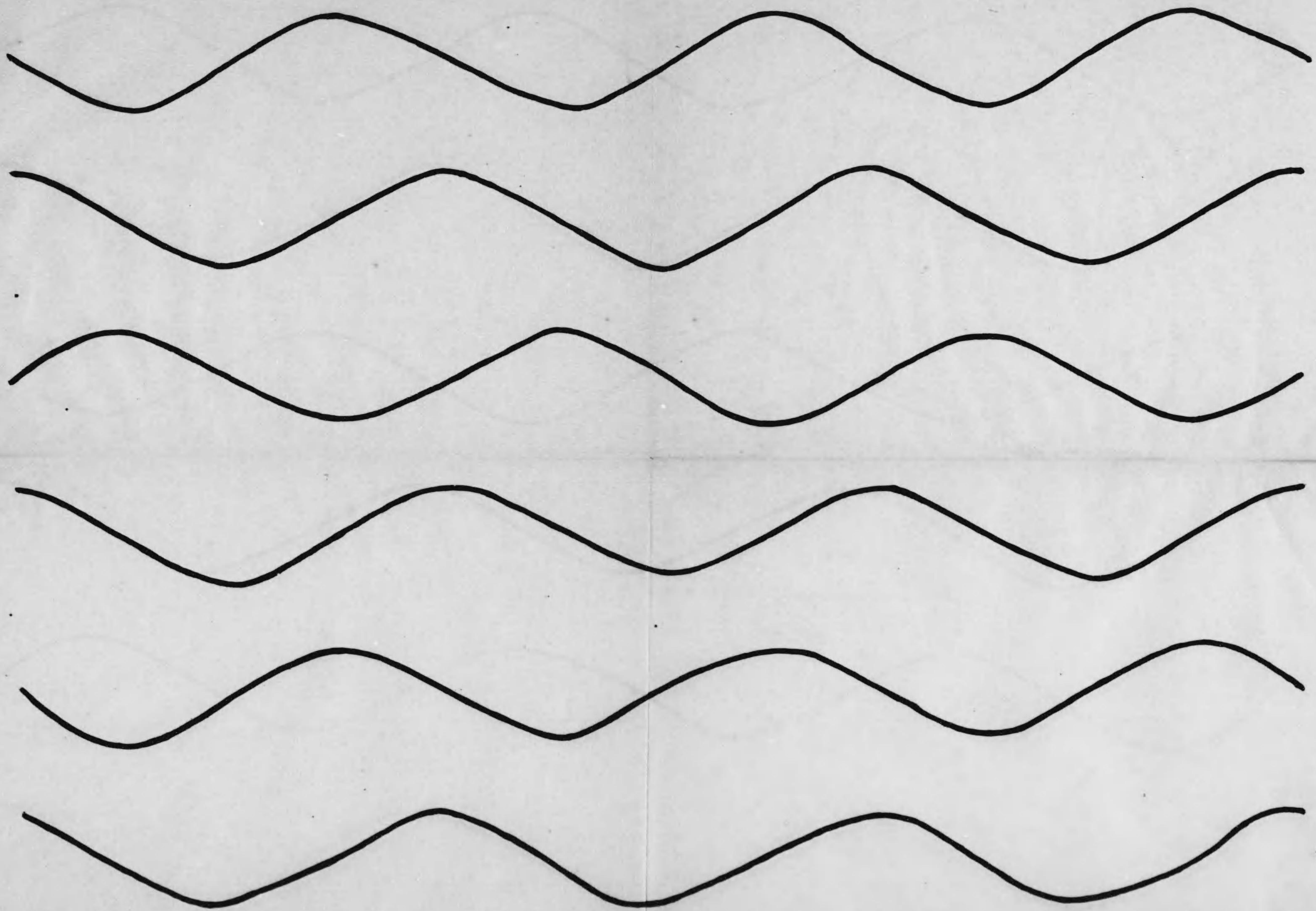


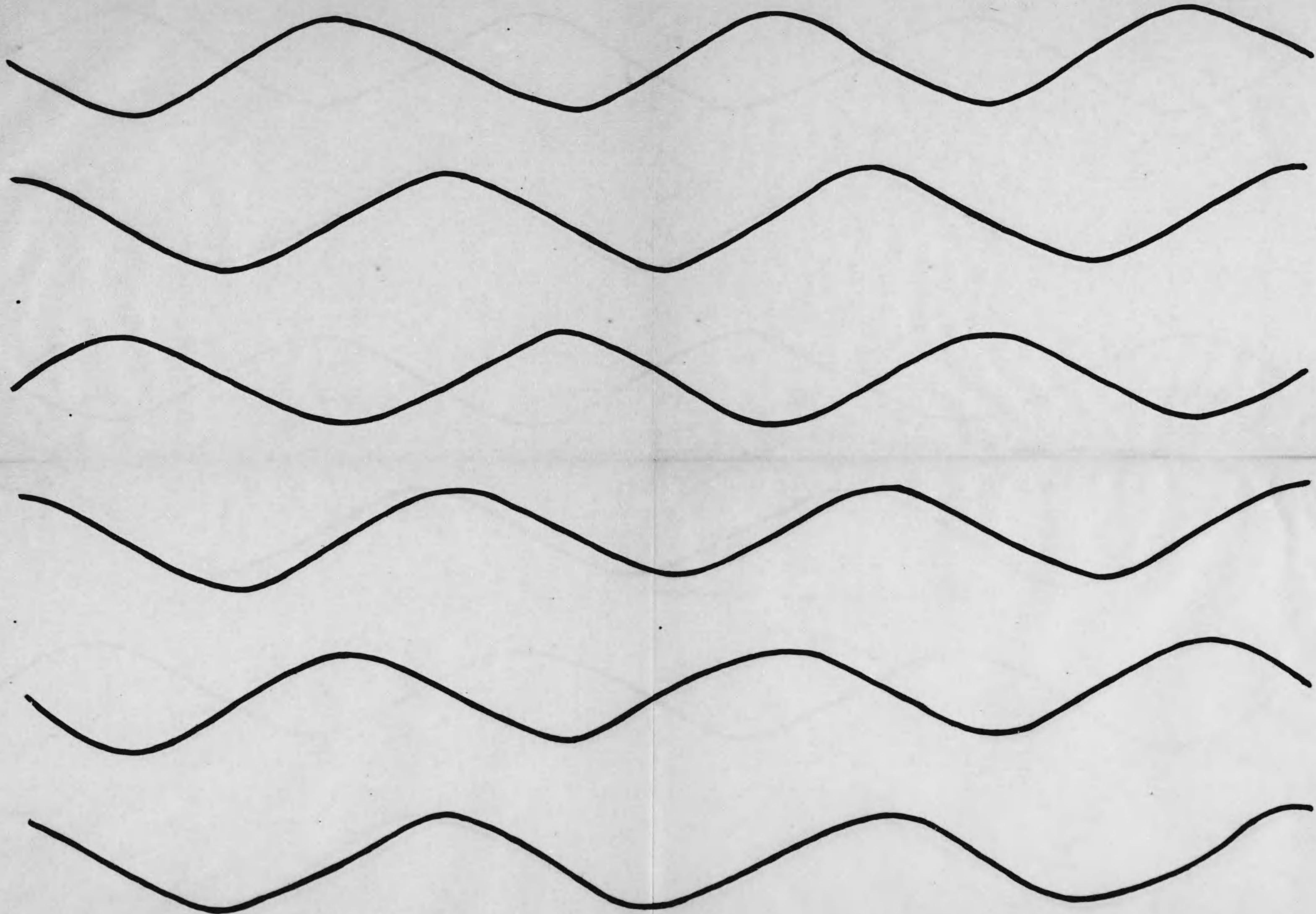


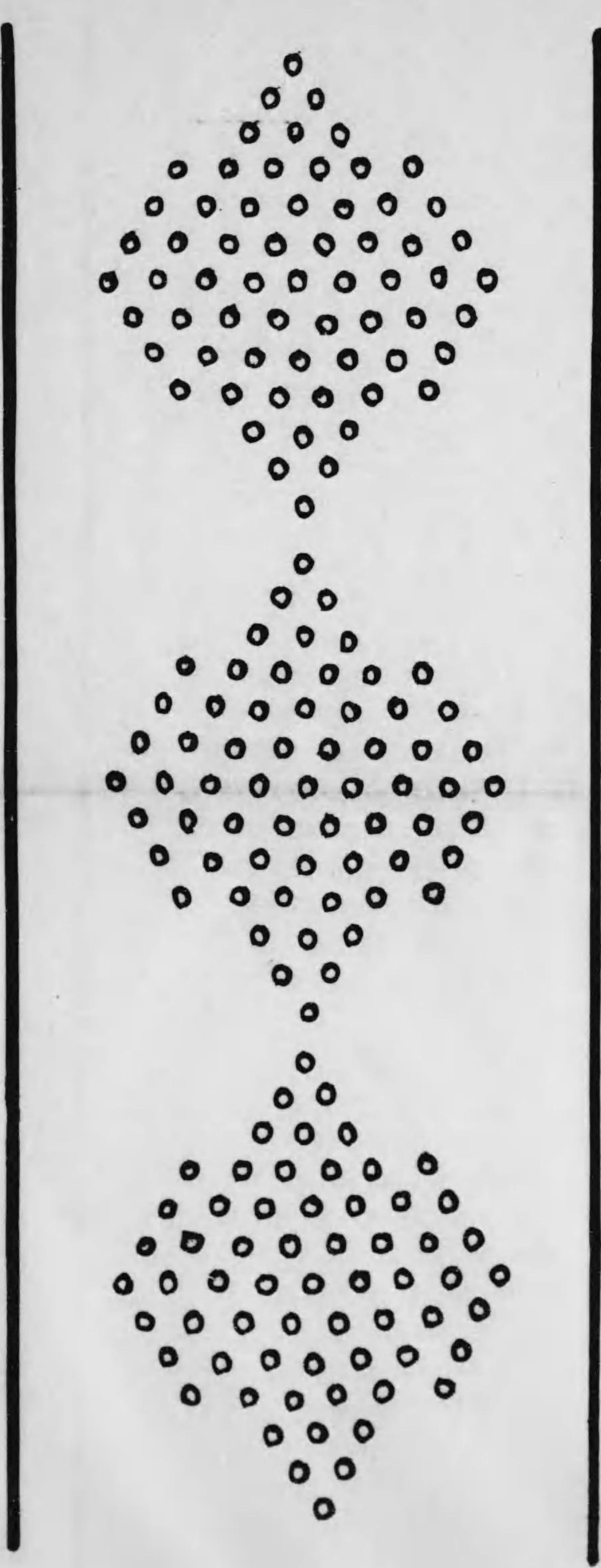
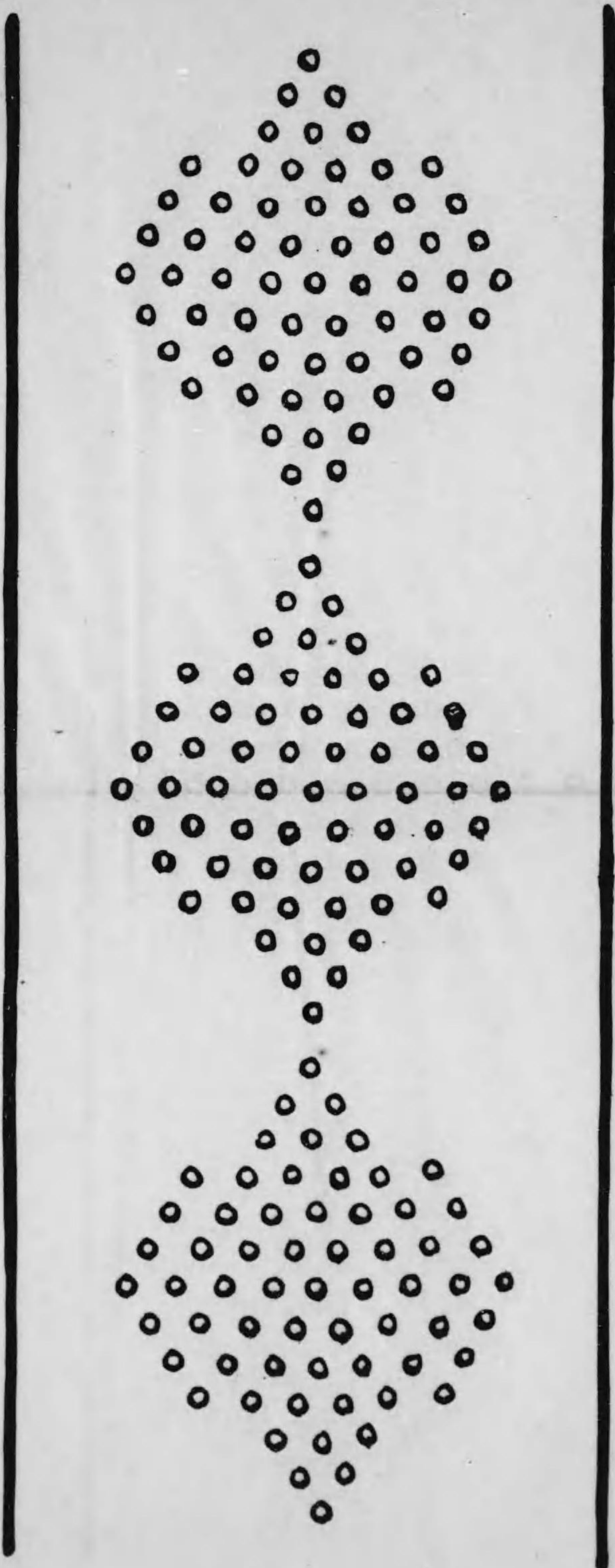


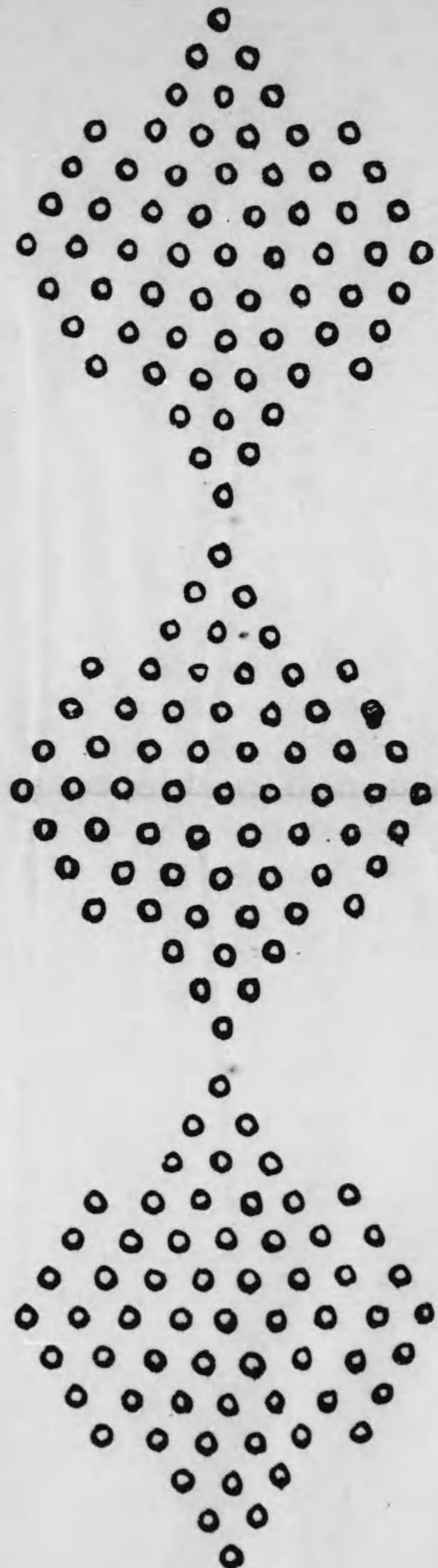
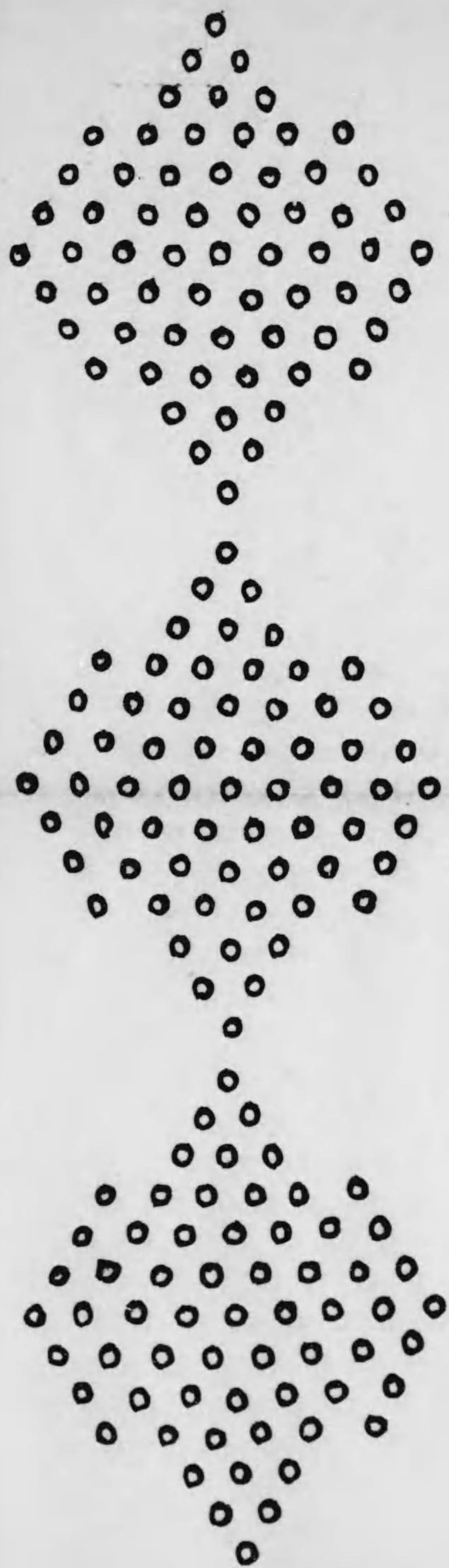


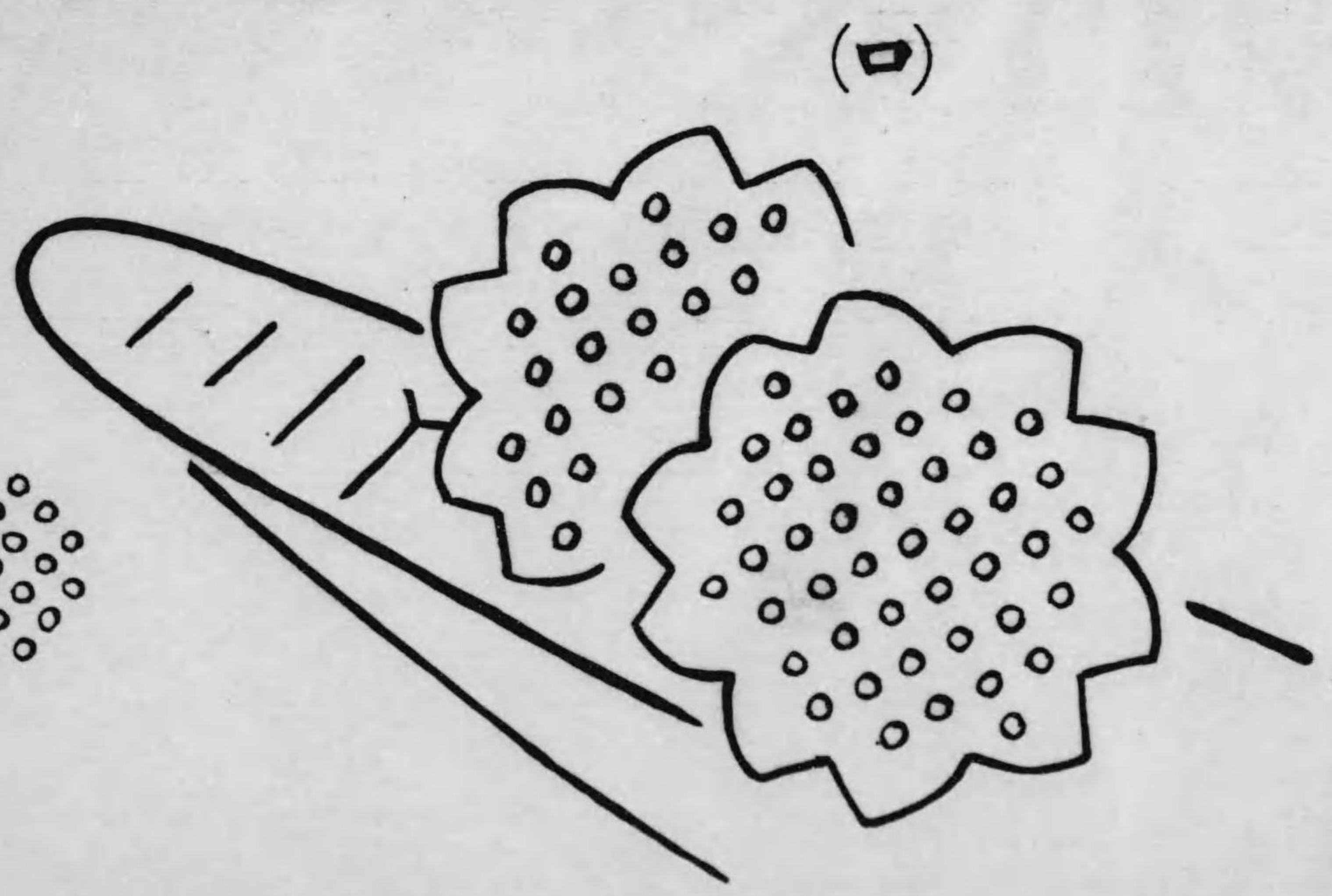
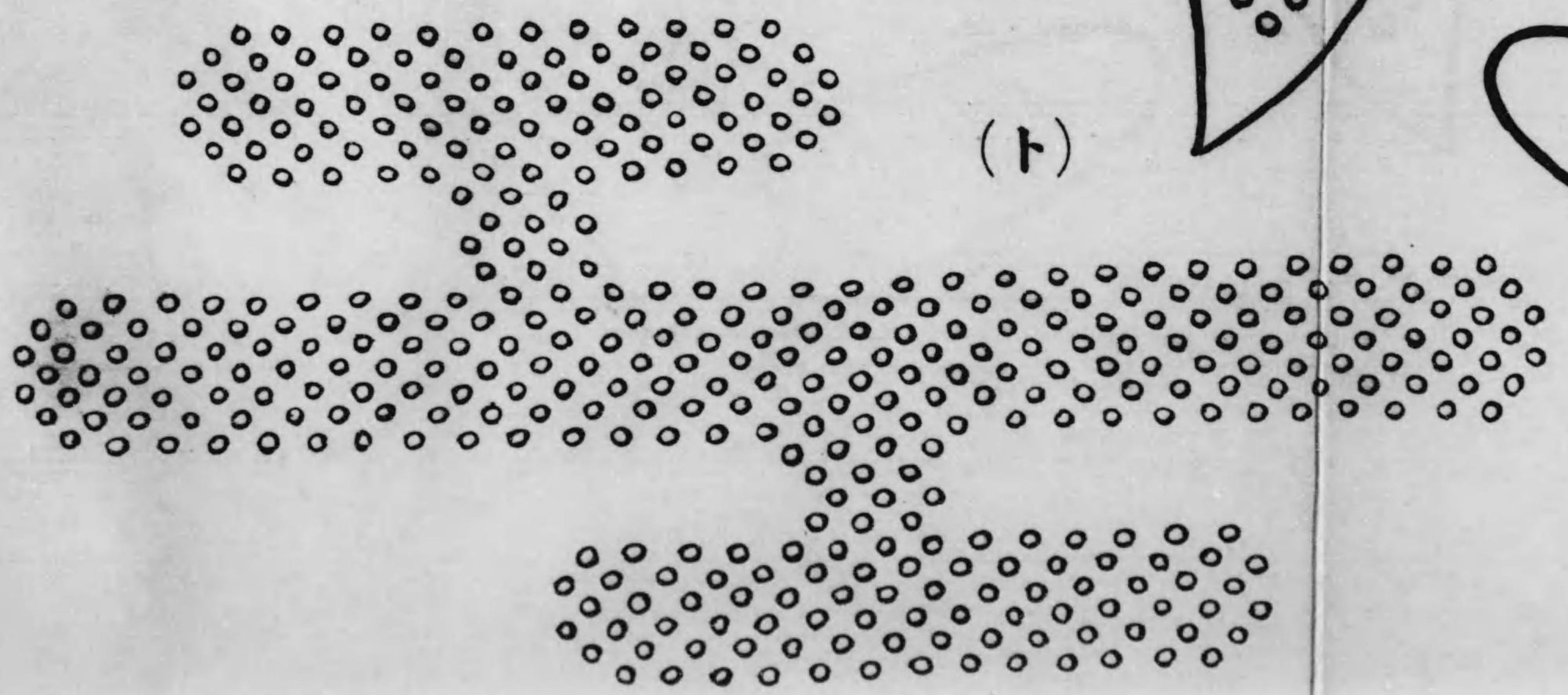
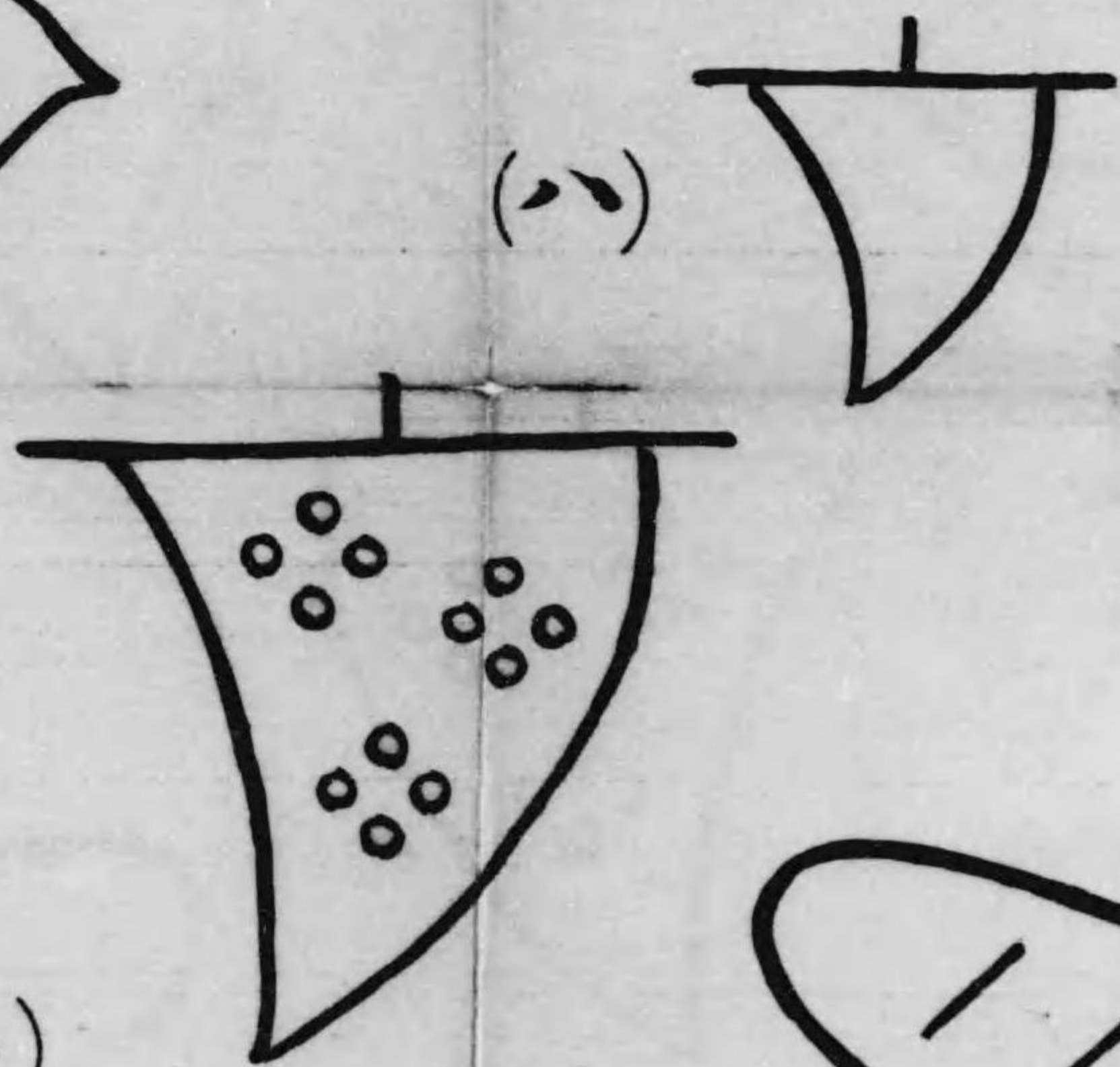
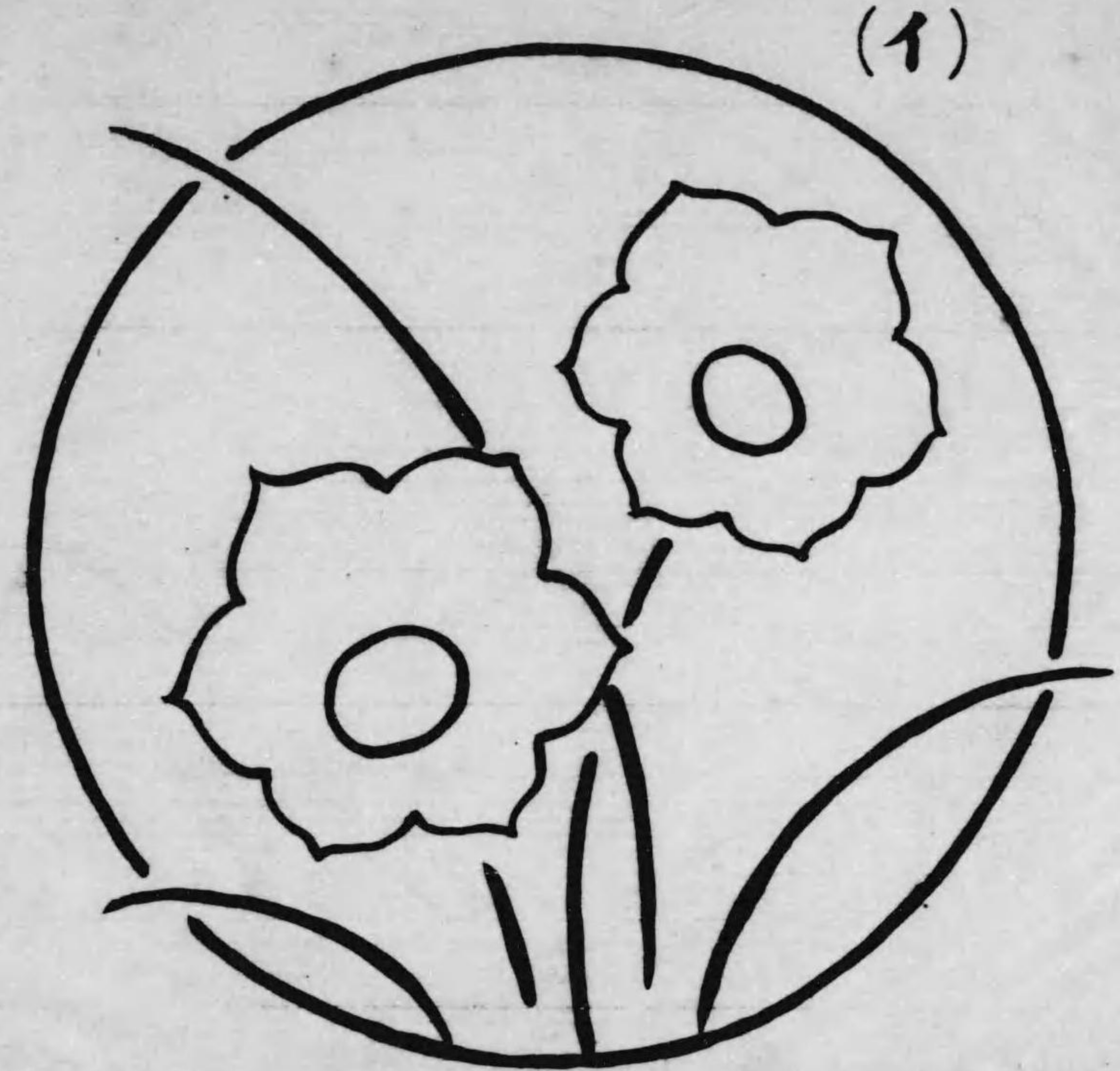
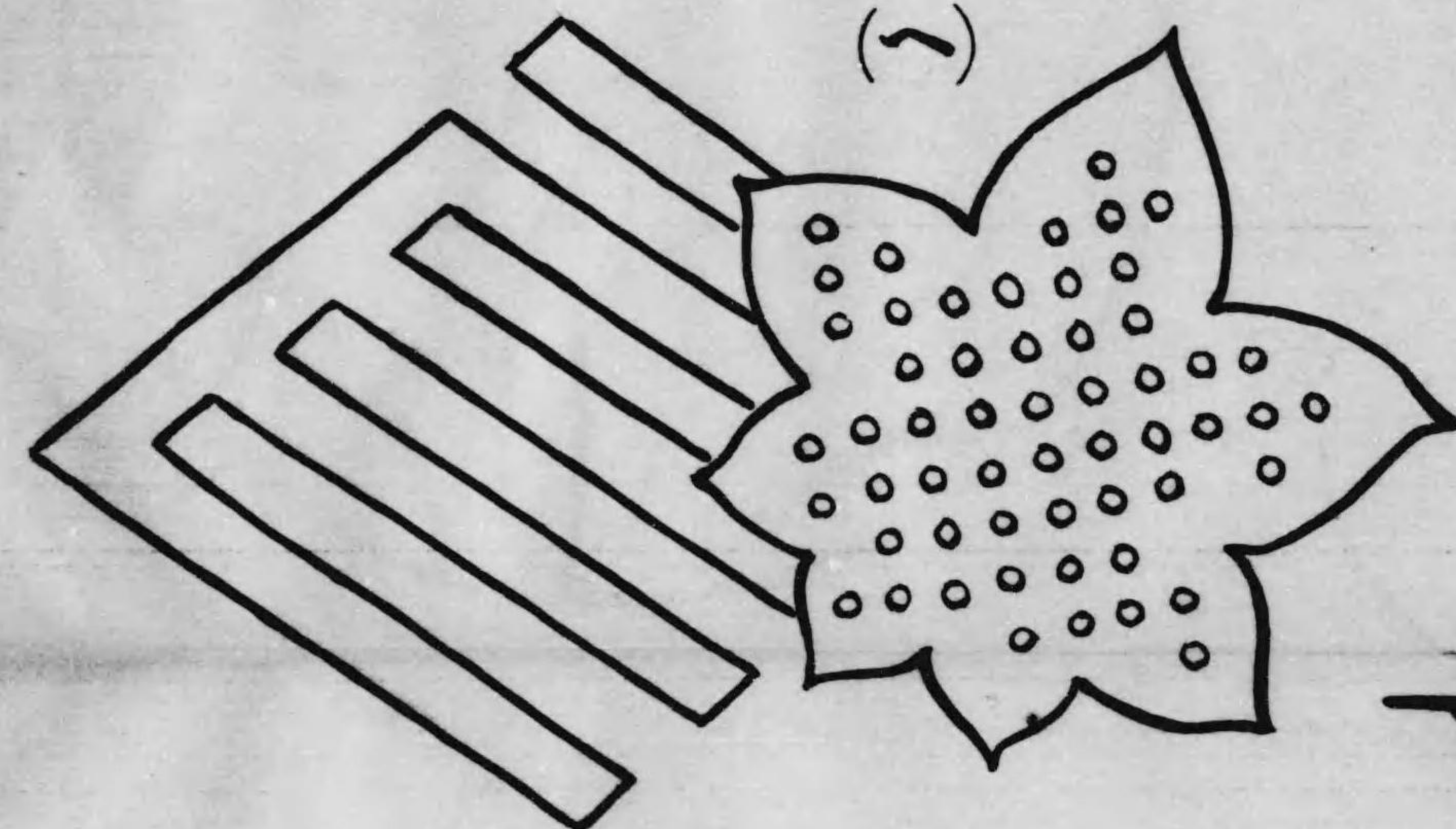
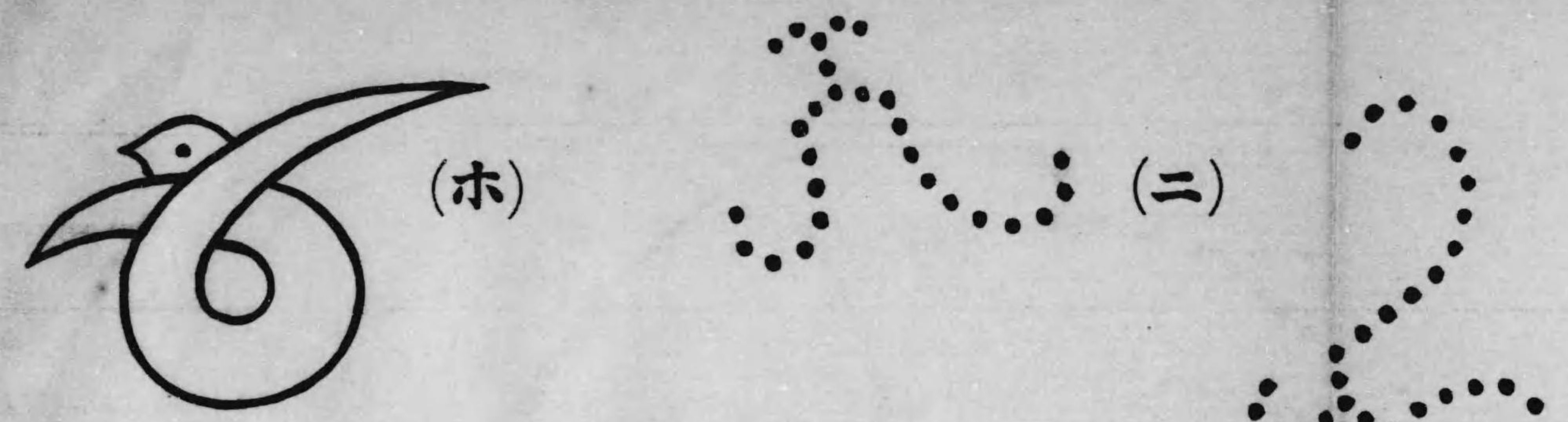


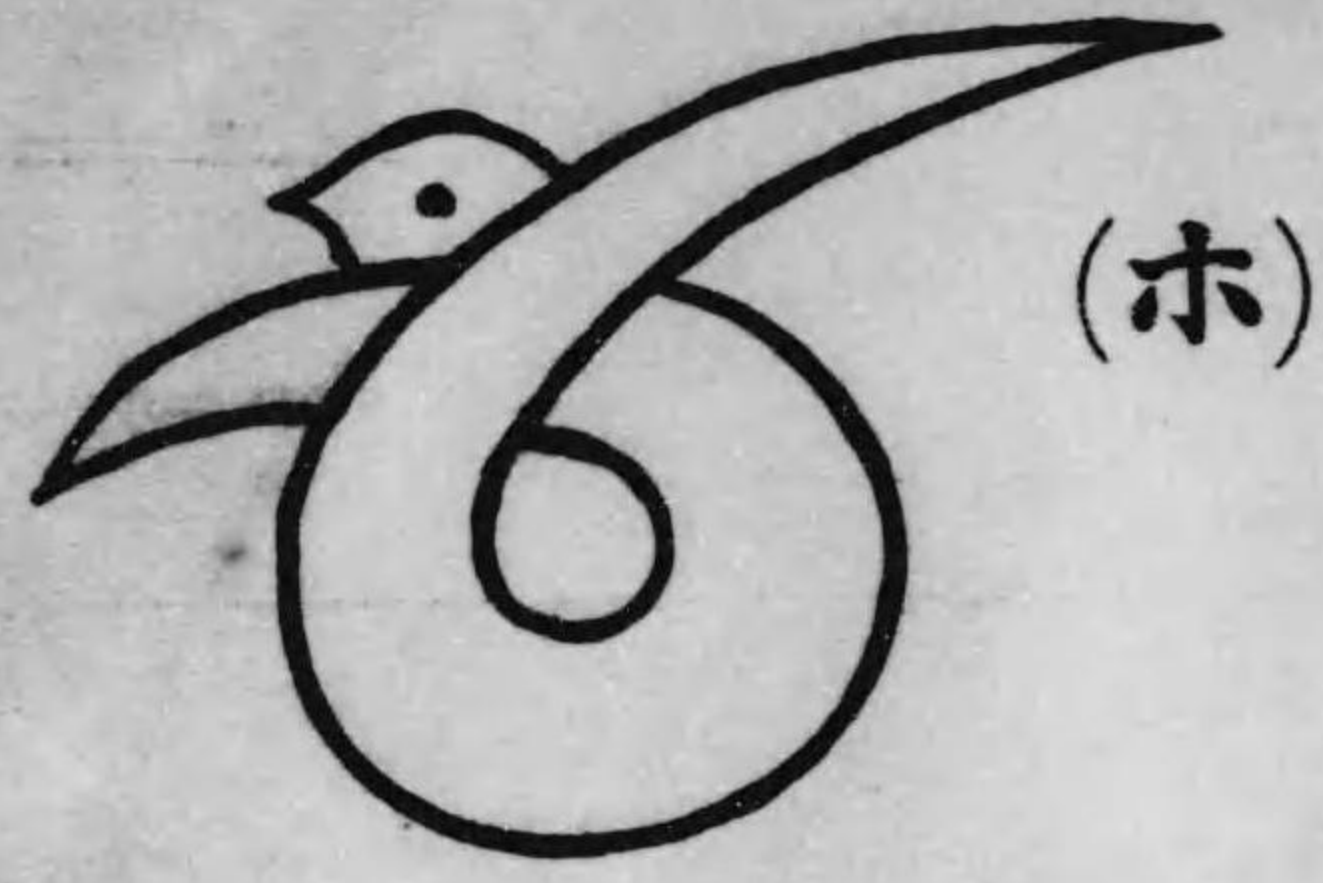




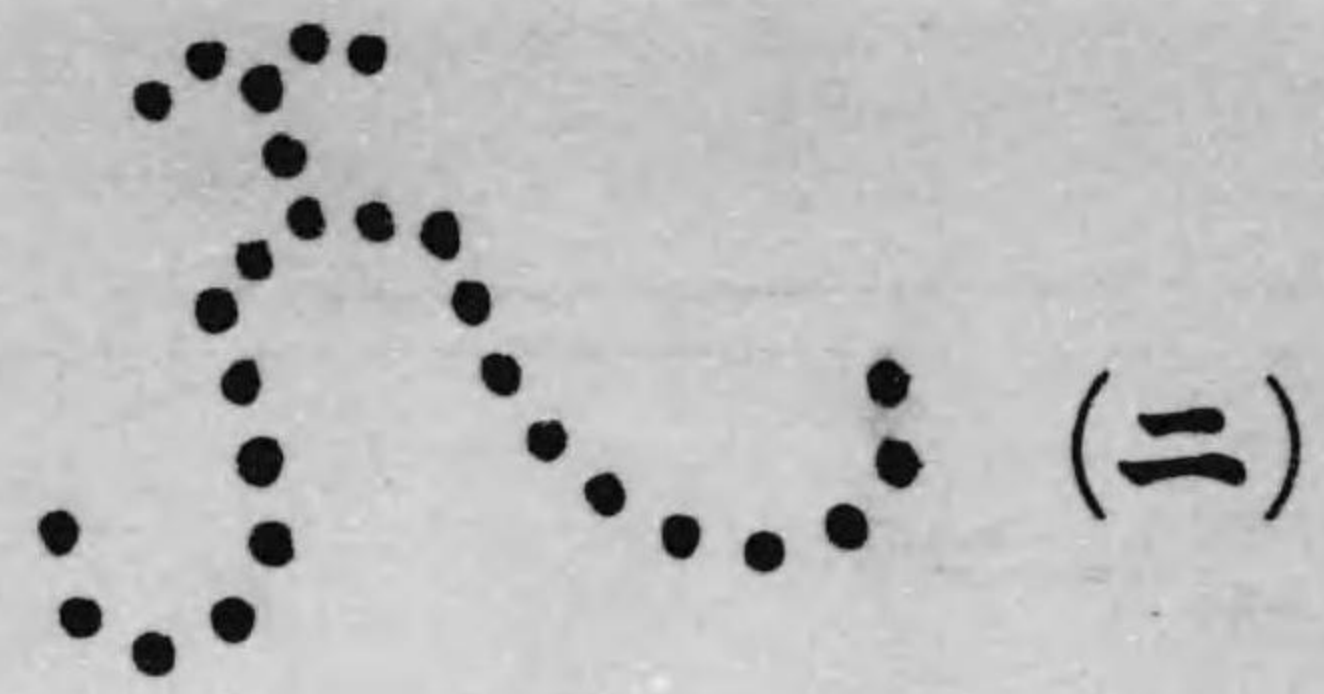




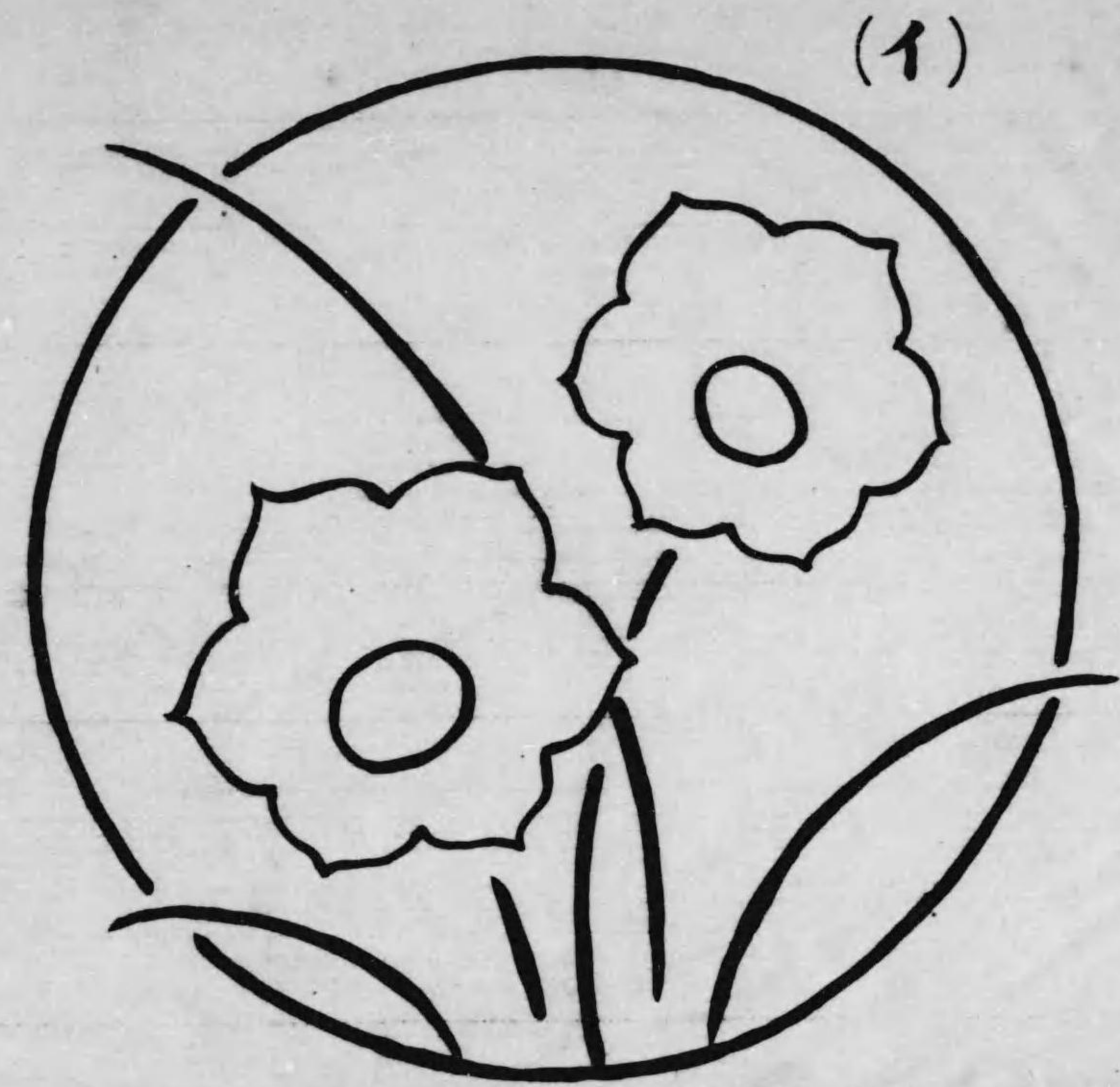
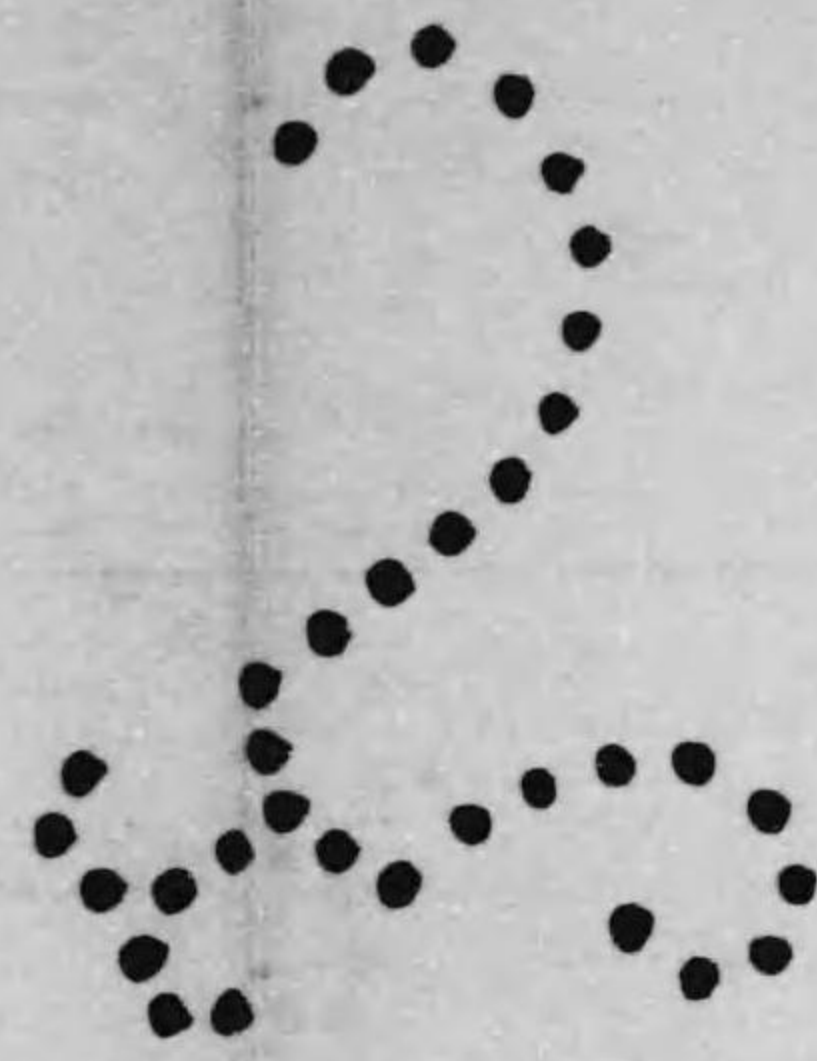




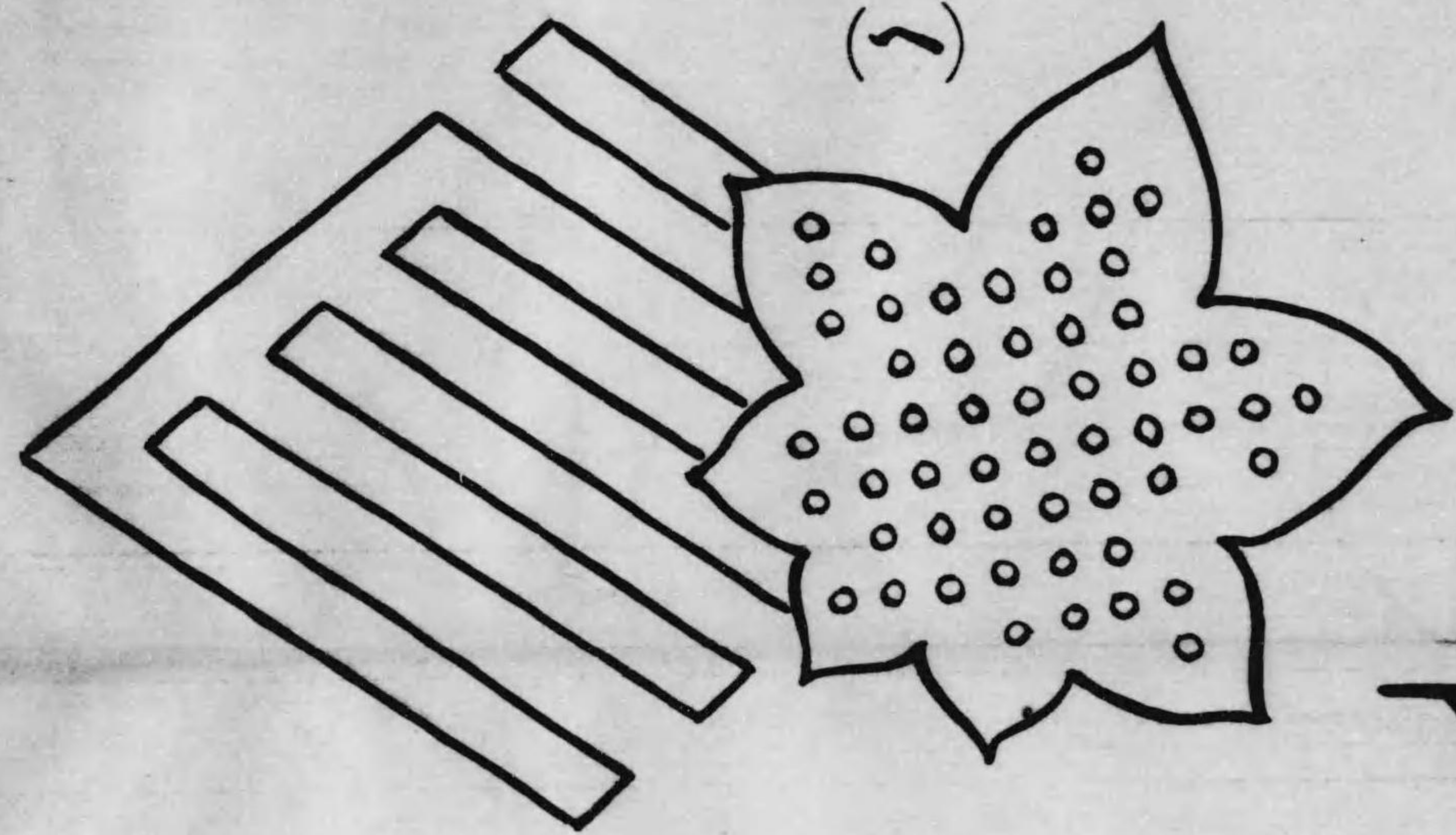
(ホ)



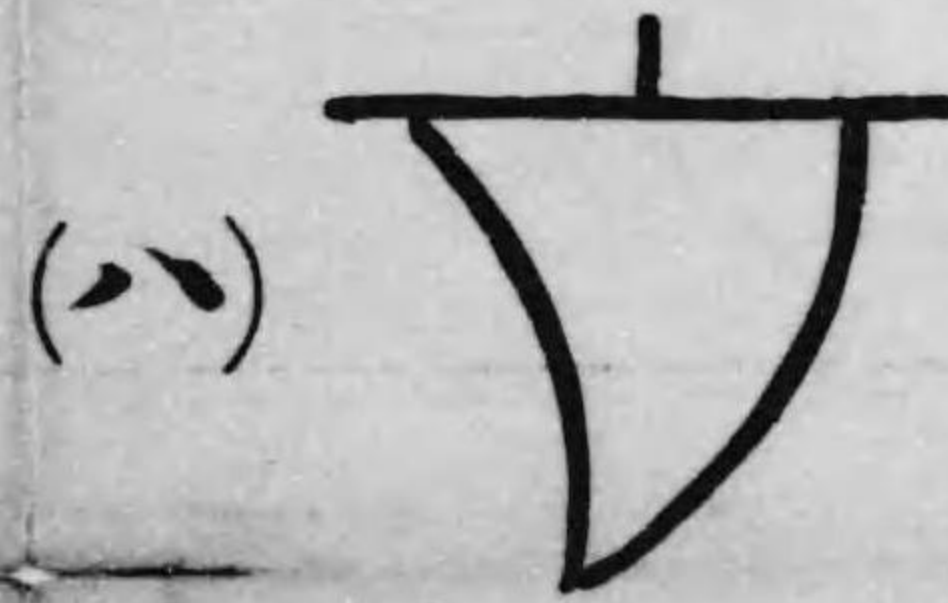
(ニ)



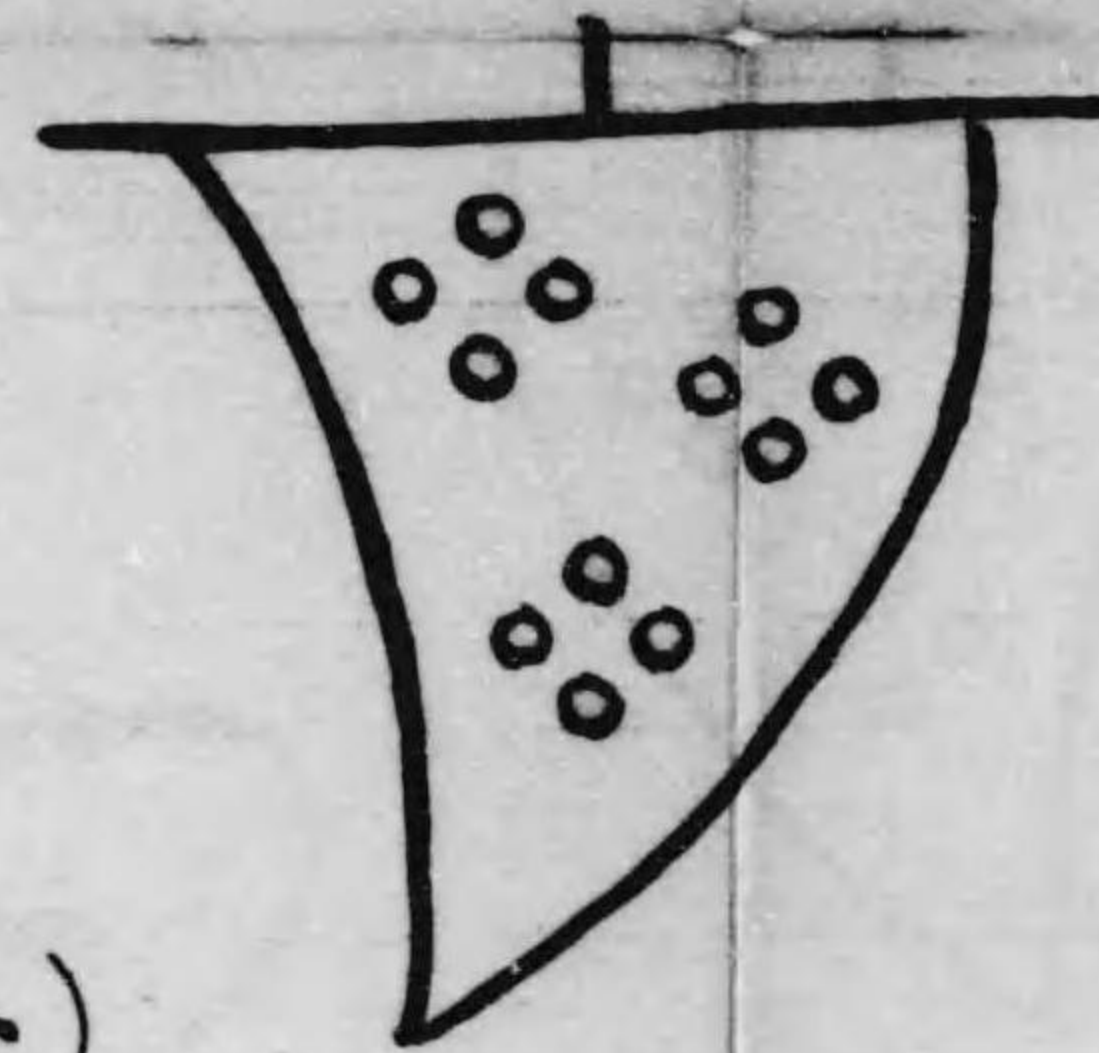
(イ)



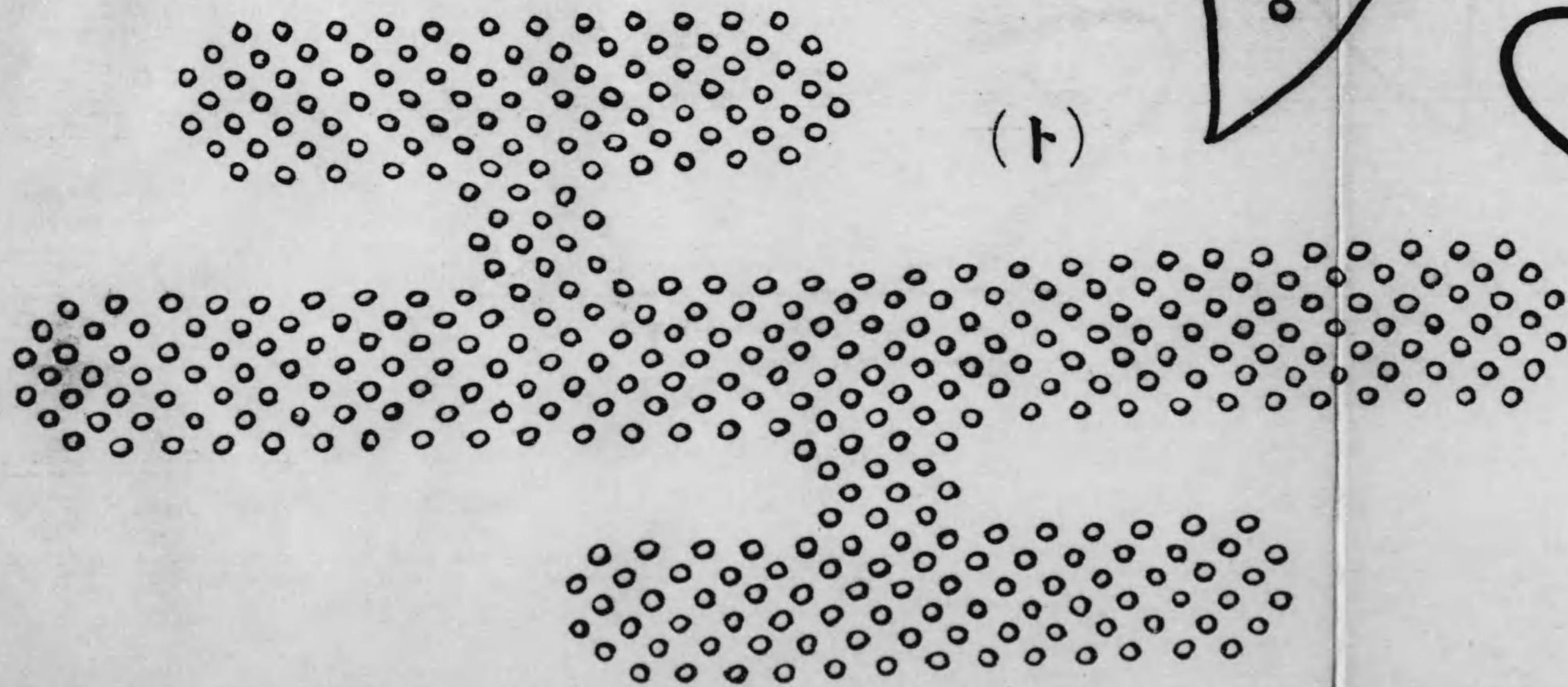
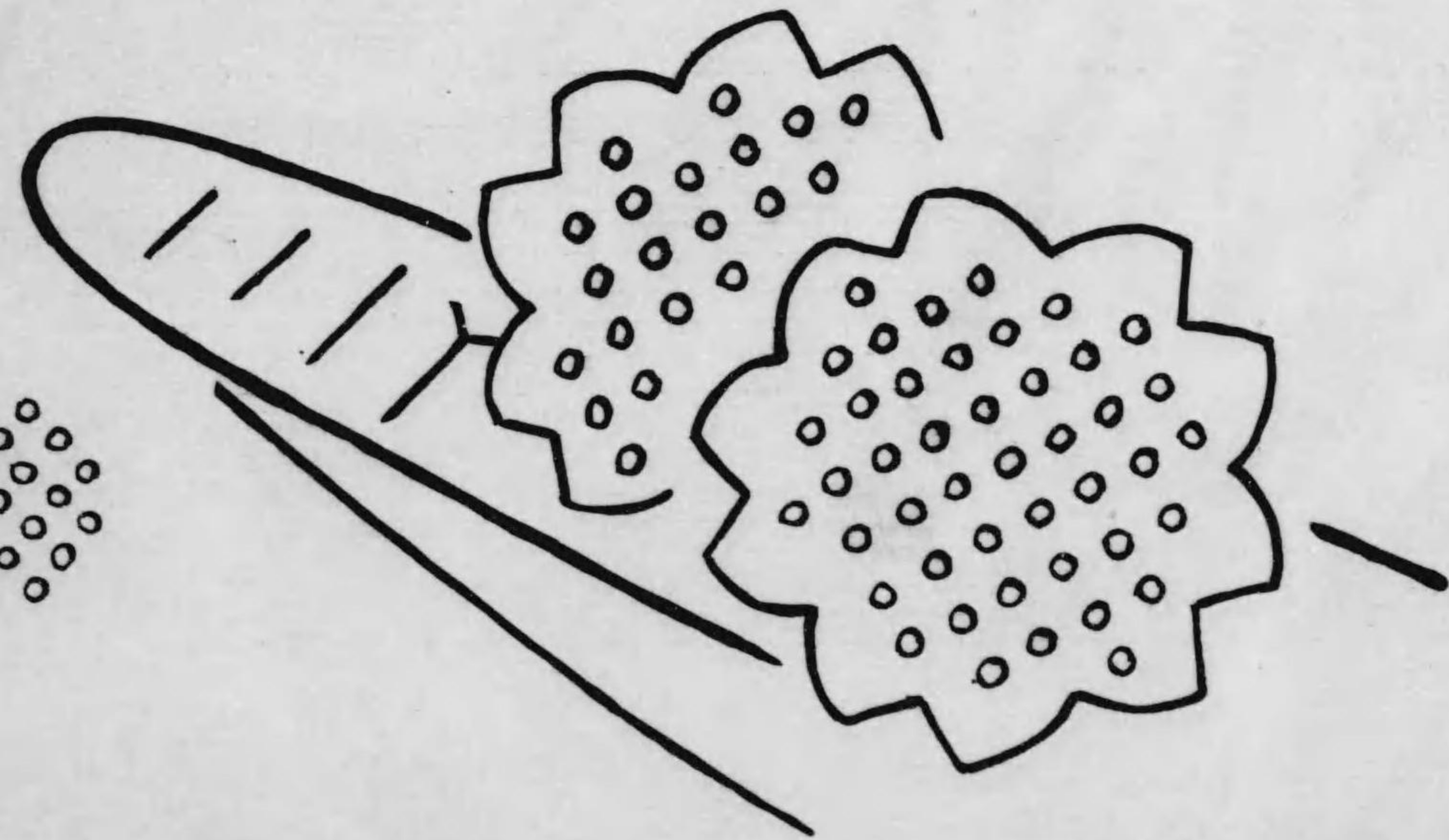
(シ)



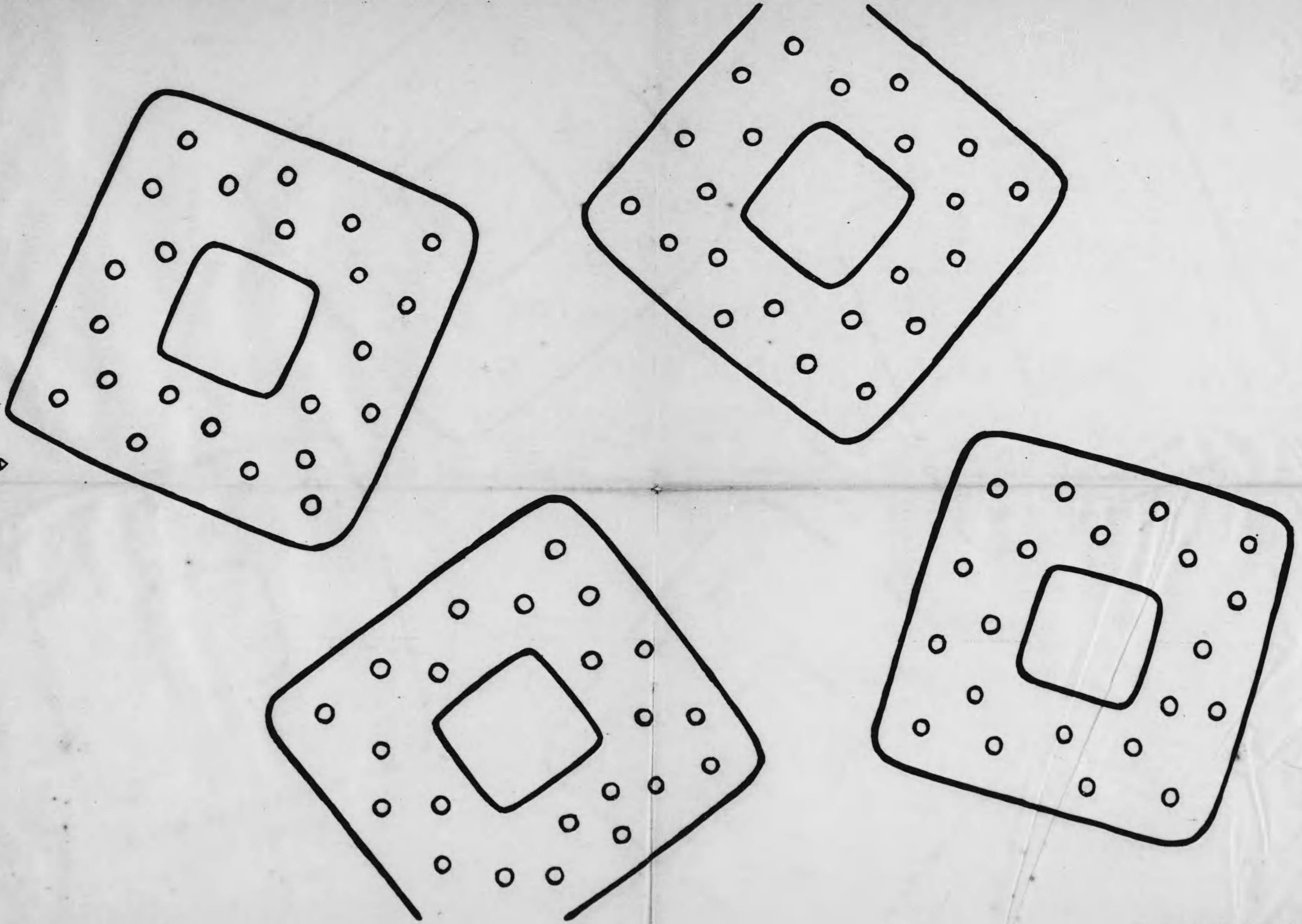
(ハ)

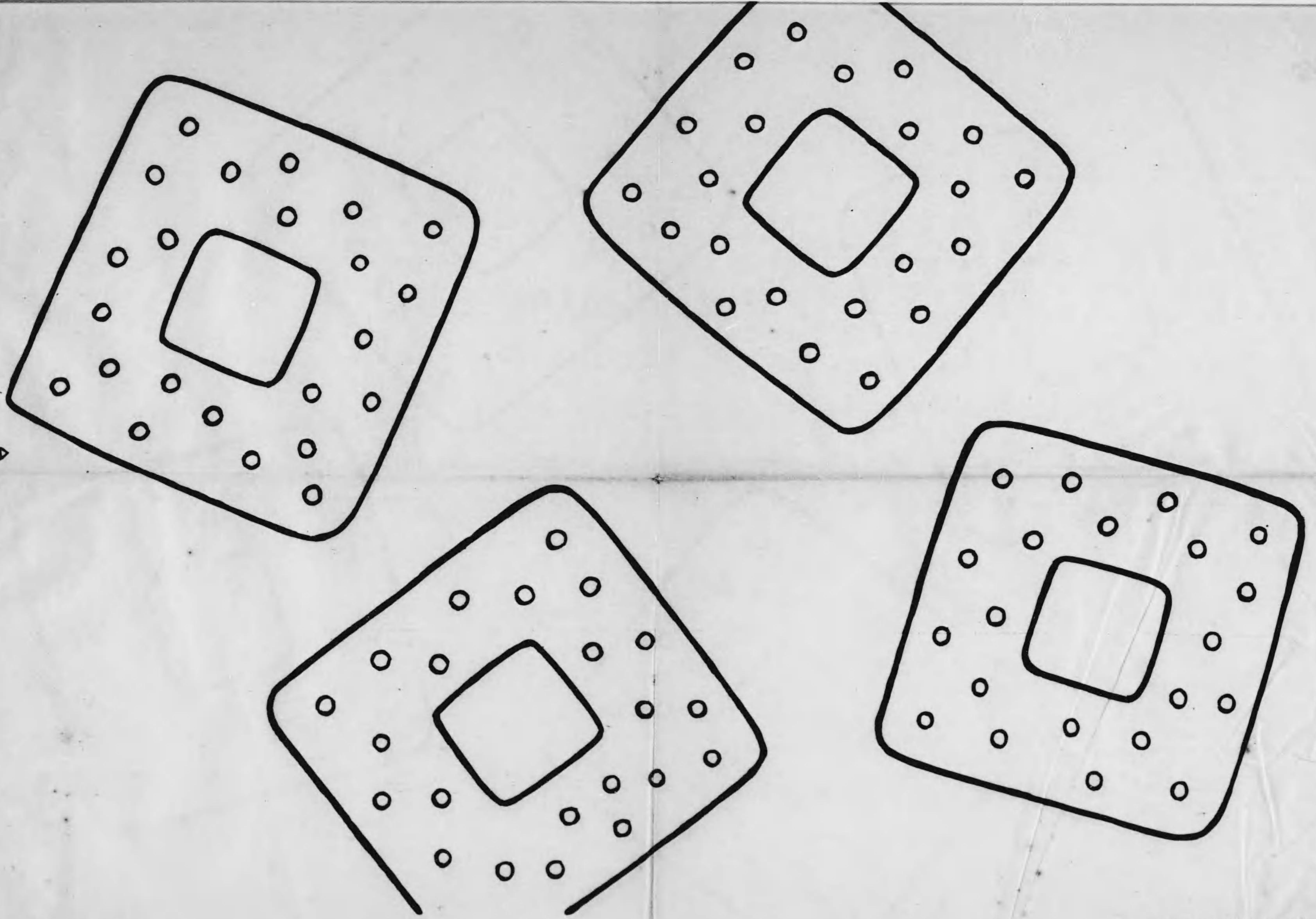


(ク)

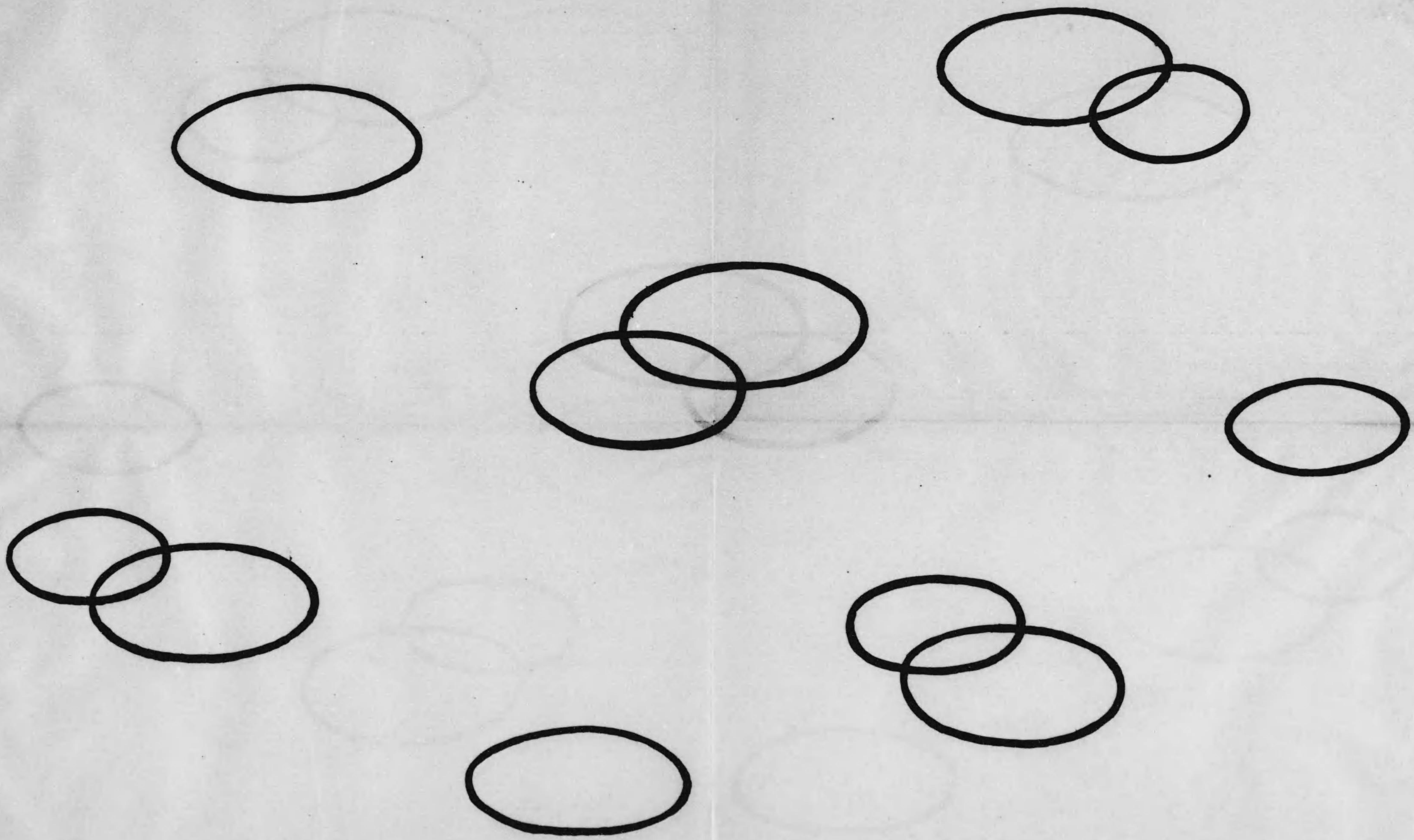


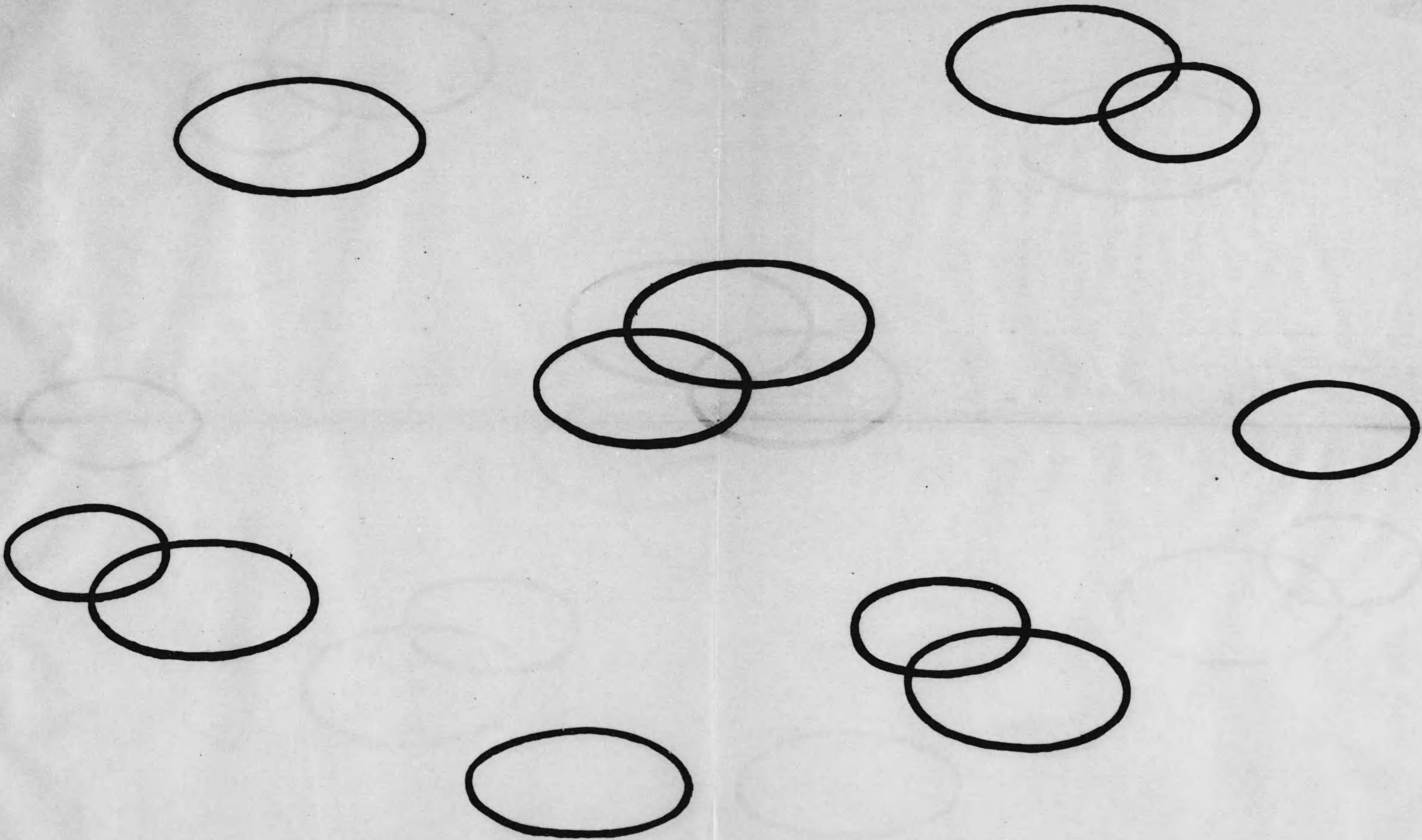
(ト)

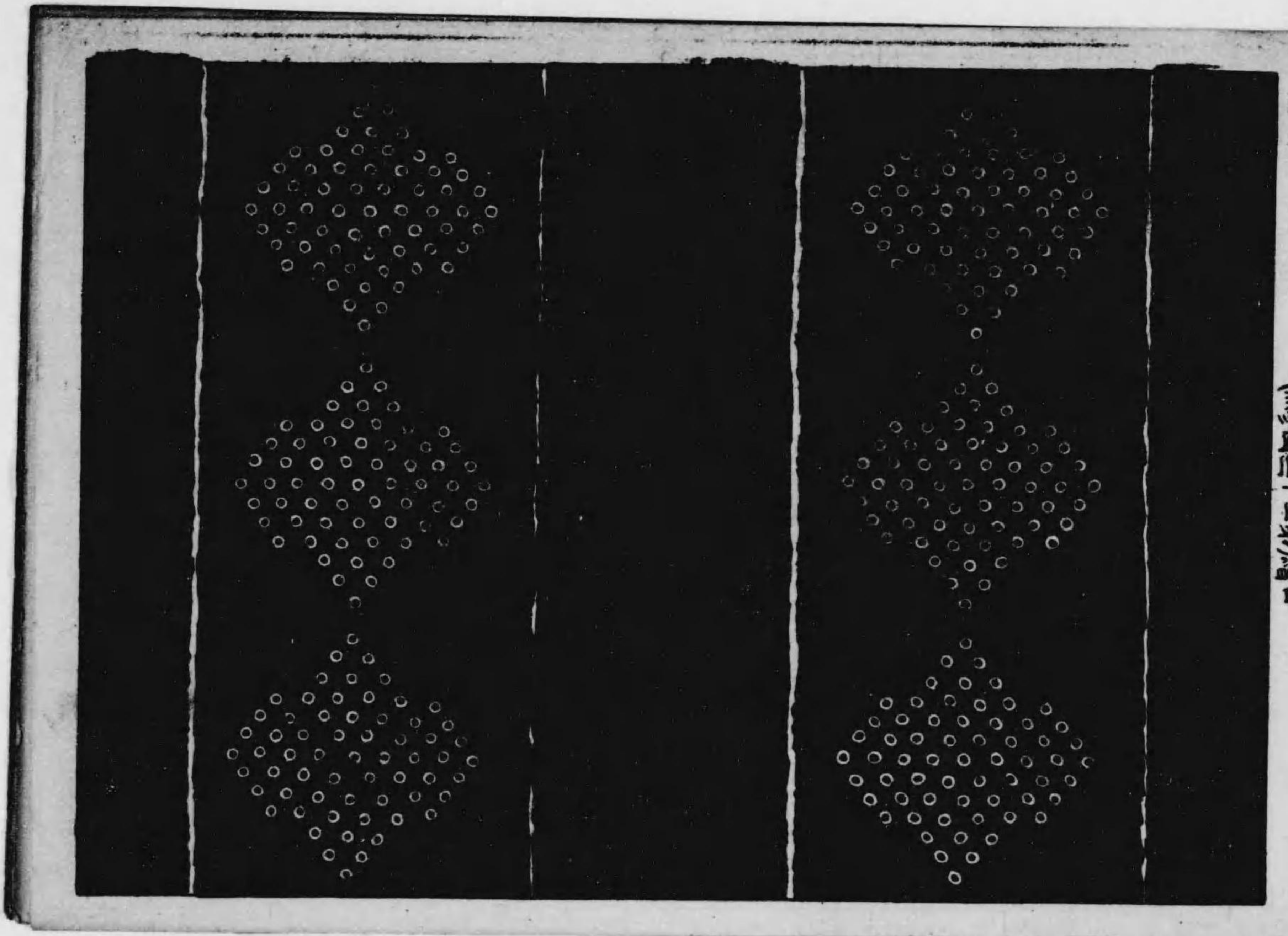




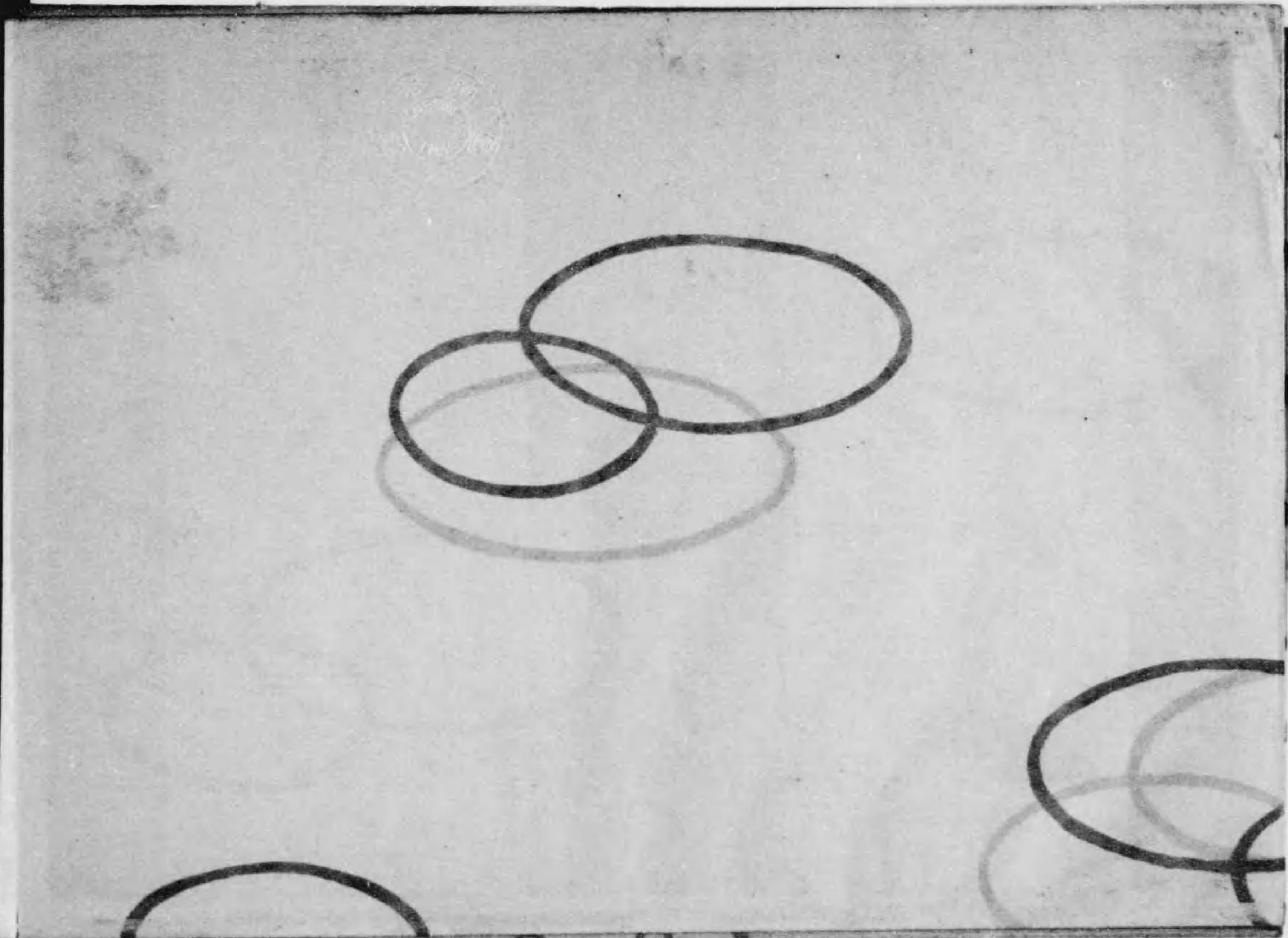
第貳拾五圖

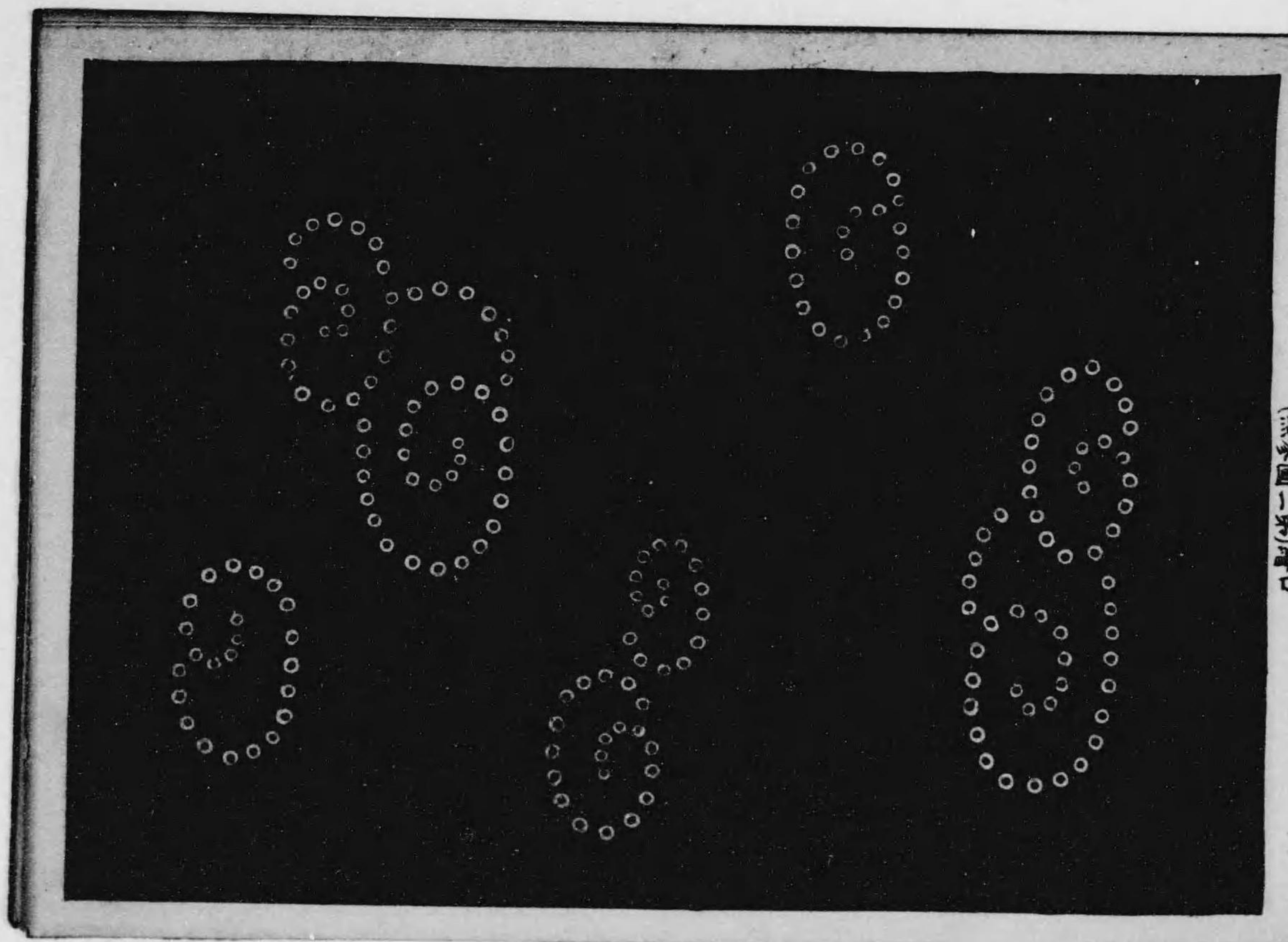




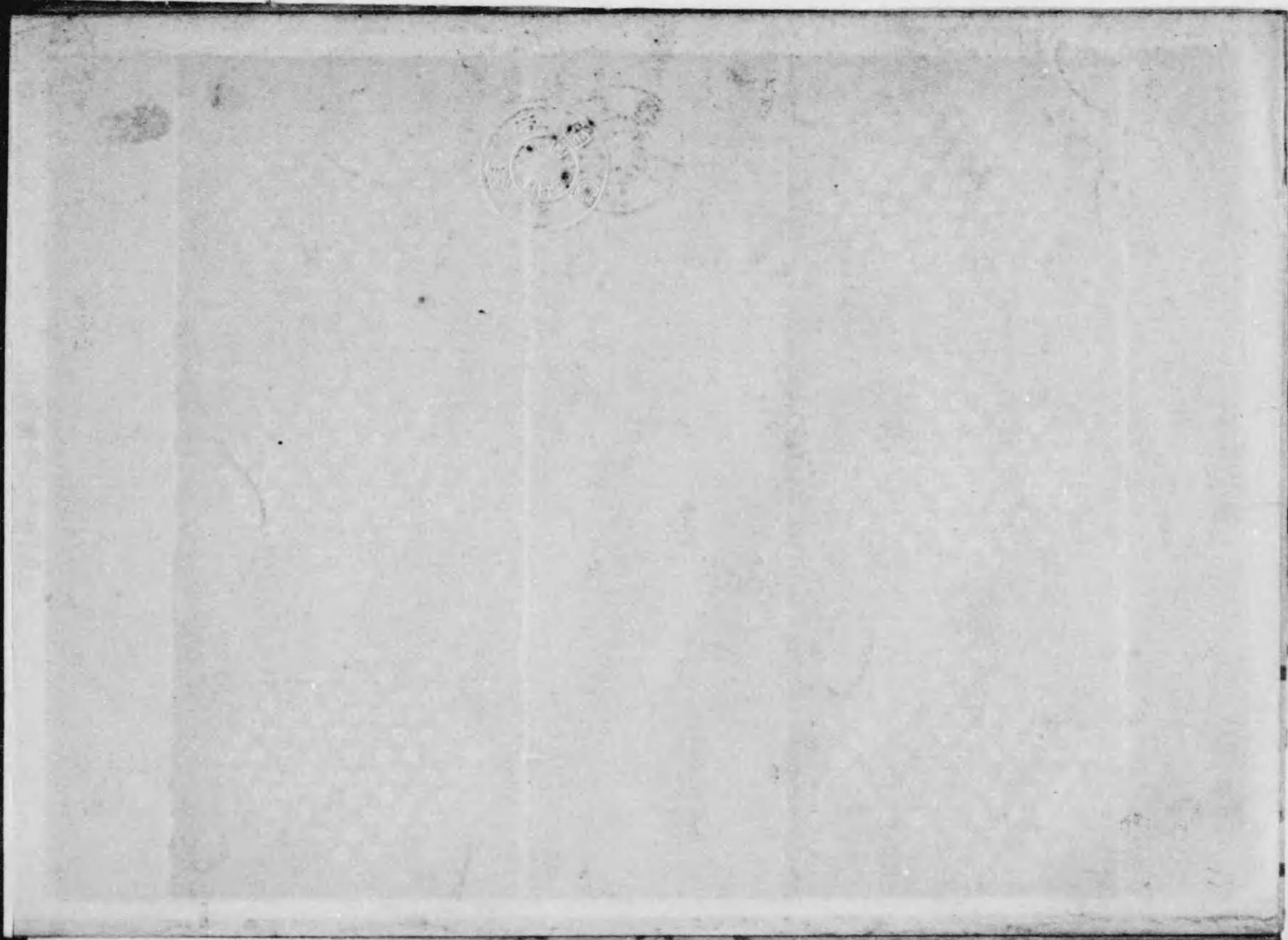


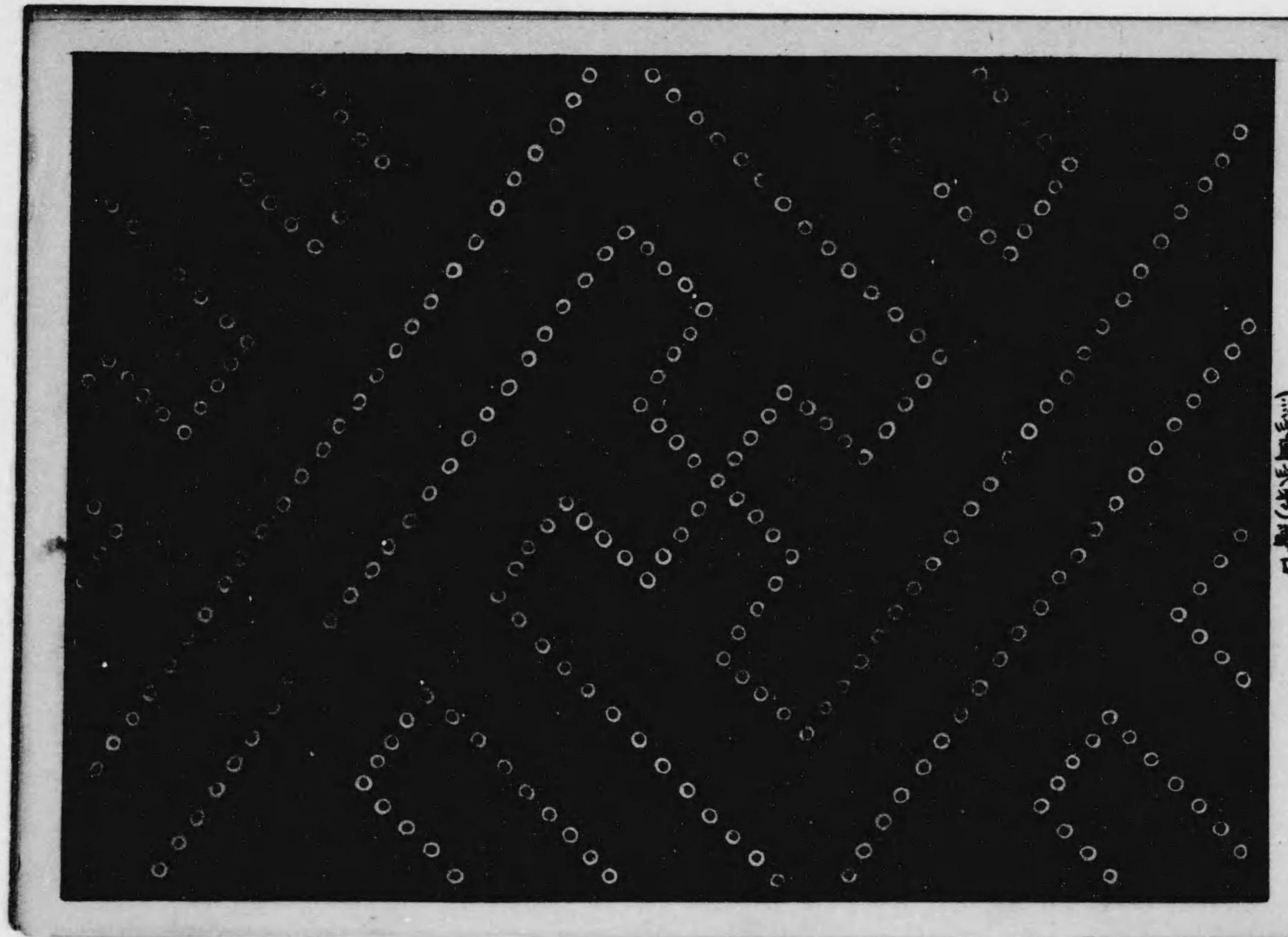
(照參圖三十二第)繪口



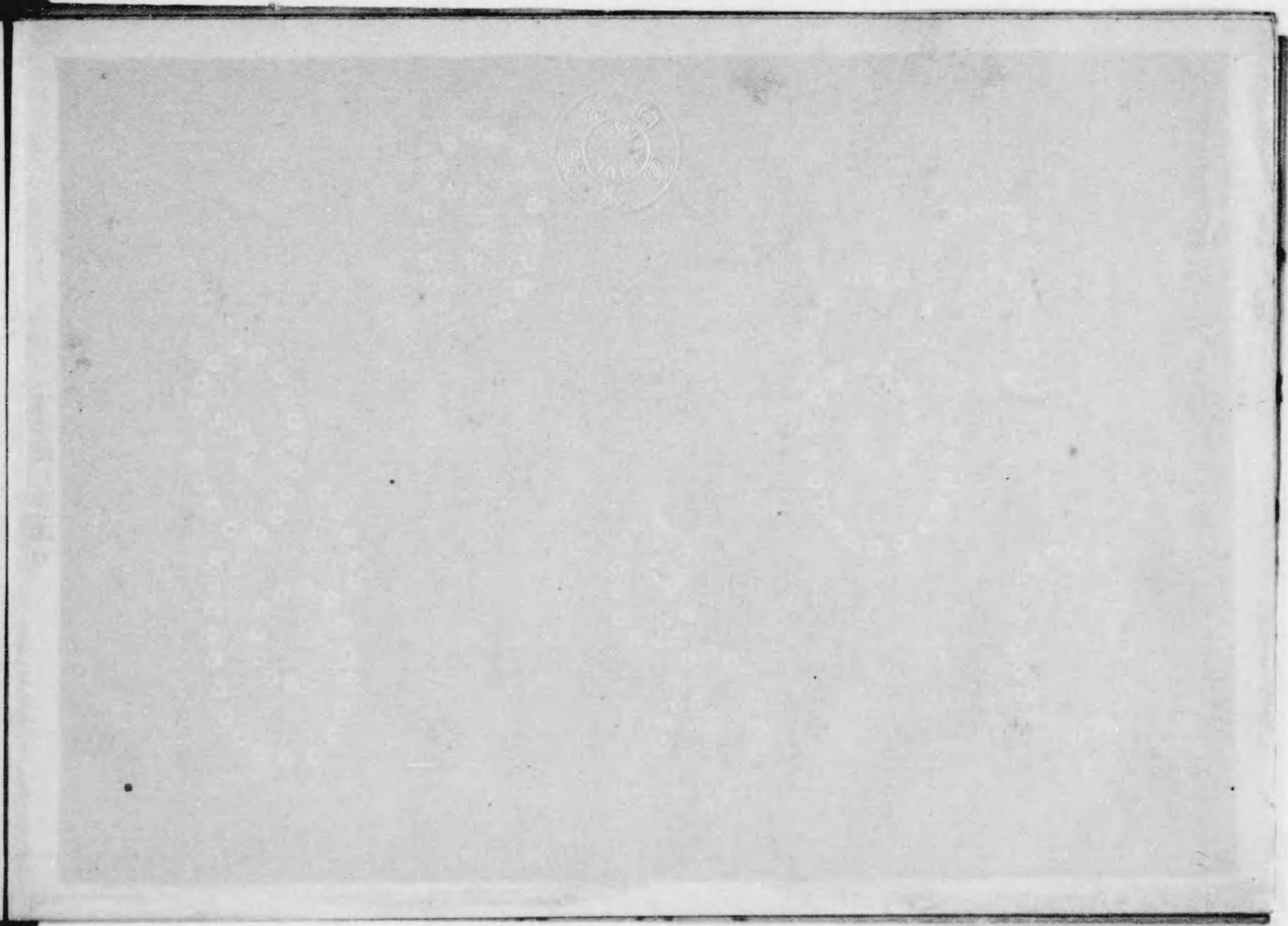


(照參圖二第)繪口



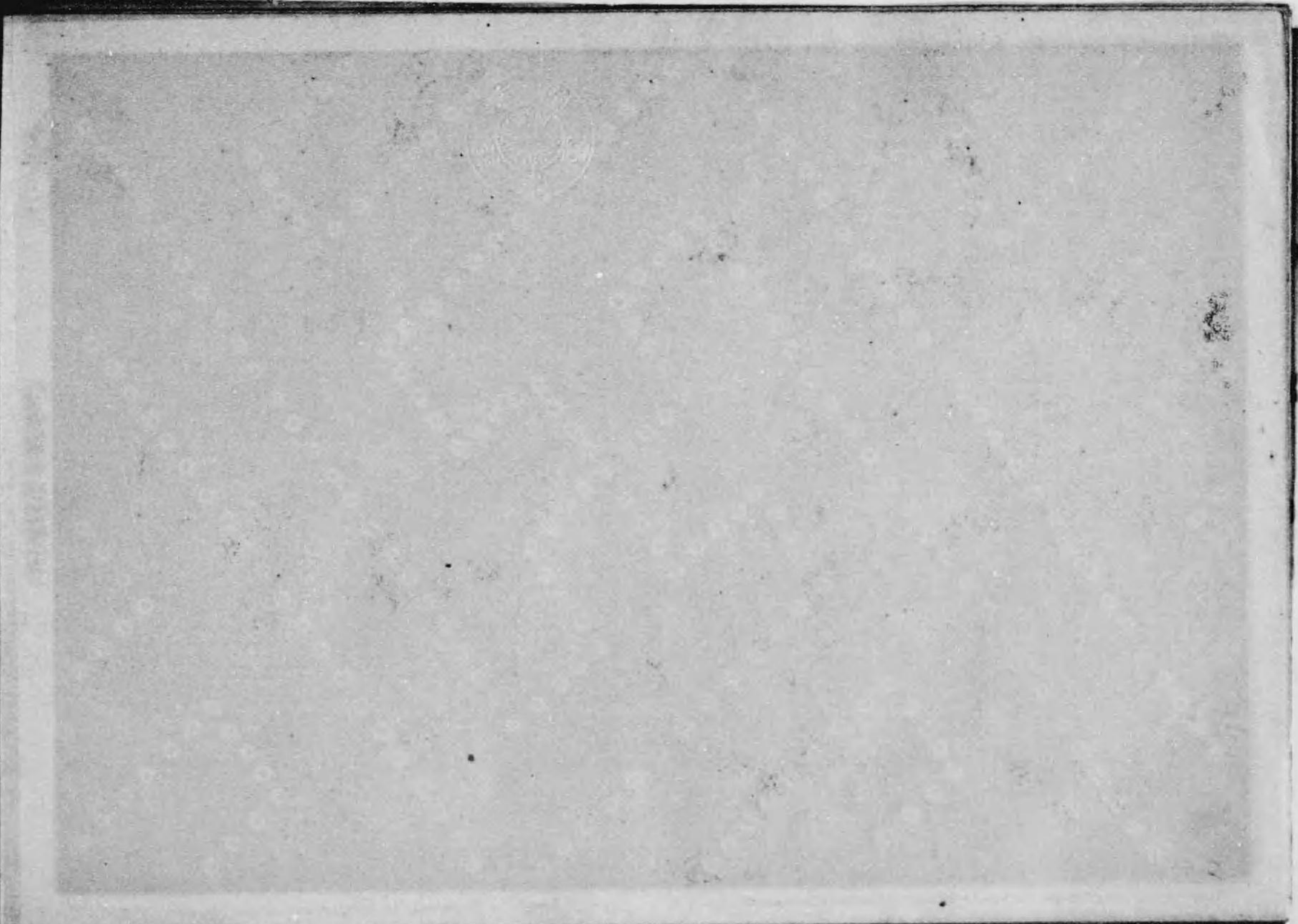


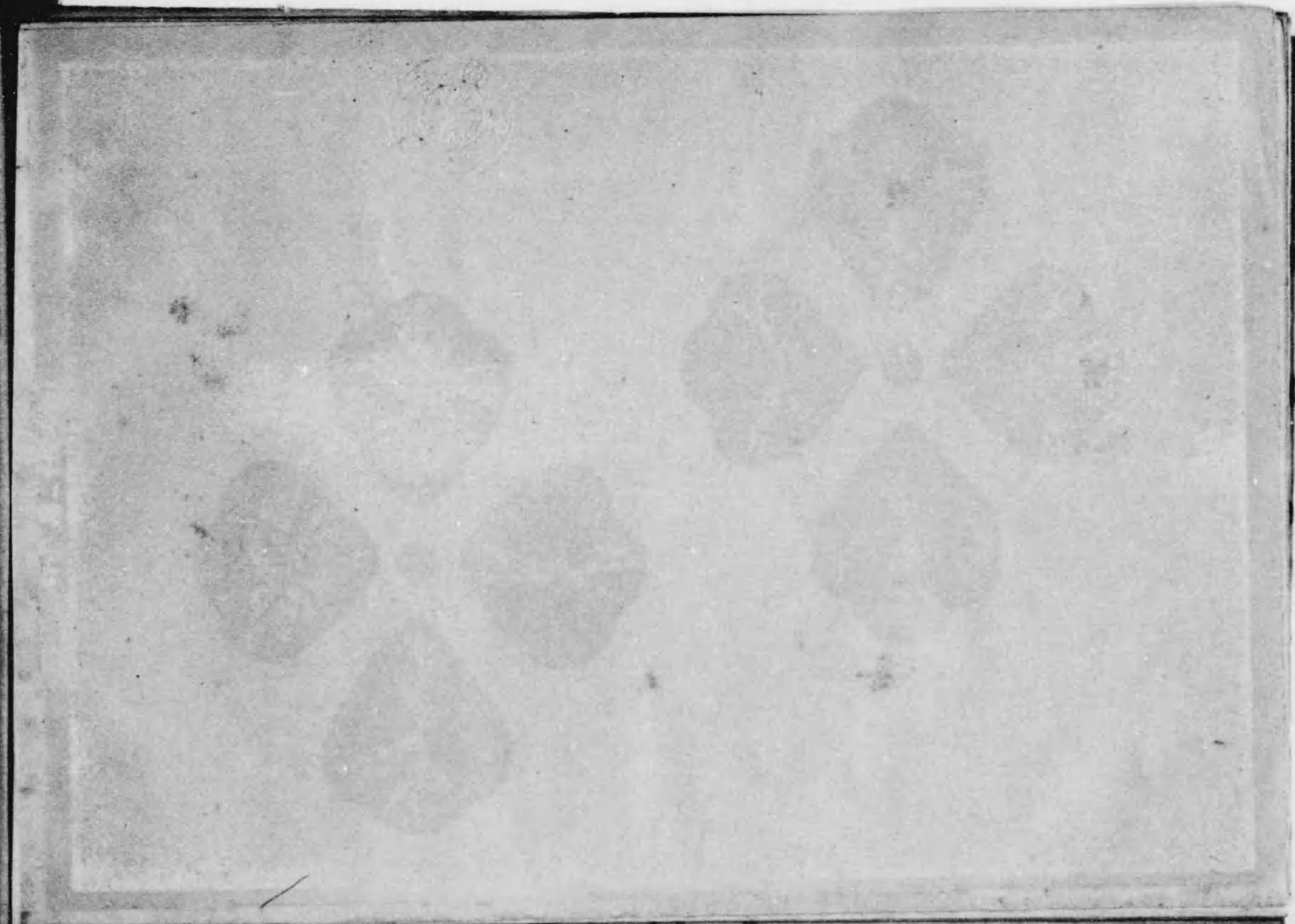
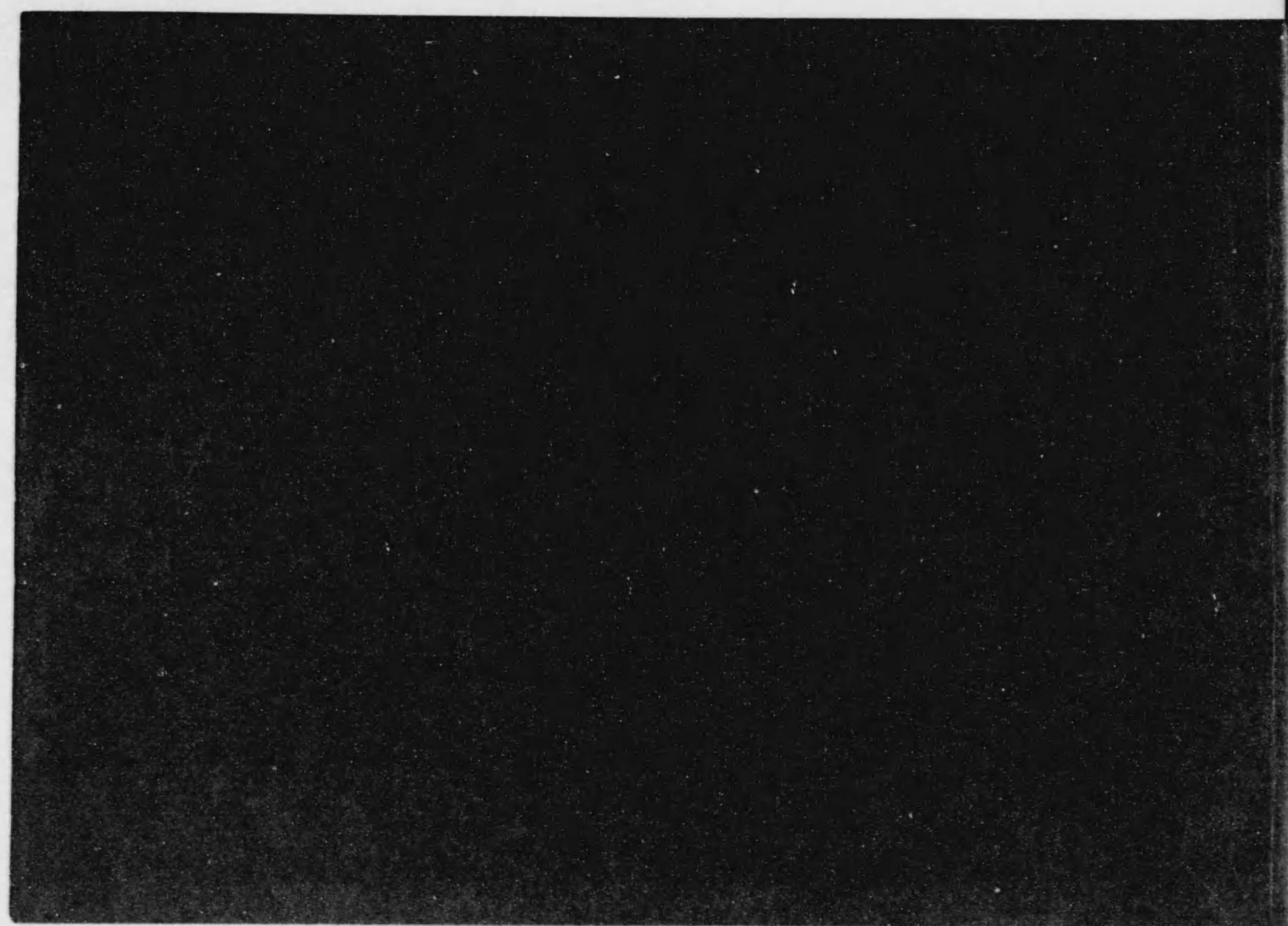
(照像圖表) 繪口

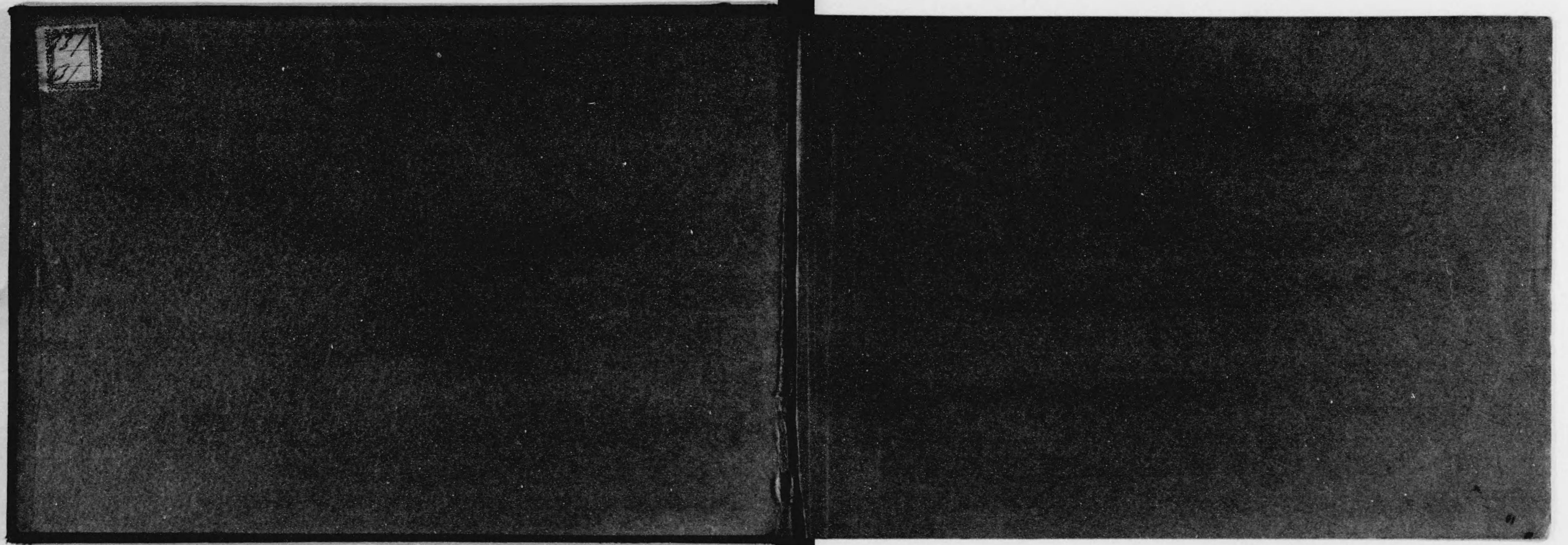




(照泰圖十二第)繪口







終